

* 武田先生と里山を歩こう会 4月28日(金) 10時～ 京都府立植物園

当日は快晴で気持ちの良い日でした。今回私にとって一番の大きな収穫はシャクヤクとボタンの違いをはっきり理解できたことです。

シャクヤクとボタンはどちらもボタン科の植物で、花の形状が似ていますが、いくつかの違いがあります。シャクヤクは多年草で、ボタンは落葉低木です。また、シャクヤクの葉は細長く、ツヤがありますが、ボタンの葉は大きく、ツヤがありません。開花時期も異なり、シャクヤクは初夏の5月～6月ごろが開花時期となっているのに対し、ボタンは晩春の4月～5月ごろに開花します。

温室ではフクシア展が開催されていて、たくさんの種類のフクシアを見ることができました。フクシアは南アメリカ原産の植物で、花の色は赤やピンク、白などがありました。

その他 セイヨウシャクナゲ、ヒメウツギ、クリスマスローズ、ナデシコなど観察・観賞でき充実した一日でした。

イリタ

** 注意 内容の一部 google bard AI, Microsoft bing AI を参考にしました。

2023/4/28京都府立植物園

1	カカオ(写真④⑦)	アオイ科	カカオ属	常緑中高木 標高300mの丘陵地に自生 花(幹生花 3cmの白い花) 果実(6か月で熟す 幹生果) カカオ豆(食用・薬用・貨幣)
2	サキシマスオウノキ(写真56)	アオイ科	サキシマスオウノキ属	常緑高木 亜熱帯地域に生育 板根を発達させる木(根の高さ2mにもなる) 根(船の舵に利用した) 西表島に樹齢400年3.1mの板根を持つ巨木がある
3	サイコトリア ベビギアナ (写真51)	アカネ科	ポチヨウジ属	低木 中南米原産 熱帯雨林に自生 別名ホットリップス 花に見えるのは苞が変化したもの 花(苞の中央から白・黄色の5弁花が咲く 虫媒花) 薬用
4	フクシア(写真②~⑩)	アカバナ科	フクシア属	低木 フクシアは属名で100種ほどの原種からなる 3000品種もある栽培品種 花(細い萼と幅広い花弁が下向きに付く) 「貴婦人のイヤリング」 暑さ寒さに弱い
5	ヒメウツギ(写真④)	アジサイ科	ウツギ属	落葉低木 樹高20~60cm 日本固有種 背が高くない匍匐性のウツギ 葉(細く鋸歯あり) 花(白い花を下向きに密に付ける 雄蕊の花糸が人間が両手を広げた形になるのが特徴)
6	ジャーマンアヤメ(写真②③)	アヤメ科	アヤメ属	多年草 ヨーロッパ原産 草丈20~100cm 別名ジャーマンアイリス アヤメ属の植物を交雑して作ったもの 野生のものはない 非常に多くの品種がある 花卉の付け根近くに毛が密生
7	オウゴンホテイ(黄金布袋竹)	イネ科	マダケ属	常緑タケ類 中国長江流域原産 稈(直径2~5cm 下部が布袋様の腹のように膨れ上がる 黄金色になる)
8	アリストロキア アルボレア	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ属	常緑低木 中央アメリカ原産 熱帯雨林に自生 葉(20~35cm 幅4~15cm 先端尖る) 花(上部が赤茶色で下部が白色で株元に付く幹生花 長さ7cm程の頭巾のような形)
9	アリストロキア サルバドレンス	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ属	中米原産 花(1個の花の寿命は約1週間 地際に発生した花茎が長期に渡って伸長し花を1個ずつ付ける)
10	アリマウマノスズクサ	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ属	つる性多年草 別名ホソバウマノスズクサ 花(花弁がなくラッパ状の萼筒 広がった部分が紫褐色 萼筒内部が黄色) ジャコウアゲハの食草 有毒植物 六甲山地だけに見られる植物
11	ペリカンバナ(写真⑬⑭)	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ属	つる常緑小低木 中米原産 茎(長さ6~9m) 葉(広心臓形 長い柄) 花(30cm程 萼が変形した展開部は暗紫褐色 白色の脈状斑) 有毒植物 虫媒花
12	ウスバサイシン	ウマノスズクサ科	カンアオイ属	多年草 ゆっくり成長する植物 葉(薄くて2枚でハート形) 花(1個 壺状 暗紫色の花弁に見えるのは萼) 種子(カタクリやスマミレのように罐に運ばせる そのために地上近くに花が咲く) 生薬
13	ノアザミ	キク科	アザミ属	多年草 草丈60~100cm 日本固有種 葉(深く切れ込み茎を抱く 鋸歯の先は棘) 花(全てが筒状花 上向きに付く) 山菜・生薬
14	アマドコロ	キジカクシ科	アマドコロ属	多年草 地下茎がヤマイモの1種の「ところ」に似るが甘いことからの名 茎(多角形) 花(2個ずつぶら下げ先がつに裂ける 4~6月開花) 食用・生薬
15	ナルコユリ	キジカクシ科	アマドコロ属	多年草 花の並んだ姿が「鳴子」に似ることからの名 茎(丸い) 葉(笹の葉の形 裏ざらつく) 花(3~5個 アマドコロより1か月遅い) 実(毒性あり) 食用・生薬
16	マイズルソウ	キジカクシ科	マイズルソウ属	多年草 山野草 草丈10~20cm 葉の模様が家紋の舞鶴紋に似ることからの名 葉(ハート型 毛無し) 花(白色) 実(ガラス玉のように赤く透き通る)
17	オダマキ	キンポウゲ科	オダマキ属	本属の植物の総称 多年草 草丈20~50cm 日本で数種自生(ミヤマオダマキ・ヤマオダマキなど) たくさんの園芸品種有り(セイヨウオダマキ) 葉(3出複葉) 花(距が王冠のような形)
18	クリスマスローズ	キンポウゲ科	クリスマスローズ属	多年草 草丈10~50cm 園芸種 品種改良が行われ優れた花が多数誕生している
19	クレマチス	キンポウゲ科	センニンソウ属	センニンソウ属のつる性多年草のうち花が大きくて観賞価値の高い品種の総称 世界に約300種の原種 日本には20種類が自生
20	インドボタイジュ	クワ科	イチジク属	常緑高木 葉(15~18cm 先端が細長く伸びて尾状になる) 花(花囊の中で外からは見えない) 仏教三聖樹の一つ(釈迦が悟りを開いた所にあった) 仏教発祥の地インドの国花 日本ではシナノキ科のボタイジュが植えられことが多い
21	ハウガンノキ	サカリバナ科	ハウガンノキ属	落葉高木 中南米原産 花(6弁の幹生花を多数咲かす 内側が赤 外側が薄黄色 蝙蝠を呼び受精 1日花) 果実(茶褐色の球形の幹生果 12~25cm)
22	ウラシマソウ	サトイモ科	テンナンショウ属	多年草 草丈30~80cm 日本固有種 葉(1~2枚 鳥足状に切れ込む) 花(肉穂花序) 付属体(肉穂花序の先端に付く 釣り糸状に長く伸長する) 性転換する植物(小型が雄性 大型が雌性に) 毒草
23	ムサシアブミ	サトイモ科	テンナンショウ属	多年草 草丈20~50cm 雌雄異株 古武士が乗る馬に付ける鏝に似ることからの名 葉(3出複葉) 仏炎苞(白い筋の入った暗紫色か緑白色) 実(赤いトモロコシのよう)
24	キランソウ	シン科	キランソウ属	多年草 別名ジゴクノカマノフタ(様々な病気に対して薬草で地獄に落ちない、地獄の釜に蓋をする) 全体に縮れた毛 花(唇形 濃紫色・ピンク色)
25	シライトソウ	シュロソウ科	シライトソウ属	多年草 山野草 草丈20~50cm 糸くずを束ねたようなブラシのような花の姿からの名 花(白色 10~20cmの穂状花序)
25	ウサギゴケ(写真⑩)	タヌキモ科	タヌキモ属	常緑多年草 湿地に生える食虫植物(根にある捕虫袋でプランクトンなどを捕らえる) 南アフリカ固有種 花(5~8mm ウサギの顔)

26	イチゴノキ	ツツジ科	イチゴノキ属	常緑低木 地中海沿岸原産 イチゴのような果実が付くことからの名 葉(濃緑色 艶あり 鋸歯あり) 花(白・ピンク色 ドウダンツツジに似た鐘形の花) 果実(赤色 1~2cm 1年かけて成熟)
27	アメリカイワナンテン	ツツジ科	イワナンテン属	常緑低木 北アメリカ原産 樹高0.5~1.5m 枝(弓状に伸びる) 葉(厚く光沢あり) 花(壺型の白い小花を房状に付ける)
28	セイヨウシャクナゲ	ツツジ科	ツツジ属	野生品種を西欧で育成改良を加えた園芸種の総称 常緑低木~中高木 花(赤・紫・ピンク・白・黄色と多彩で豪華な花を枝先に付ける) 葉(厚く光沢あり)
30	ニワウルシ	ニガキ科	ニワウルシ属	落葉高木 中国原産 別名シンジュ ウルシとつくが全くの別種 雌雄異株 爆発的な繁殖力を持ちアレロパシー効果で周りで他の植物が育ちにくい
31	ソーセージノキ	ノウゼンカズラ科	ソーセージノキ属	落葉高木 アフリカ原産 花(下垂して8cm程の内側に暗赤色の花を夜咲かせる 蝙蝠が媒介) 果実(長さ30~50cm 直径10cmのソーセージそっくりの果実を垂らす) 薬用
32	カマカツ	バラ科	カマカツ属	落葉小高木 材を鎌の柄に用いたことからの名 別名ウシゴロシ 葉(卵形 先に行くほど幅が広がる) 花(小さな丸い5弁花が5~20輪付く)
33	サラノキ(写真⑤)	フタバガキ科	サラノキ属	常緑高木 葉(長さ10~25cm 幅6~15cm) 花(5弁花で3cm程の淡黄色の花が密集して咲く 甘い芳香あり) 仏教三靈樹の一つ(釈迦がなくなった所にあった) インド原産
34	シャボチカバ	フトモモ科	ブリア属	常緑高木 ブラジル南部原産 花(白色の幹生花 蝙蝠が受粉) 果実(巨峰そっくりの暗紫色で球形の幹生果 2.5~3.5cm 生食可)
35	イチイガシ	ブナ科	コナラ属	常緑高木 樹皮(剥がれ落ちる特性) 葉(上半分に鋸歯あり 裏面一面に黄褐色の星状毛) 雌雄同株 ドングリ(アク抜きなしで食用可) 神社に植栽されることが多い
36	シャクヤク	ボタン科	ボタン属	多年草 アジア大陸北東部原産 草丈60cm 葉(互生 艶あり 切れ込みがない) 花(5月 茎頂に1個 蕾丸くきれいな球形 5月~6月開花) ボタンの台木に使用 「花の宰相」 生薬
37	ボタン	ボタン科	ボタン属	落葉小低木 樹高1~1.5m 中国西北部原産 幹(直立) 葉(1回3出羽状分裂 艶なし 切れ込みがある) 花(4月 大型で1個 蕾やや先端が尖る 4月~5月開花) 「花の王」 生薬
38	シマモミ	マツ科	ユサン属	常緑針葉高木 樹高30~40m 別名ユサン・アブラスキ 台湾固有種 低山に生育 葉(扁平な線形 2~4cm) 果実(20~45cm 上向きに付く) 根(精油) 種(墨・薬用)
39	ムユウジュ(写真5253)	マメ科	サラカ属	常緑小高木 花(花弁は退化して萼が花の様) 仏教三靈樹の一つ(釈迦が生まれた所にあった) インドでは幸福の木とされる
40	フユザンショウ	ミカン科	サンショウ属	常緑低木 冬でも葉を落とさないことからの名 樹皮(体制の棘あり) 葉(奇数羽状複葉 互生 葉柄に棘あり) 雌雄異株(日本には雌株のみ) サンショウの接ぎ木の台木に使用
41	キュウリグサ	ムラサキ科	キュウリグサ属	越年草 草丈15~30cm 葉を揉むとキュウリのような匂いがすることからの名 葉(根元の葉はスプーン型 上の葉は細長い卵型) 花(小さな5弁花で淡青紫色 サンリ型花序)
42	ハッカクレン (八角蓮)	メギ科	ハッカクレン属	多年草 山野草 台湾・中国原産 草丈50~100cm 茎(葉の中心に付く) 葉(太い茎の先端に7~9裂の葉を2枚付ける) 花(赤紫・白色 茎の途中に数輪垂れ下がる) 生薬
43	フツクレーメギ(写真⑧⑨)	メギ科	メギ属	落葉低木 和名の「目木」は茎や根を煎じて洗眼薬に使用されたことからの名 叢生する枝・黄色い花・赤い果実・紅葉と1年通じて鑑賞できる 枝(鋭い棘)
44	オガタマノキ	モクレン科	モクレン属	モクレン科植物のなかでは唯一の常緑高木 神社に植栽
45	金葉含笑(写真⑩⑪)	モクレン科	モクレン属	中国産 栽培品種
46	マグノリアマクラフィア	モクレン科	モクレン属	マグノリアの栽培品種
47	ミケリアフルゲンス	モクレン科	モクレン属	マグノリアの栽培品種
48	メルルマグノリア	モクレン科	モクレン属	落葉低木 花(白色 最大15個の花被片が広がり最大10cmになる大きな花が魅力の園芸種)
49	ゼルミラ	ユリ科	ユリ属	球根植物 草丈0.8~1m
50	シラン(写真⑫)	ラン科	シラン属	多年草 草丈40~70cm 日向の草原に自生 ラン科としては異例に発芽しやすい 花(赤紫・ピンク・白色)
51	セッコク	ラン科	セッコク属	多年草 山野草 着生植物 草丈5~25cm テンドロビウムの1種 花(白・ピンク色) 「長生蘭」の名で古典園芸植物として親しまれている
52	バニラ(写真54)	ラン科	バニラ属	常緑つる性植物 中米原産 花(寿命8時間ほど 虫媒花) 果実(約6週間で長さ30cmの細長い果実になる) 高価な香料

マグノリア モクレン科の総称 分布：日本・ヒマラヤ・マレーシア・北アメリカ・熱帯アメリカ 花と香りの魅力

多数の雄蕊と雌蕊が科軸にらせん状に付く

シモクレン・ハクモクレン・コブシ・サラサモクレン・タイサンボク・ホウノキ・オオヤマレンゲ・オガタマノキ・カラタネオガタマ
タムシバ・シデコブシなど多数

2023年4月28日京都府立植物園



①京都府立植物園入口



② ジャーマンアイリス



③ ジャーマンアイリス



④ ヒメウツギ



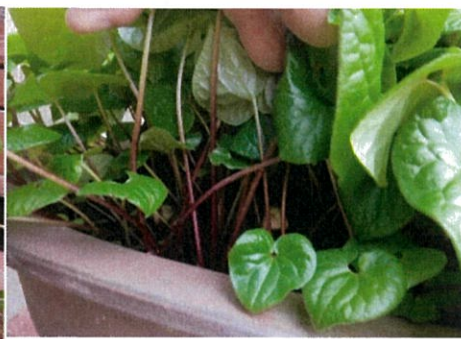
⑤



⑥山野展



⑦フタバアオイ



⑧フタバアオイの花芽



⑨ウラシマンソウ



⑩シラン



⑪アメリカワナン



⑫シャクヤク



⑬シャクヤク



⑭ボタン



⑮ボタン



⑯ミケリア 金葉含笑



⑰ミケリア



⑱セイヨウシャクヤク



⑲セイヨウシャクヤク



⑳セイヨウシャクヤク



㉑セイヨウシャクヤク



㉒セイヨウシャクヤク



㉓セイヨウシャクヤク



㉔バラ



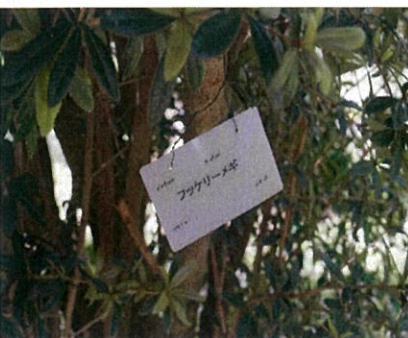
㉕バラ



㉖バラ



㉗ヤマガラ



㉘フックリーメギ



㉙フックリーメギ



㉚ウサギゴケ



③① 温室



③② フクシア



③③ フクシア



③④ フクシア



③⑤ フクシア



③⑥ フクシア



③⑦ フクシア



③⑧ フクシア



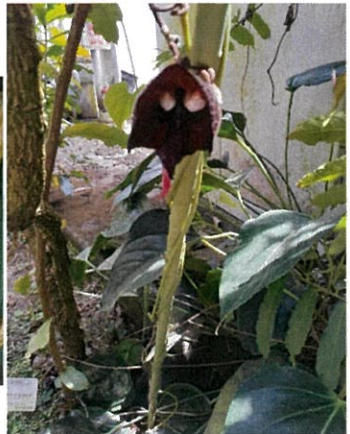
③⑨



④⑩ フクシア



④⑪ アリストロキア・トリカウダタ→④⑫



④⑬ ペリカンバナ



④⑭ ペリカンバナ



④⑮ サラノキ



④6カカオ



④7カカオ



④8サボテン



④9高山植物展示室



⑤0高山植物展示室



51サイコトリア



52ムコウジュ



53



54バニラ



55温室



56サキシマスオウノキ →



57温室





越間さん

2023年(令和)



八田さんと野村さん →

2023年(令和5年)3月26日(日)

祝 ご卒業おめでとうございます

4/28 京都府立植物園

ミケリクマバグーダ



五葉含美

ミケリクマバグーダ



ミケリクマバグーダ
ミケリクマバグーダ
ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ



ミケリクマバグーダ



ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ



ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ



ミケリクマバグーダ



ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ



ミケリクマバグーダ



ミケリクマバグーダ



ミケリクマバグーダ



ミケリクマバグーダ



ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ



ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ

ミケリクマバグーダ





京都府立植物園	漢字	花・実	その他	特徴
4月28日	快晴		黄色写真あり	など
1	ドイツアヤメ	黄色		
2	シラン	白		
3	カリフォルニア		セリ科 香りが良い 葉はゴムの木のよう	
4	カリフォルニア	白	セリ科 香りが良い	
5	アックリーメダ			
6	オウゴン			
7	アムニ	白		
8	アムニ			
9	アムニ		どんぐりあく抜き不要	
10	シャクナゲ	赤		
11	西洋シャクナゲ	ピンク		
12	ヒメウツギ	白		
13	ニイタカカツカ	白		
14	アムニ	赤	アムニ 展示会	
15	アムニ	ピンク		
16	アムニ	青	アムニ	
17	アムニ			
18	アムニ		分厚い葉 ケツ 住と同じサイモ科	
19	ホウガンノ木	実		
20	アムニ	オレンジ	お釈迦様の木	
21	サラノキ		仏教3霊樹	
22	ブルーベリー	青	ブルーベリー	
23	アムニ	実	フトモモ科 プラジール	
24	アムニ	オレンジ	アムニ	
25	カカオ	実		
26	アムニ	ラン		
27	カレマ・バイン	南洋杉	ジュファクガク 世界最古の種子植物	
28				
29				
30				
31			アムニとクワズイモは、どちらもサイモ科の植物ですが、見た目や性質に違いがあります。アムニは花が特徴的で、仏教と呼ばれる色鮮やかな花と、その中央に伸びる花穂からなります。赤やピンク、白など様々な色があり、花言葉は「熱烈な恋」「愛情」などです。クワズイモは葉が特徴的で、大きくて扇形の葉を持ちます。葉は厚くて太く、地上に群生する草を伸ばします。クワズイモの名前は「食わず草」の意味で、食べられないことからつけられました。毒性があるので、誤食に注意が必要です。	
32				
33			アムニはバラ科の常緑高木で日本原産の植物。葉は濃緑色の革質でこげった扇形形で、やや重なり互生する。5-6月ごろの散房花序をだし、白色の5弁花を咲かせる。葉には部分的に多く重なる子葉もある。2000	

作成：福田 貞男

左：春来る

右：春の訪れ

八田 佳子



← コマクサギ 太田 由紀子

篠山龍蔵寺のミツマタ →
太田 由紀子



放送大学 BS231

放送大学 スペシャル講演



未来をあきらめない化学
-地球という青いビー玉を守ろう-




未来をあきらめない化学 -地球という青いビー玉を守ろう-




大野 隆
放送大学 元兵庫学習センター所長
工学博士・神戸大学名誉教授

"Blue Marble" 青いビー玉
出典: NASA



元兵庫学習センター所長
工学博士・神戸大学名誉教授

- 神戸大学教育学部
- 神戸大学大学院理学研究科
- 大阪府立大学大学院工学研究科
- 神戸大学医療技術短期大学部
- 神戸大学農学部・農学研究科

BSラジオ BS231 非表示



武田先生と里山を歩こう会

【コース概要】

10:45 春日大社本殿バス停集合
(近鉄奈良駅からバスまたは徒歩)

11:00 萬葉植物園入園
途中、園外にて昼食
鹿 3 頭も姿を見せる

午後 再び萬葉植物園及び春日大社本殿

観察会后、本殿バス停前休憩所にて各自、甘味、麦酒 etc で、疲れを癒す。 当日、雲一つ無いほどの晴天下であり、帰宅前に涼しい場所で、皆で和やかな憩いのひとときを持てたのはとても良かった。

15:20 頃、春日大社本殿バス停前にて解散

記録者 三木朋子

実施日 2023 年 5 月 12 日(金)

天候 晴れ

行き先 奈良:春日大社萬葉植物園、本殿

参加人数 14 名

【観察できた植物・動物】 (は記録者の写真付き)

○カキツバタ

「いずれあやめかかきつばた」

古典と現代では、その指し示す植物も変遷しているようで、ややこしいのだが…

今の一般的な区別では

カキツバタ (アヤメ科アヤメ属)

花びらの付け根に白いすじ

アヤメ (アヤメ科アヤメ属)

花びらの付け根が網目模様

ハナショウブ (アヤメ科アヤメ属)

花びらの付け根に黄色い細長い模様



ショウブ (サトイモ科またはショウブ科)

端午の節句に風呂に菖蒲の葉を浮かべる

菖蒲湯の葉は、こちら →

cf. キショウブ (アヤメ科アヤメ属)

日本の侵略的外来種ファースト 100 指定種

外来生物法で要注意外来生物に指定



○ムラサキカタバミ

実がつかず、地下の鱗茎で増える
外来生物法で要注意外来生物に指定

○ヤマフジ(山藤)

ツルがZ巻(右巻き)
花穂が短い



参考：ヤマフジ

ノダフジ(野田藤)

ツルがS巻(左巻き)



参考：ノダフジ

○センダン(栴檀) 古名 :オウチ(棟)など

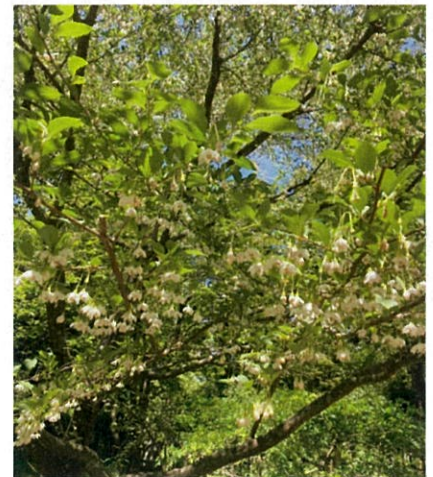
妹が見し 棟の花は 散りぬべし 我が泣く涙 いまだ干なくに
山上憶良 万葉集

「栴檀は双葉より芳し」の栴檀はビャクダンのこと
cf.ビャクダン(白檀)

東インドに分布する半寄生性の常緑小高木
お香や線香などに利用される

○エゴノキ

果実の皮にエゴサポニンという有毒物質が含まれる。
口に含むとエグみが残ることが名前の由来という。
石鯨の代用に使われた。
上流で実を潰して流すと魚が麻痺するのを利用する魚とりがあった
(現在禁止)。



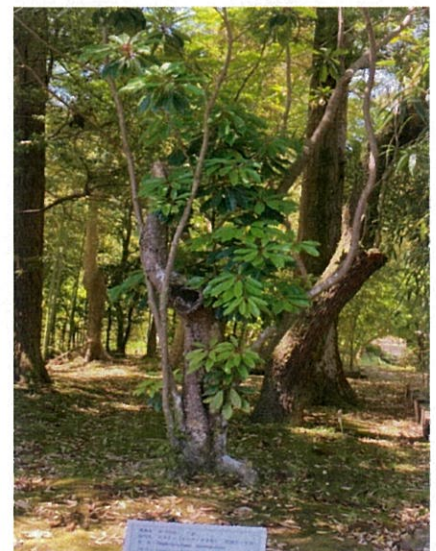
○ミツマタ

枝が三つに分かれる
和紙の原料
鹿が食さない

○ユズリハ

新しい葉が出たのを見届けるように古い葉が落ちる。

いにしへに 恋ふる鳥かも 弓弦葉(ゆづるは)の 御井(みい)の上より
鳴き渡り行く
弓削皇子が額田王に贈った歌



○ヤダケ

節が膨らまない
矢を作った

- マンリョウ(万両) サクラソウ科
- センリョウ(千両) センリョウ科
- カラタチバナ(百両) サクラソウ科
- ヤブコウジ・ヤマタチバナ(十両) サクラソウ科
- アノオシ(一両) アカネ科

全て赤い実の縁起物植物 「千両 万両 有り通し」



○サネカズラ 別名:ビナンカズラ(美男葛)

"サネ" 果実を意味する古語
"カズラ" 蔓性植物

樹皮や枝葉の粘液を整髪料にしたという。

(庭木図鑑 植木ペディア より)



○ムラサキ

野生ではほとんど見られない絶滅危惧種
古くは根を染料として利用

2023.5/30NHK 関西 newsweb によると、

「保護活動の現場などで、外来種との交雑が疑われるものを意図せず育てるおそれがあるとして、京都大学などのグループが交雑種かどうか見分ける手法の研究に乗り出すことに」なっただけらしい。



○オオムギ (barley) big wheat ではない

用途: 麦ごはん、味噌、醤油、ビール

コムギ (wheat)

用途: パン、麺類

粒や背丈の大きさと名付けられたのではないらしい。

一つの有力な説として、「(価値の)大なる麦」で大麦と名づけられた。

(サッポロビール・エビスマガジンより)

麦秋: 麦の取り入れをする季節、初夏の頃
夏の季語

北斗七星(北の空にある七つの柄杓星)の柄の部分そのまま延ばしていくと、牛飼座のアークトゥルス、乙女座のスピカを結んで、春の大曲線を形作ることができる。
アークトゥルスは別名「麦星」とも呼ばれ、麦の収穫時にそのオレンジ色が夜空に輝く。

○スイカズラ(吸葛)

花のつけ根に蜜があり、その蜜を吸うことから吸葛と呼ばれる。
甘い香りがして、モンキアゲハやハチが盛んに飛び交っていた。



○イチイガシ ブナ科 常緑広葉樹

萬葉植物園の中でも、外のお昼を食べた広場でもイチイガシの大木があった。奈良公園でも多いらしい。

「春日大社が創祀された八世紀頃には、御蓋山(みかさやま)の麓から飛火野にかけてイチイガシを優先種とする照葉樹林がひろがっていたと考えられている。」

(春日大社立て札より)

○クリソウ ○ツボスミレ ○ツバキ ○メダケ ○エビネ(ラン科) ○ヒメカンゾウ

○ムラサキサギゴケ ○ダイコン ○トチノキ cf.セイヨウトチノキ=マロニエ

○ダイダイ(ミカン科) 白い花

○ナンキンハゼ 真っ赤に紅葉する 外来種

○スタジイ クリーム色の花が咲く 実はそのままでも食べられる



エビネ



ムラサキサギゴケ



ヒメカンゾウ



スタジイ



←シデに付くマメゾタ



ダイコンの花

[動物]

○鹿 ○クサガメ ○モンキアゲハ

晴天に恵まれ、初めての萬葉植物園と春日大社本殿を巡った。

春日大社には、七種寄木や屋根を貫く大杉、また、徳川綱吉等武将たちの寄進灯籠があり、それらが朱塗りの建物に映えていた。

今年は例年にも増して開花が早く、残念ながら砂ずりの藤を目にできず、また、萬葉植物園も半分ほどが閉じた状態だった。

機会があれば、藤が満開の時に、ぜひもう一度訪れてみたい。



春日大社



徳川綱吉寄進灯籠



七種寄木



春日大社回廊



大杉

2023/5/12 春日大社萬葉植物園

1	カンワバアジサイ	アジサイ科	アジサイ属	落葉低木 北米東南部原産 葉(カシワに似た形の5~7つに深く裂けた葉 紅葉も楽しめる) 花(円錐形の花房 白色)
2	カキツバタ	アヤメ科	アヤメ属	多年草 湿地に群生 古典園芸植物 花(5~6月紫色 内花被片が細く直立 外花被片の中央部に白・淡黄色の斑紋あり) 準絶滅危惧種
3	キショウブ	アヤメ科	アヤメ属	多年草 帰化植物 花(内花被片が小型で直立 外花被片の中央に茶色がかった模様あり 黄色) 環境省により「要注意外来生物」に指定
4	オオムギ	イネ科	オオムギ属	古来からの作物 小麦より低温や乾燥に強い 豊富な水溶性植物繊維グルテン無し
5	コムギ	イネ科	コムギ属	1~2年草 世界三大穀物(小麦・トウモロコシ・米)のひとつ 製粉して小麦粉として使用 グルテンを多く含む 体を冷やす作用がある
6	クマザサ	イネ科	ササ属	日本特産 葉に白い隈取があることからの名 葉が越冬するときに縁が枯れて隈取になる 食用・薬用
7	チュウゴクザサ	イネ科	ササ属	ササ類 草丈1~2m 稈軸に長い毛あり 隈取が少ない クマザサの変種
8	ミヤコグサ	イネ科	ササ属	日本固有種 草丈50~80cm 別名ヒメザサ・イトザサ 稈(2~4mm)節の上が球状に膨れる クマザサのように葉の縁が白く隈どる
9	ススキ	イネ科	ススキ属	多年草 別名尾花(秋の七草) 株立ち 北米では侵略的外来種 お多福山や上山高原などでは、草刈りや火入れを定期的に行うことで草原の状態を維持している
10	オダケ	イネ科	マダケ属	多年性常緑竹 別名マダケ・オトコダケ・カワダケ 稈(直立 10~20m) 花(120年周期で花が咲く) 2本の隆起線のある節を持ち節から枝が2本伸びる タケノコ
11	メダケ	イネ科	メダケ属	多年性常緑笹 湿気を好む 稈(太さ1~3cm 高さ2~8m 柔らかく無毛粘り強い) 民芸品・細工物・釣竿・農業や漁業の資材などに利用した
12	エゴノキ	エゴノキ科	エゴノキ属	落葉小高木 花(白色の花を下向きに1~6個付ける) 果実(卵球形 有毒 洗濯に用いたり魚の捕獲に使った)
13	ムラサキカタバミ	カタバミ科	カタバミ属	多年草 草丈30cm 南アメリカ原産の帰化植物 葉(クローバーのような形) 花(ピンク・紫色の5弁花) 夜に花びら・葉を閉じる 環境省により「要注意外来生物」に指定
14	ノジギク	キク科	キク属	多年草 野菊の1種 牧野富太郎が発見して命名 日本在来種 群落を形成 花(舌状花は白色 管状花は黄色) 兵庫の県花
15	ダルマガク	キク科	シオン属	常緑多年草 草丈20~35cm 海岸に生える野生のキク 葉・茎(肉厚で毛が密生) 花(舌状花は薄紫色 管状花は黄色)
16	ヤマグワ	クワ科	クワ属	落葉低木 葉(互生 多様な形 3本葉脈が目立つ 鋸歯あり) 花(雌雄異株) 果実(黒紫色 甘く生食) 和紙の材料・美しい材・養蚕用
17	ハリグワ	クワ科	ハリグワ属	落葉小高木 中国・朝鮮半島原産 幹や枝に針のような棘あり葉を食べることからの名 花(ミツマタに似る 雌雄異株) 薬用・食用・染料・製紙材料
18	クリソウ	サクラソウ科	サクラソウ属	多年草 日本原産 湿潤な場所に生育 草丈30~90cm 花(紅紫色 下の方から段になって次々と咲く) 日本に自生するサクラソウ属の中で最も大型 鹿が嫌う
19	ミツマタ	ジンチョウゲ科	ミツマタ属	落葉低木 中国南部・ヒマラヤ原産 枝(3つに分枝) 花(黄色の無弁花) 一年枝の樹皮を和紙や紙幣の材料に使用
20	スイカズラ	スイカズラ科	スイカズラ属	常緑つる性低木 別名金銀花・ミツバナ アメリカではクズと共に有害植物 花(花びら4枚が上1枚が下向きに独特な形で2個ずつ並ぶ 甘い蜜) 薬用・食用
21	ツボスミレ	スミレ科	スミレ属	多年草 別名ニョイスミレ 草丈5~25cm 葉(ハート形 艶無し 無毛) 花(白・紫色 花弁の基部に紫の筋が入る)
22	センダン	センダン科	センダン属	落葉高木 成長が早く大木になる 葉(2回奇数羽状複葉) 花(淡紫色の5弁花) 果実(落葉しても鈴なりに枝に残る 有毒) 薬用植物 香木の栴檀はジャクダンを指す
23	アセビ	ツツジ科	アセビ属	常緑低木 日本固有種 葉(革質で艶々) 木全体が有毒 花(スズラン・ドウダンツツジの様) 殺虫剤として利用
24	ナンキンハゼ	トウダイクサ科	ナンキンハゼ属	落葉高木 中国原産 秋に美しく紅葉し白色の実とのコントラストが見事 葉(菱形に近い) 雌雄異株 果実(人には有毒) 餌を採る(他に蛾を採るハゼノキはウルシ科)
25	ムラサキサギゴケ	ハエドクソウ科	サギゴケ属	多年草 山野草 草丈3~10cm 匍匐茎で広がる 花(紫・白色 トキワハゼと似るが花の大きき3倍) 花が紫色で形がサギに似ることからの名
26	イテイガン	ブナ科	コナラ属	常緑高木 奈良公園に多く見られる 樹皮(剝がれ落ちる) 葉(半ばから先に鋸歯あり 裏星状毛が蜜布) 雌雄同株 果実(アク抜きせずに可食)
27	ナラガシワ	ブナ科	コナラ属	落葉高木 樹皮(クヌギに似る カブトムシが集まる木) 葉(裏星状毛あり 葉柄がカシワより長い カシワと同じように冬になっても古い葉が残る) 花(雌雄同株) 大型のドングリ

28	スダジイ	ブナ科	シイ属	常緑高木 比較的温暖な地域に生育 ブロccoliのような木 葉(革質) 花(雌雄同株 虫媒花) ドングリ(2年かかって成熟 アク抜き不要) 染料・ホダ木に利用
29	ナギ	マキ科	ナギ属	常緑針葉高木 裸子植物 日本では古くから神社に植栽 葉(厚く革質 無毛 光沢あり 横にはなかなかちぎれない) 雌雄異株
30	ビナンカズラ	マツブサ科	サネカズラ属	常緑つる性木本 別名サネカズラ 果実(径3cmの球形で赤色に熟す) 古くから日本人になじみが深い古事記にも登場 整髪料・生薬
31	ミヤギノハギ	マメ科	ハギ属	落葉低木 日本特産 別名ナツハギ 葉(3出複葉) 花(初から紫紅色の蝶形の花を付ける) 宮城県の県花
32	ジャコウフジ	マメ科	フジ属	「匂藤」 フジとシナフジの交雑種 花(花序の長さ30cm 白色 強く良い香り) 他の品種より早く開花する
33	シロノダフジ	マメ科	フジ属	つる性落葉木本 日本固有種 花(白色) フジの園芸種
34	ノダフジ	マメ科	フジ属	つる性落葉木本 日本固有種 花穂が長い(基部から先端にかけて順に咲く) 左斜め上に向いて巻く
35	ヤマフジ	マメ科	フジ属	つる性落葉木本 日本固有種 花穂が短い(ほぼ同時に開花) 右斜め上に巻く
36	ダイダイ	ミカン科	ミカン属	常緑小高木 インド・ヒマラヤ原産 正月用飾り 果実(冬を過ぎても木から落ちず2~3年枝についている)
37	トチノキ	ムクロジ科	トチノキ属	落葉高木 日本の山村地域の暮らしを支えた重要な樹種 バリのマロニエはセイヨウトチノキのこと 栃木県の県木
38	ムラサキ	ムラサキ科	ムラサキ属	多年草 冷たい山地の草原に自生 草丈30~80cm 葉(互生 粗い毛 葉脈が窪む) 花(茎の上部に小さな白色5弁花) 生薬・染料の「江戸紫」・口紅 絶滅危惧IB類(種の発芽率が低くウイルスに弱いため株を増やすのは困難)
39	ハウノキ	モクレン科	モクレン属	落葉高木 日本自生の樹木の中で最大級の葉とは花を持つ 葉(輪生状に付く) 花(枝先に上向きにつける 甘く強い芳香あり) 食・薬用・材・観賞
40	カワヤナギ	ヤナギ科	ヤナギ属	落葉低木 広く川辺に自生 葉(7~16cm 幅8~20mm 波状鋸歯 互生) 雌雄異株 日本固有種 柳絮(りゅうじょ: 白い綿毛の付いた種子 またそれが春に飛び漂う様)
41	ユズリハ	ユズリハ科	ユズリハ属	常緑高木 日本原産 新葉の成長を見届けてから古葉が落ちることからの名 葉(寿命2~3年 6~7月に新旧交代) 果実(有毒) 正月飾りに使用
42	エビネ	ラン科	エビネ属	多年草 草丈30~50cm 多数の品種がある 地表近くにできる根茎がエビのように曲がって連なっていることからの名

アヤメ・カキツバタ・ハナショウブの違い (アヤメ科アヤメ属)

アヤメ	: 比較的乾燥した場所を好む	葉幅(より細い)	花の色(紫、まれに白色)	花卉の付け根(網目模様)
カキツバタ	: 湿地に群生	葉幅(広い)	花の色(青紫色・紫・白など)	花卉の付け根(白い一筋の線)
ハナショウブ	: 比較的水はけのよい所を好む	葉幅(中間)	花の色(5000種)	花卉の付け根(黄色)

菖蒲湯のショウブはサトイモ科で別物でガマの穂のような感じ

大麦

二条大麦	: ビール・焼酎・ウイスキーの原料 ビール麦 四国・中国・九州など西日本での栽培が多い 六条種に比べて粒が豊満で大きい 穂が2列に付く デンプン質が多くタンパク質が少ない
六条大麦	: 麦茶・麦ごはん・押し麦・大麦麺に入れて食べる雑穀 穂が6列に付く デンプンが少なくタンパク質を適度に含む 酵素力を持つ

ネコヤナギ・カワヤナギの違い

ネコヤナギ	: 樹高1~5m 株立ち 葉先尖る 細鋸歯 若枝紫緑色
カワヤナギ	: 樹高3~6m 株立ち 葉先尖る 波状鋸歯 若枝灰色短毛

2023年5月12日春日大社萬葉植物園



①萬葉植物園 入口



②重要文化財 丸窓



③浮舞台



④クリンソウ



⑤ツバキ



⑥ツボスミレ



⑦シラン



⑧アリドオシ



⑨オオムギ



⑩アセビ



⑪スイカズラ



⑫カキツバタ



⑬クマザサ



⑭スダジイ



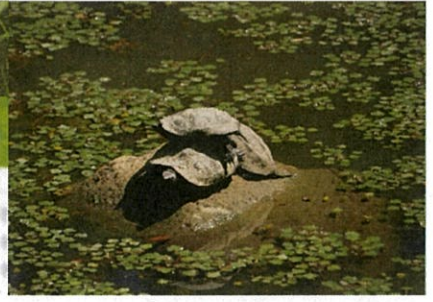
⑮スダジイ



⑩ムラサキ



⑪トコロ



⑫クサガメ



⑬トチノキ



⑭フタリシズカ



⑮ナギ



⑯モンキアゲハ



⑰モンキアゲハ



⑱イチイガシ



萬葉植物園



春日大社



春日大社 二之鳥居



春日大社 南門



春日大社 本殿



春日大社 本殿



春日大社回廊



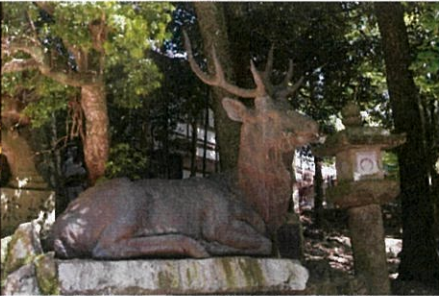
大杉 樹齢1000年



春日大社回廊



万灯籠再現 藤波之屋



伏鹿手水所



参道



奈良公園の鹿



奈良公園の鹿



奈良公園

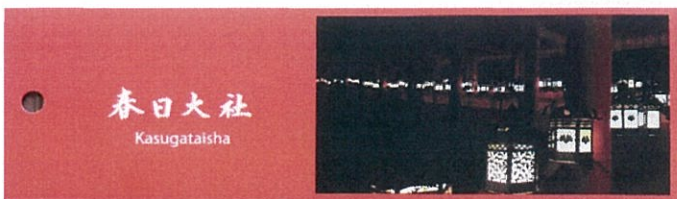
片思いの恋を紫色に染めた衣装にかさねて「いまだ結ばれないうちに他人に知られてしまった」という意に詠んだ歌と解釈されている。
古来より高貴な色として染められた「紫根染め」は、この草の根の色素が原料であり、現在の自然界では滅多に出会えない希少植物である。

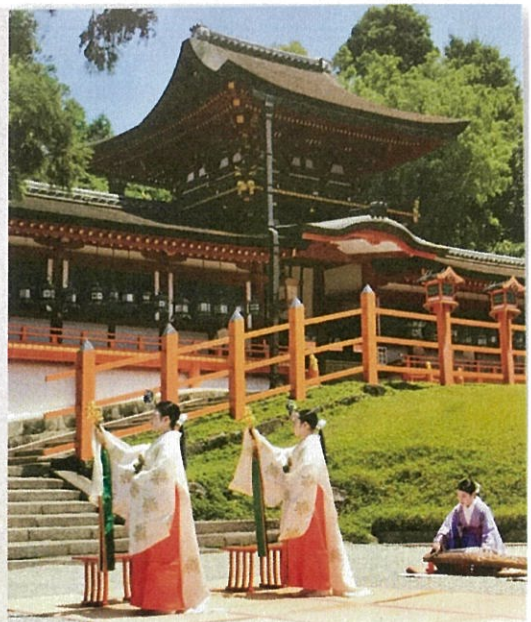
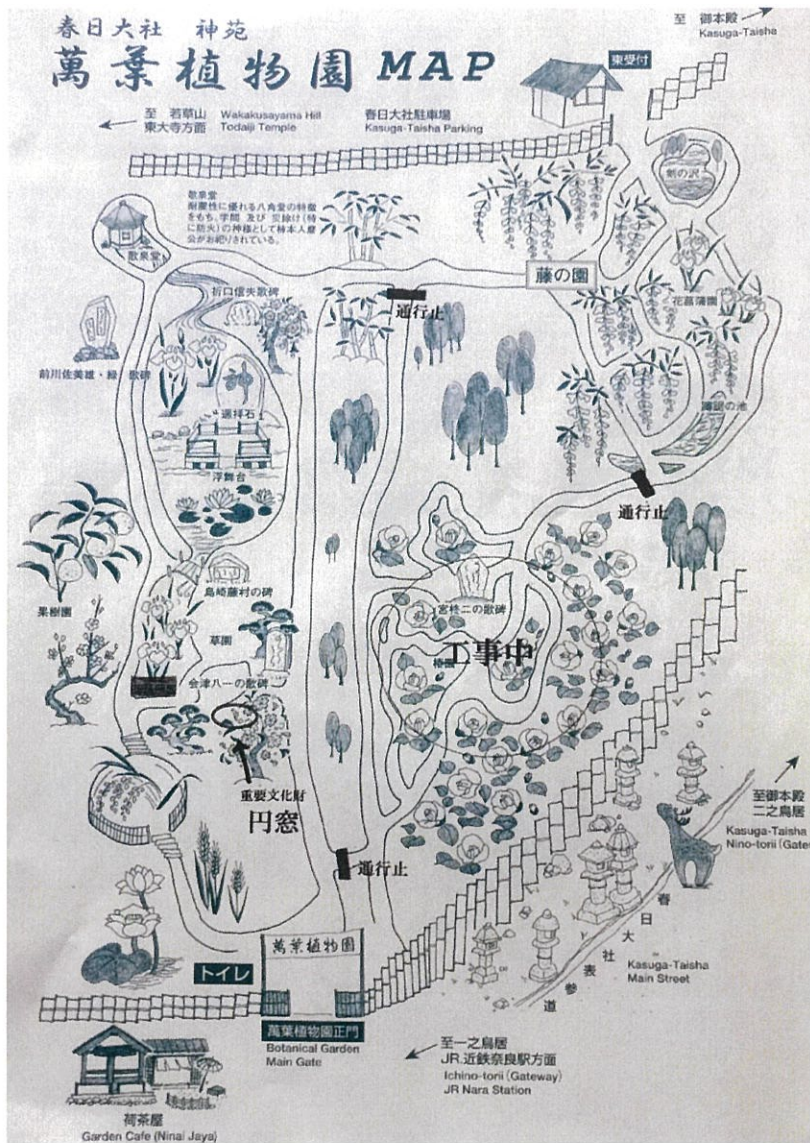
春日大社
萬葉植物園 大人

託馬野に
生ふる紫草
衣に染め
いまだ着ずして
色に出でにけり

笠女郎 卷三・三九五

萬葉名 むらさき 現代名 ムラサキ





世界遺産
春日大社

Kasugataisha





萬葉植物園ホームページ写真使用(4~5月見頃)



別枠：美山バス旅行

日時：2023年5月27日（快晴）

記録：玉垣

行き先：美山内久保地区ベニバナヤマシャクヤク群生地とかやぶきの里

参加人数：13名(当日欠席1名含む)

参加費用：8000円

行程：8:00 JR 尼崎駅 → 10:00 内久保公民館着 → 規制区域観察・光瑞寺で昼食 → 12:30 美山かやぶきの里着・観察 → 17:00 JR 尼崎駅（マイクロバス貸切 運転手鷹尾さん）



この度は一般公開が20日になったため27日に特別にお願いをして、京都府レッドデータブックに絶滅寸前種として登録されているベニバナヤマシャクヤクの保全活動に取り組まれている美山町の内久保環境・史跡保存会の三船さんの案内で、ベニバナヤマシャクヤクの観察させて頂いた。およそ2.5ヘクタールの山林に約1万本の花が群生していて、保存会の皆様は杉の間伐、雪で折れてしまった杉の処理、遊歩道の整備、盗採から守るフェンスの設置などされている。花が咲くまで6、7年かかるが花の命はわずか3、4日、一般公開から1週間たったので心配していたが、杉内に白・ピンクの花を付けたベニバナヤマシャクヤクを見ることができて、ホッとしました。やはり少し遅かったので、花弁の落ちかけのものがあつた、大きくなった子房もあつた。「ベニバナヤマシャクヤクはヤマシャクヤクと違って、雄蕊の先が渦を巻くように曲がるのが特徴です。」との説明に花の個体の違いに感心した。また、コウライテンナンショウの性転換のお話も手製の図解付きで解説されると、すぐに確認するメンバーもいた。

蓮如上人ゆかりの光瑞寺の境内で昼食させてもらい、「蓮如の滝」を道路の左の山にバスの中から見ながら、美山かやぶきの里に向かう。里の入口付近に昔懐かしい赤いポストがあつた。ソバ畑の畦道の小さな草花を観察しながら、田植えの済んだ八幡神社の神饌田(しんせんでん)の横を、かやぶきの里に向かった。整備が整って、きれいな里のあちらこちらに茅葺屋根を火災から守る消火栓が見られた。稲荷神社の大トチノキに圧倒され、美山民俗資料館で昔の生活用品や調度を見て先人の知恵に感服し、座敷に座って茅葺屋根の涼しさを体験した。八幡神社で健康と会の発展をお願いした。駐車場近くのお店でいつものように、一服して帰路についた。

5月晴れの気持ちの良いお天気に恵まれ、きれいなバスで快適なドライブ、三船さんの詳しい説明による陽光に透けるベニバナヤマシャクヤクが美しく輝く様子、観光化されて少々残念な思いがしたが歩くと楽しかったかやぶきの里(こんな郊外でも外国人観光客が大勢来ていた)、美山の草花を色々教えて下さる先生やメンバー達との楽しい会話、おかげでとても楽しく素晴らしい時間を過ごせた1日だった。

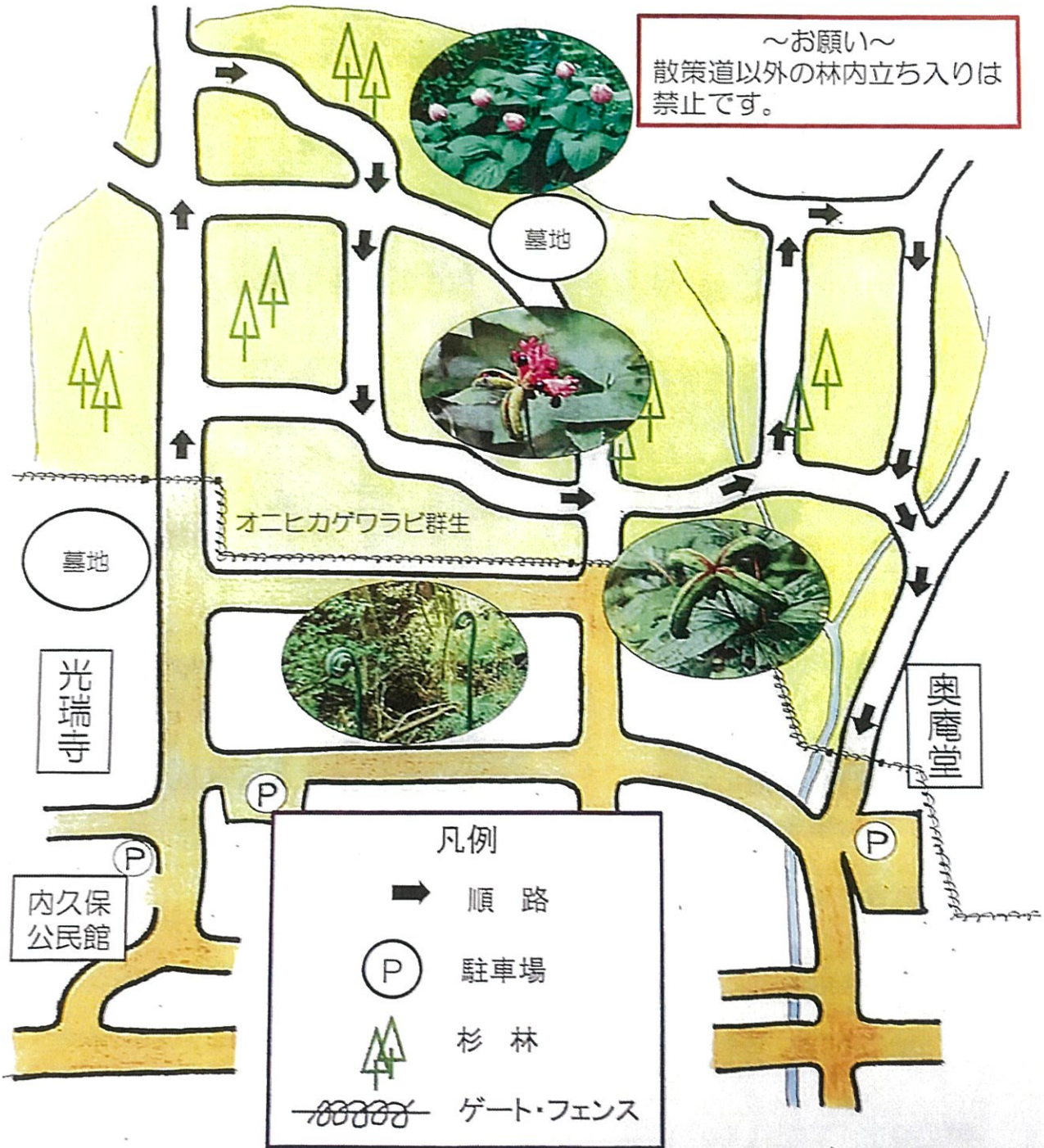
武田先生の face book より

「放送大学兵庫学習センターの学生さんと京都府美山のベニバナヤマシャクヤクの観察会に行ってきました。ガイド付きで、1周約700m。約1万株あるとのこと。葉の裏に毛のないタイプがほとんどでした。花は白からピンクまでありました。ピークを少し過ぎたあたりでしたが、見事でした。シカの影響でシカが好まないオニヒカゲワラビやマツカゼソウ、コウライテンナンショウなども多くありました。その後かやぶきの里の萱葺き民家を堪能して、帰りました。」

ベニバナヤマシャクヤクの里マップ

<京都府指定希少野生生物群生地>

～お願い～
散策道以外の林内立ち入りは
禁止です。



内久保環境・史跡保存会

ベニバナヤマシャクヤク成長の過程

A 発芽【播種2～3年経つと下記写真の様に3出複葉で地上に現れる】



B 発芽してから更に4年を経て



C ひとつの茎にひとつの花が出る



D 5月下旬～6月初旬ごろ開花する



- ①柱頭は4～6個が普通だが、虫の害・その他の理由で柱頭が少ない物もある
- ②柱頭の先は、右図の様にねじ曲がっている
- ③花は、開花後3～4日で花びらが散ってしまう

E



花卉が散り始めた姿

F 秋【9月下旬～11月中旬】

特徴



子房がはじけ、内側が真っ赤・種は黒い・子房に種は3～5個

- 花の色について
本来はピンクをしているが→（以降の説明はアルビノの説明を削除する）
- 照度について
発芽・成長のためには、根が太く成長しなければならない。根が大きくなると越冬が出来、更に根は大きくなり、地中を横に這うように伸びていく。そのためには、適度な照度が必要。内久保の保全区域は、3,800ルクスしかなかった状態だったが、杉の間伐を行い、10,000ルクスの照度を確保した。その結果、ベニバナヤマシャクヤクの数を増やすことが出来た。
- 種について
1つの花から15個～25個くらいできるが、落下しただけでは発芽しにくい。鳥が食べて、排出されたものが発芽する。

ベニバナヤマシャクヤクの林内

1	ギンバイソウ(写真⑩)	アジサイ科	アジサイ属	多年草 「銀梅草」 草丈40~70cm 山地のやや冷涼な場所に群生葉(互生 先端は2裂で先端は尾状に尖る) 花(白い5弁の梅のような花)
2	コハチジョウシダ(写真⑦⑧)	イノモトソウ科	イノモトソウ属	常緑性シダ植物 山地の林内に生育 葉(やや光沢あり) 羽軸・小羽軸上に棘あり 鹿の忌避植物
3	オニヒカゲワラビ(写真①)	イワデンダ科	ヘラシダ属	夏緑性シダ植物 山林の林下のやや湿った所に生育 葉(3回羽状深裂) 新芽(毛深い)が茹でるとつるつるに 側面に1本白い筋がある 京都府準絶滅危惧種(空中温度の低下に弱い) 山菜
4	クラマゴケ(写真⑫)	イワヒバ科	イワヒバ属	常緑シダ植物 山林の林下のやや湿った所に生育 地表を這い小さな集団を作る 葉(背葉と腹葉あり 背葉に鋸歯あり)
5	カンアオイ	ウmanosズクサ科	カンアオイ属	多年草 草丈10~30cm 茎(匍匐) 葉(ハート形 濃緑色で斑紋あり) 花(3枚の萼片が花のように見える 暗紫色) 日本固有種 ギフチョウの食草
6	ミヤマカタバミ	カタバミ科	カタバミ属	多年草 草丈6~10cm 葉(ハート形の3小葉 夜になると葉がすばむ) 花(白い5弁花)
7	イワニガナ(写真⑪)	キク科	ニガナ属	多年草 山野の日当たりのいいところに生育 別名ジシバリ 草丈5~15cm 葉(長い葉柄あり 全緑) 花(淡黄色)
8	セリバオウレン	キンボウゲ科	オウレン属	多年草 葉(2回3出複葉 小葉がセリの葉のように細かく切れ込む) 花(萼片・花弁・雄蕊の花糸・葯すべて白色) 日本固有種
9	シロダモ	クスノキ科	シロダモ属	常緑高木 別名シロタブ 葉(長楕円形 革質 全緑 裏白色 3行脈) 雌雄異株 花(10~11月黄褐色の花を多数つける) 果実(赤色)鹿の忌避植物
10	コナスビ	サクラソウ科	オカトラノオ属	多年草 茎(地を這う) 葉(対生) 花(黄色 花冠5裂) 果実を小さなナスに例えた名
11	クリソウ(写真⑬)	サクラソウ科	サクラソウ属	多年草 比較的湿潤な場所に群生 サクラソウ科の植物の中で最も大型 花(花茎を中心に数段円状に付く 濃紅紫色・ピンク)鹿の忌避植物
12	コウライテンナンショウ (写真②③)	サトイモ科	テンナンショウ属	多年草 草丈30~80cm 通称マムシグサ 山地のやや暗い林内に生育 茎(緑色 白い斑あり 先に棍棒のような肉穂と取り囲む仏炎苞) 葉(掌状2枚) 性転換を行う 有毒植物
13	カラスシキミ	ジンチョウゲ科	ジンチョウゲ属	常緑小低木 樹高1m 日本固有種 葉(互生 全緑 薄い皮質) 花(白色) 雌雄異株 果実(赤色) 有毒植物 京都府準絶滅危惧種
14	コショウノキ(写真⑤)	ジンチョウゲ科	ジンチョウゲ属	常緑小高木 果実がコショウのように辛いことから名 林下に生育 雌雄異株葉(互生 やや柔らかい革質 枝先に集まる) 花(4裂の白い萼が筒型) 果実(赤色 有毒) 京都府準絶滅危惧
15	ドクダミ	ドクダミ科	ドクダミ属	多年草 湿り気のある半日陰地を好む 全草にアルデヒド由来の特有の臭気あり 草丈20~60cm 葉(互生 全緑 暗緑色) 花(穂状花序 花に見えるのは白い苞) 三大民間薬(ゲンショウコ・センブリ)の1つ
16	ニワウルシ	ニガキ科	ニワウルシ属	落葉高木 中国原産 別名シンジュ ウルシとは全く別種でかぶれない 雌雄異株 至る所に浸食する爆発的な繁殖力を持つ 養蚕のために明治時代に渡来
17	ヒカゲノカズラ(写真⑨⑩)	ヒカゲノカズラ科	ヒカゲノカズラ属	多年草 常緑シダ植物 日当たり良い山麓で地表を這い群落を形成 名前に反して日陰では育たない 葉(針形 茎に直角)
18	ベニバナヤマシャクヤク (写真⑪~⑫)	ポタン科	ポタン属	多年草 草丈30~80cm 葉(互生 2回3出複葉 裏こころは無毛が一般的) 花(径4~5cm 茎の先に1個 ピンク・白色 一重の半開き 3~4日で散る) 花柱(長く外側に巻き込む) 果実(長さ2.5~3.5cmの袋果) 鹿の忌避植物 種が発芽するまで2年、発芽してから蕾が咲くまで3~4年 現地では間伐で10000ルクスまで上げたり、盗掘防止柵を設置して保護 環境省絶滅危惧Ⅱ類
19	シキミ(写真④)	マツブサ科	シキミ属	常緑小高木 葉(互生 厚く革質 枝先に集まって付く) 花(黄白色枝先に集まって付く) 果実(猛毒 八角に似るので注意) 鹿の忌避植物 仏事に使用
20	ヤマシャクヤク	ポタン科	ポタン属	多年草 草丈30~60cm 葉(2回3出複葉 両面無毛 光沢あり) 花(径4~5cm 茎の先に1個 白色 一重の半開き 3~4日で散る) 花柱(短く 赤く曲がる) 環境省レッドリスト準絶滅危惧種
21	マツカゼソウ	ミカン科	マツカゼソウ属	多年草 草丈50~80cm 葉(互生 3回3出羽状複葉 腺点があり匂う) 花(多数の4弁花の白い花) 実(ミカンと同じように表面に細かな凹凸) ミカン科では唯一の草本 毒草
22	ミズタバコ	ムラサキ科	キュウリグサ属	多年草 草丈10~40cm 葉(互生 茎と共に柔らかい) 花(サソリ型花序 白色・淡青紫色) 日本固有種 山地の溪流近くの水辺や湿地に生育 サソリ型花序(茎の先端は蕾が詰まっていて丸まっていて茎が段々と伸びながら花を咲かせていく)
23	ダイヤモンドソウ	ユキノシタ科	ユキノシタ属	多年草 草丈5~30cm 山地の湿った岩上に生える 葉(両面に長毛白い斑点が無い) 花(秋 白色) 花が「大」の字に似ることからの名

24	ユキノシタ	ユキノシタ科	ユキノシタ属	多年草 草丈20~50cm 別名イドクサ・コジソウ 山地の湿った場所に生育 葉(脈に沿って縞模様の斑が入った丸い葉) 花(春から初夏 5弁 上3枚が小さく濃紅色の斑点あり、また基部に濃黄色の斑点あり 下の2枚は白色で大きく細長く垂れ下がる) 薬用・山菜
----	-------	--------	--------	--

かやぶきの里

1	ウツギ	アジサイ科	ウツギ属	落葉低木 別名ウノハナ(旧暦の卯月に花を咲かせることからの名) ウツギは幹が中空であることからの名 初夏の風物詩 花(小さな白色釣鐘型)
2	チガヤ	イネ科	チガヤ属	多年草 草丈30~80cm 根茎(横の這う) 茎(細く直立) 腐除けの力があるとされ6月末日に「茅の輪くぐり」の行事がある
3	ウド	ウコギ科	タラノキ属	大型の多年草 大きなものは2~3mに 冬に枯れて春に芽を出す シャキシャキの歯ごたえの山菜 独特の香りと苦み
4	タラノキ	ウコギ科	タラノキ属	落葉低高木 日当たりの良い山野に自生 先駆植物 三木・枝・葉に鋭い棘あり 葉(互生 奇数羽状複葉) 花(3mmほどの小さな白い花) 山菜のための栽培は棘の少ないメダラが普通
5	エゴノキ	エゴノキ科	エゴノキ属	落葉小高木 葉(互生 若葉は褐色の星状毛に覆われる) 花(白色で下向きにたくさん付く) 果実(卵球形で灰白色 有毒)
6	ノアザミ(写真㉔)	キク科	アザミ属	多年草 多年草 草丈60~100cm 葉(タンポポに似た形 互生 基部は茎を抱く 鋭い棘) 花(上向きに直立 紅紫色) 山菜・生薬
7	アラゲハンゴンソウ	キク科	オオハンゴンソウ属	多年草 漢字では粗毛反魂草 別名キヌガサギク 北アメリカ原産 草丈90cm 茎・葉(荒い剛毛) 頭花(舌状花は黄色 筒状花は暗紫色) 特定外来生物のオオハンゴンソウの筒状花は緑色 ハンゴンソウは在来種で山菜に
8	ククイモ	キク科	ヒマワリ属	多年草 草丈1~3m 北アメリカ原産 江戸時代末期に渡来 茎(直立 太さ3cm 棘あり) 葉(20~30cm 棘あり) 花(秋 黄色) 肥大する根 茎 イヌリン 食用・薬用
9	フランスギク	キク科	フランスギク属	多年草 草丈30~80cm ヨーロッパ原産 茎(有毛) 葉(へら型 互生 歯齒あり) 花(径5cm 白色 マーガレットと似る)
10	ウマノアシガタ	キンポウゲ科	キンポウゲ属	多年草 草丈30~70cm 日当たりの良い山野に生育 花(5弁花で光沢のある黄色) 根生葉を馬の蹄に見立てた名 有毒植物(葉がゲンノショウコににるので注意)
11	クロタネソウ	キンポウゲ科	クロタネソウ属	1年草 草丈40~100cm ニゲラ 地中海沿岸から西アジア原産 葉(細裂) 花(萼片が白・青・ピンク・薄紫色)
12	シャクナゲ	ツツジ科	ツツジ属	常緑低・高木 ヒマラヤ周辺に非常に多くの種が分布 派手で大きな花が特徴 葉(長楕円形 光沢あり) 有毒植物
13	オヘビイチゴ	バラ科	キジムシロ属	多年草 別名オトコヘビイチゴ 畔などの湿った場所に生育 花(黄色の5弁花) 果実(褐色 表面に縦方向にしわ有り)
14	ヘビイチゴ	バラ科	キジムシロ属	多年草 畔などの湿った場所に生育 花(黄色の5弁花) 果実(表面に光沢無し 赤色で球形) 生薬
15	ノビル	ヒガンバナ科	ネギ属	多年草 全体の姿や臭いは小葱・ニラに似る 人間の手加わっている場所に生育 葉(ネギを小さくしたような形 中空 断面が三日月形) 花(花茎1本のみ 先端に白色の散形花序) ムカゴ・球根で繁殖 山菜(有毒植物のスィセン・タマズダレと葉が似るので要注意)
16	アサクラザンショウ	ミカン科	サンショウ属	落葉低木 山椒は雌株と雄株があるが、朝倉山椒は雌雄同株で実が付く枝(棘がない) 果実(大きく香気強い) 兵庫県養父郡朝倉で発見された変種 食用・薬用
17	ヒレハリソウ(写真㉕)	ムラサキ科	ヒレハリソウ属	多年草 別名コンフリー ヨーロッパ原産の帰化植物 草丈50~90cm 全体に短粗毛 茎(翼あり) 葉(互生) 花(淡青色 下向きに鐘形) 有毒植物
18	シロバナシラン	ラン科	シラン属	多年草 草丈30~70cm 別名白蘭 やや湿った岩の上や林の中に生育 葉(互生) 野生種は準絶滅危惧種に指定

生物

1	シオカラトンボ	トンボ科	シオカラトンボ属	大きさ49~60mm 成熟して水色になった雄に付けられた名 雌はムギワラトンボとも呼ばれる
2	ニホンカワトンボ(写真㉖)	カワトンボ科	カワトンボ属	大きさ48~64mm 金緑~水色の胴体に橙赤色・透明・淡いオレンジ色の翅 清流に生息 15の都道府県で絶滅危惧種に指定
3	ルイスコメツキモドキ(写真㉗)	オオキノコムシ科	?	体長6~8.5mm コメツキモドキの1種 体色(銅色 光沢あり) イネ科やシダ類などの植物を食べる(幼虫は植物の茎の内部を食べる)
4	シロヒトリ(写真㉘)	ヒトリガ科	Chionarctia属	在来種 開張52~66mm 全体が白い翅をもつ 腹と脚に赤い模様あり 幼虫(地上を移動することが多い)
5	ヤマアカガエル	アカガエル科	アカガエル属	大きさ♂40~60mm ♀40~90mm 森林の林床が生育場所 背側線が途中で切れたり鼓膜のある所で曲がるのが特徴

山 54

54

山 54 (花頭 3本
へいばり ... 5本

あまのこ
あまのこ



2つにわかれ
(4つに分)

マツアヒツウ
2つに分

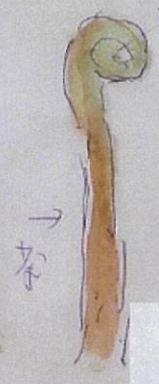


10月 花 下り 山 54 (花頭 3本)



コナズ
山 54 (花頭 3本)

オニシカケクワ
クリーン
(Red 54.1. Book)



山 54
2つに分



→
茶

まぐさ 山 54 (花頭 3本)

光瑞寺



山 54 (花頭 3本)
オニシカケクワ
山 54 (花頭 3本)



山 54 (花頭 3本)



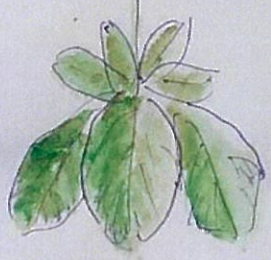


北箱行神社の

トチの木

ウツクサ (墨の足形) (サボカ)

↓香



北箱行神社のトチ

幹 510cm
樹高 25m

トチの木

307年(407年)のトチ

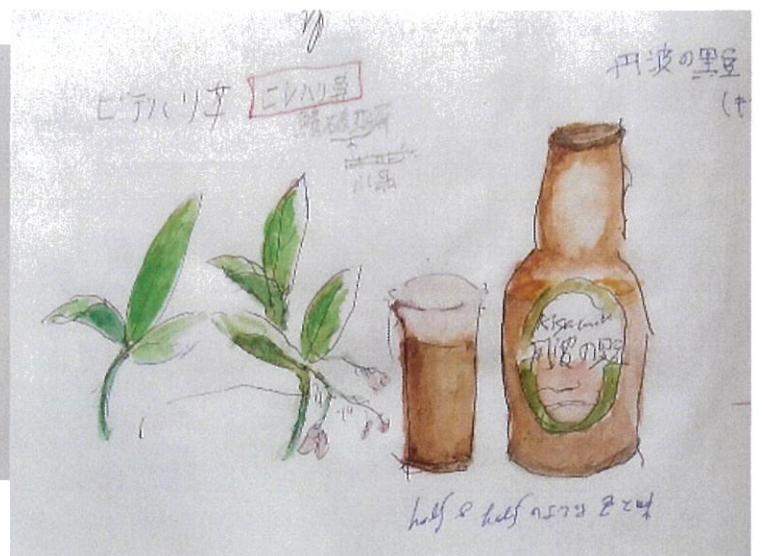


美山石塔

道林山

美山民族資料館

入館料 300



	京都美山	漢字	花・実	その他	前回
	5月27日			黄色写真あり	など
1	ガイドさん				
2	内久保公民館			元小学校	
3	熊用罎				
4	紅芍薬		ピンク	山芍薬の後1カ月 今日が最後	
5	オビガ ワラビ				
6	コウライテンショウ	高麗天南星		構造 性転換	mamshgusa
7	山芍薬		白	柱頭 3本 ねじれると紅芍薬柱頭 4-6本	
8	白の紅芍薬		白		
9	紅芍薬		ピンク	柱頭 4本	
10	コウライテンショウ	高麗天南星		分解	mamshgusa
11	山芍薬?			花後	
12	白の紅芍薬		白	葉の数え方	
13	紅芍薬		ピンク	柱頭 6本 種ができない	
14	ワラビ				
15	紅芍薬		ピンク	柱頭 5本	
16	ミズタビラコ		青		
17	マツガゼソウ			10円玉のような葉	
18	コナシ		黄色		
19	オビガ ワラビ			毛を取って湯がきマヨネーズ和え、うまいとのこと	
20	奥庵堂				
21	光瑞寺			お昼	
22	ヘビイチゴ		赤の実		
23	オビイゴ		黄色	実は赤くならない 茶	
24	茶ノ木				
25	美山				
26	馬の足型		黄色		
27	トチノキ			北稻荷神社	
28	美山民俗資料館				
29	同 大広間			休憩	
30	キクイモ				
31	クワネツ		青		
32	知井八幡神社				
33	ノビル				
34	西湖堂パンの看板				
35	ヒレハリソウ		紫		
36	丹波の黒豆			ビール	
37					

2023年5月27日美山



内久保

ガイドの三船さん

内久保公民館(元小学校)



①オニヒカゲワラビ

②コウライテンナンショウ

③コウライテンナンショウ



④シキミ

⑤コショウノキ

⑥シロヒトリ



⑦コハチジョウシダ

⑧コハチジョウシダ



⑨ヒカゲノカズラ

⑩ヒカゲノカズラ

⑪ベニバナヤマシャクヤク



12

13

14



15

16

17



18

19

20



21

22

23



24

25

26



②⑦



②⑧ユズリハ



②⑨ルイスコメツキモ



奥庵堂



③⑩ギンバイソウ



③⑪イワニガナ



③⑫クラマゴケ



③⑬クリンソウ



光瑞寺



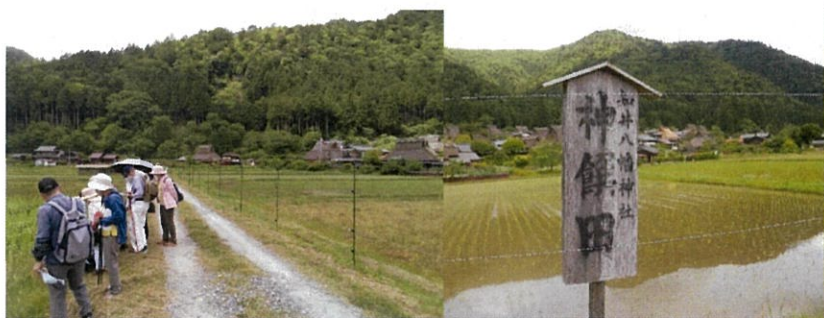
光瑞寺本堂



光瑞寺



美山かやぶきの里



カフェ



美山民俗資料館



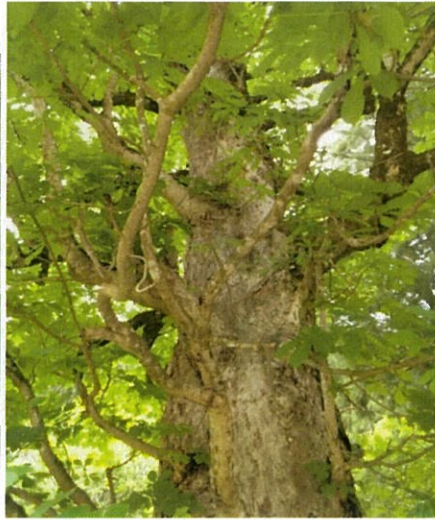
③4 ヒレハリソウ



③5 ニホンカワトンボ



③6 ノアザミ



③樹齡450年のトチノキ

トチノキの花



神社から望む



八幡神社



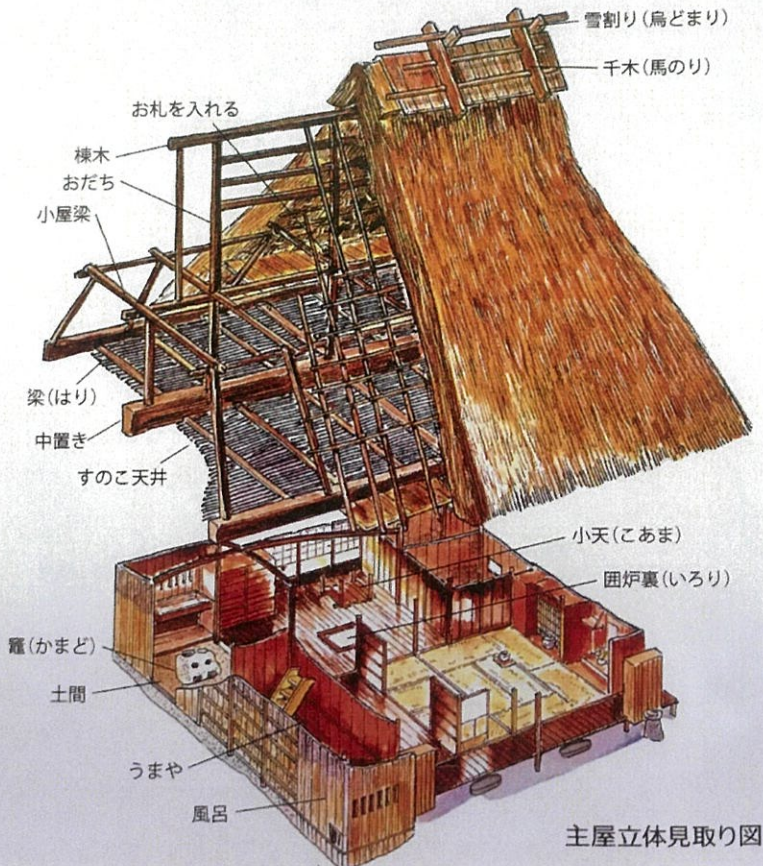
結の杉



美山民俗資料館

当館は主屋、納屋、倉の3棟で構成されています。約200年前（江戸時代後期）に建築された農家住宅を譲り受けて、平成5年（1993年）から資料館として活用してきました。この地方における北山型農家住宅の特徴を色濃く残していました。

しかし、不幸にして平成12年（2000年）5月に主屋と納屋を焼失しました。幸い詳細な記録が残されていたので、当初の建築の姿を忠実に復元する事が出来ました。先人の知恵と工夫と汗の結晶ともいえる民家です。展示物は当地区と近隣の家々から寄贈を受けたもので、その昔に使っていたものばかりです。



主屋立体見取り図



武田先生と里山を歩こう会 活動報告書（2023年6月16日開催）

1. 概況

実施日	2023年6月16日（金） 快晴
行 先	網引湿原（あびきしつげん） 兵庫県加西市網引町
行 程	北条鉄道 網引駅 10:20 集合 網引駅から網引湿原まで、武田・大野両先生、玉垣会長の私有車に乗車。 10時半から15時前まで観察。 湿原散策後、帰途も参加者の利便駅まで便乗させていただく。 昼食時間もゆっくり取れて慌ただしい行程ではなかったが、まだまだ時間をかけて観察したい場所である。 （参考）神戸阪急駅～北条鉄道 網引駅 所要時間 約90分 1,060円
参加人数	10名
観察できた生物	植物 約30種 昆虫 約6種 など
その他	<ul style="list-style-type: none">・ 入場料無料・ 駅から約3km、徒歩なら約45分・ 北条鉄道を利用する場合は、鉄道ダイヤをよく確認しておく必要がある。・ 駐車スペースは、湿原前（5台程度）か網引公民館（10台以上）が利用可能・ 整備された散策道となっているが、登山靴や長靴が歩きやすい・ 湿原の種の保存（湿原外からの生物を侵入させない）のために、湿原内の川で靴を洗って入山する・ 湿原内に「バイオトイレ」が設置され利用可能・ 利用時間は、9時から17時まで・ シカ、イノシシの侵入防止のため、柵の出入口は、その都度施錠する

2. 網引湿原の概要

- ・ 県文化財指定の湿原面積が2,700㎡の県内最大級の湿原
湿原全体は、361,828㎡におよぶ（加西市環境課井上氏に確認）
- ・ 3箇所の湿原と3つの池からなる湧水湿原
- ・ イヌノハナヒゲ群集、ヌマガヤ群落の低茎草本植物群落が成立している。
- ・ サギソウやムラサキミカキグサ等の希少植物、また、湿原代表昆虫であり希少種であるハッチョウトンボ、ヒメタイコウチ、ヒメヒカゲを観察できる。
- ・ 希少な動植物をボランティア団体の積極的な活動により保全されている。

「あびき湿原って凄い!!」

あびき湿原は加西市の南東部、北条鉄道網引駅から約 2.7 ㎞の距離にある兵庫県最大規模の湿原です。全くの手つかずの雑木林状態の草原を、平成 25 年 11 月から保全活動をスタートし、平成 27 年 1 月に『あびき湿原保存会』を立ち上げました。(現在会員 55 名) また、平成 26 年 6 月にはあびき湿原とその周辺の自然環境の素晴らしさが認められ、その保護のために加西市としては初めての「加西市野生生物保護地区」に指定され、この素晴らしい自然環境を保護する動きが始まりました。そんなまだ認知されてから僅かの湿原ですが、とんでもない『凄い湿原』でもあるのです!!

2016 年 3 月 ひと博「共生のひろば」あびき湿原保存会代表 山下公明氏の記事から

3. 観察できた植物・昆虫

No.	名前 (種)	科	属	特徴
(1) 植物				
1	ミチバタナデシコ	ナデシコ	イヌコモチナデシコ	小さいピンクの花 花弁 5 枚 外来 2 年性 イヌコモチナデシコ, コモチナデシコと似る
2	ユウゲシヨウ	アカバナ	マツヨイグサ	ピンクの花 花弁 4 枚 関西以西に多い 外来 多年草 夕方に咲くと言われ「夕化粧」と書く(実際は昼も咲いている)
3	イ	イグサ	イグサ	湿地や水中に自生する多年草 全国に分布 畳表の原料栽培種は丈が長い
4	クリ	ブナ	クリ	ほぼ全国に分布 初夏に尾状花序をつける 花は独特のにおいがある 雌雄同株 食用
5	アラゲハンゴンソウ	キク	オオハンゴンソウ	全国に分布 14 枚前後の黄色い花弁 筒状花は黒紫色 茎葉に荒い剛毛があり「粗毛反魂草」 外来 在来種のハンゴンソウは筒状花も黄色
6	オオニワゼキシヨウ	アヤメ	ニワゼキシヨウ	多年草 薄青色の 6 枚の花弁 外来 「大庭石菖」 ニワゼキシヨウは丈は低い、花は本種よりも少し大きい 近縁種が多く、変異や交雑も多く分類が難しい

7	コナスビ	サクラソウ	オカトラノオ	多年草 黄色い花卉が5枚 全国に分布 在来種 実がナスに似るから「小茄子」
8	ヤマノイモ	ヤマノイモ	ヤマノイモ	つる性多年草 茎が太った塊茎を食用とする(サツマイモは、塊根) 茎由来の栄養繁殖器官である肉芽を「むかご」と呼ぶ つる植物の生育方向に対して右巻き左巻きを判定
9	サルトリイバラ	ユリ	シオデ	つる性落葉低木 茎に鋭い棘 葉は円～広卵形 カシワの葉の代用で柏餅に 根、実も食用として利用できる
10	ノアザミ	キク	アザミ	多年生草本 紅紫色の花 頭状花序 葉に鋭い棘がある 花言葉「独立」「触れないで」「素直になれない恋」
11	タラノキ	ウコギ	タラノキ	落葉広葉低木 枝、葉、幹に鋭い棘 先駆植物 全国の日当たりの良い山地に自生 新芽は「山菜の王様」
12	イソノキ	クロウメモドキ	クロウメモドキ	落葉広葉低木 本州以西に自生 薄黄緑色の花 花卉のように見えるのは萼 サクラの葉に似て葉脈が鮮明 湿原の周辺に多い
13	ゴボウ	キク	ゴボウ	食用・薬用 日本では自生の記録がないとのこと 背丈が高く葉も大きいので撮影記録する
14	タンナサワフタギ	ハイノキ	ハイノキ	落葉低木 関東以西に分布 林床や谷沿いなどに自生 近縁種にサワフタギ
15	ノハナショウブ	アヤメ	アヤメ	多年草 全国の湿地に自生 花卉の付け根は黄色 ハナショウブは本種の園芸種 カキツバタは、花卉の付け根が白色で湿地に生育 アヤメは、花卉付け根が網目模様で草地に生育

16	カンサイスノキ	ツツジ	スノキ	落葉低木 関東以西の明るい山林に自生 葉や実は酸っぱい 葉の裏面の主脈と葉柄の下部に曲がった毛がある
17	コバノトンボソウ	ラン	ツレサギソウ	多年草 全国の湿地に自生 繊細な黄緑色の花 花期は6～8月 花から出る長い距(花弁や額が変化したもの)がトンボに似ている
18	カキラン	ラン	カキラン	多年草 全国の日当たりのよい湿地に自生 花期は6～8月 黄褐色(柿色)の花の唇弁にオレンジ色の模様がある
19	コバノタツナミソウ	シソ	タツナミソウ	多年草 関東以西の海岸沿いや丘陵地などに自生 筒状の青紫色の花をつける 花期は5～6月 葉に細かな毛があるため別名「ビロードタツナミ」
20	トウカイコモウセンゴケ	モウセンゴケ	モウセンゴケ	多年草 食虫植物 東海以西の湿地に自生 在来種 茎が短く葉はロゼットを形成 モウセンゴケとコモウセンゴケの特徴を持ち判別が難しい
21	ナガエモウセンゴケ	モウセンゴケ	モウセンゴケ	多年草 食虫植物 特定外来生物 千葉、愛知、岡山県などの湿地に侵入 兵庫も?
22	ササユリ	ユリ	ユリ	多年草 本州中部以西に分布 山林に自生 日本特産 6～7月に開花し、淡い芳香がある 翌々年の春に種子が発芽し、開花まで7年以上かかる ヤマユリは、花弁に黄色の太い筋と紅褐色の小さな斑点がある
23	ノグサ	カヤツリグサ	ノグサ	多年草 本州以西の日当たりの良い湿地に生育 草丈は25cm未満 葉鞘は赤紫色 兵庫県レッドデータブックCランク

24	シライトソウ	シュロソウ	シライトソウ	多年草 秋田以西の林縁のやや明るい場所に生育 個々の花は見分けにくく、花茎から多数の白い細長い花弁が立っているように見える 香りもよい
25	ネジキ	ツツジ	ネジキ	落葉広葉樹 岩手県以西に分布 低山や旧領の丘に生育 酸性土を好む 幹が、らせん状に捻じれる 白色のつぼ形の花 有毒
26	ミヤコイバラ	バラ	バラ	落葉低木 新潟・長野県以西 低山や丘陵などの乾いた場所を好む 枝は直立 葉軸に刺 6~7月に白い五弁の花をつける
27	ヤマトキソウ	ラン	トキソウ	多年草 全国に分布 日当たりのよいやや湿った草地に生育 花期は6-8月 茎先に1個の淡紅色の花を上向きにつけるがほとんど開かない
28	トキソウ	ラン	トキソウ	多年草 湿原や湖沼に生育 全国に分布するが九州四国は少ない 茎頂に朱鷺色の花を1個つける 準絶滅危惧種
29	イトタヌキモ	タヌキモ	タヌキモ	多年草 東海以西の湿地に生育 根はなく茎は緑色の糸状 黄色の花を1~3個つける 葉に捕虫嚢を持つ
30	ブタナ	キク	エゾコウゾリナ	多年草 全国に分布 外来種 タンポポに似るが、花茎が途中で数本に枝分かれ、それぞれの頭に直径 3cm ほどの黄色い花をつける
(2) 昆虫				
31	ハッチョウトンボオス	トンボ	ハッチョウトンボ	日本一小さいトンボ体長17-21 mm オスは赤色 メスは茶褐色 5~8月に本州以西の湿原、休耕田などで見ることができる
32	ハッチョウトンボメス			

3 3	ヒメタイコウチ	タイコウチ	ヒメタイコウチ	体長約 20mm 茶褐色 短い呼吸管を持つ 肉食性 陸上で活動することが多い 陸上の土中や枯葉の下などで越冬する
3 4	キンモンガ	アゲハモドキガ	—	黒地に黄色い紋 白い紋のものもいる 本州以西に生息 食草はリョウブ
3 5	キイロカミキリモドキ	キイロカミキリモドキ	—	体長 12-16mm のオレンジ色の甲虫 全国に生息 皮膚に付着すると炎症を起こす有毒物質を持つ
3 6	シオヤトンボ			体長 37~48 mm 春から初夏にかけてよく見られる シオカラトンボの仲間 腹部が太く先端まで青白い 平地から低山地にかけての水田、休耕田、池などで見られる

Wikipedia 等多くのネットサイトを参考として記述した

4. 所感

雨で2回順延になっての実施となりました。ようやく快晴に恵まれたと言う安堵感より、この時期にしては大変暑く感じる一日の始まりでした。

しかし、林内は強い日差しもなく、林道沿いの植物の説明を武田先生からお聞きし瞬間に時間が過ぎました。

網引湿原は、県内最大級の湿原であること、また、歩こう会のメンバー西村充弘さんが長い間ボランティアで保存活動に携わっておられることをお聞きしていたので、大きな期待を持って参加しました。期待に違わず、よく整備された湿原で多くの生き物を観察することができ季節を変えて何度も訪れたい場所となりました。

また、当日は、あびき湿原保存会山下公明代表の湿原の説明をお聞きし、ヒメタイコウチも手に取って見せていただくことができました。お忙しい中時間を割いていただいたことにお礼を申し上げたいと思います。

このような貴重な環境を保全していくには、行政だけの力では十分ではなく、市民レベルの活動が大変重要となってきます。歩こう会の活動により生き物の大切さを理解して、保全活動に参加するという行動レベルまで引き上げていく必要があると感じました。

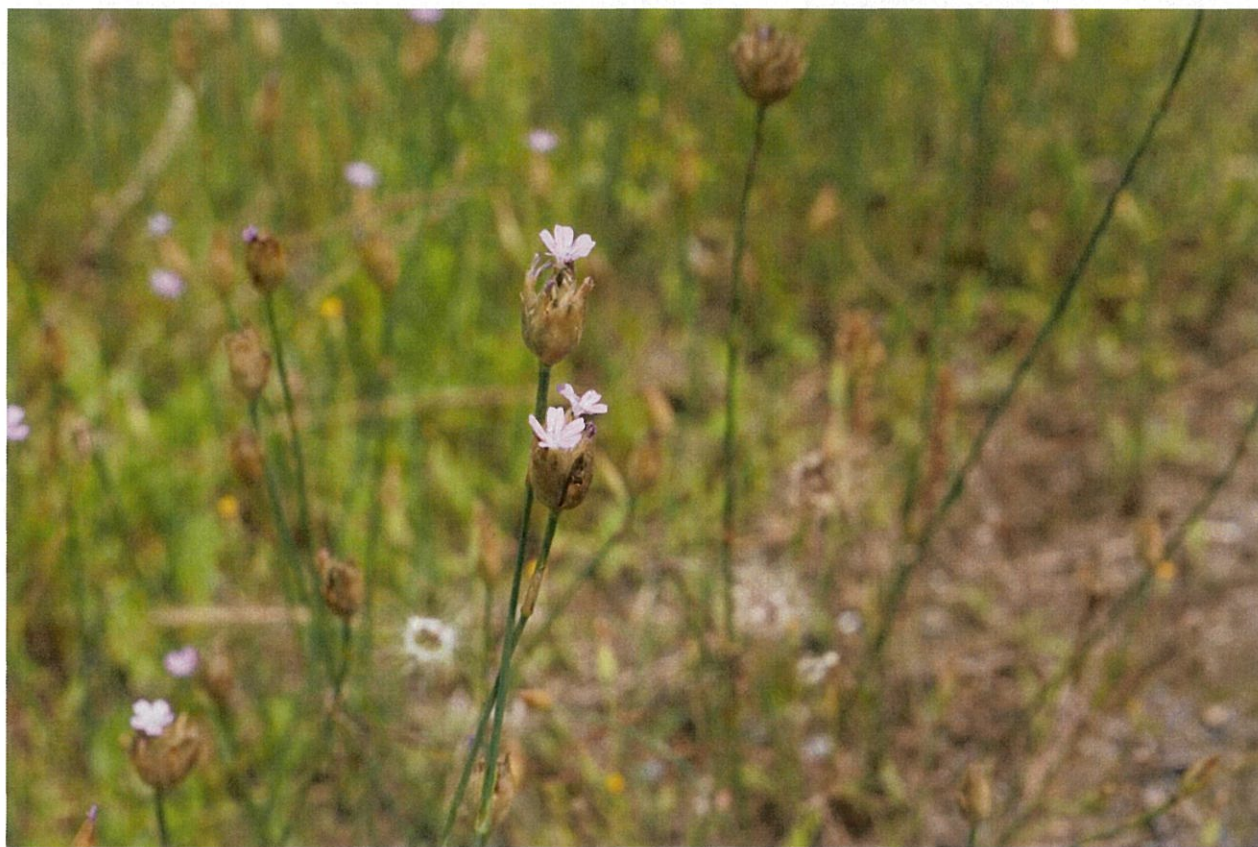
5. 参考資料

加西市 <https://www.city.kasai.hyogo.jp/soshiki/34/1676.html>

兵庫県立人と自然の博物館 <https://www.hitohaku.jp/publication/book/kyousei11-p74.pdf>

観察会 九会地区ふるさと創造会議 HP <http://kue-furusato.org/>

6. 観察アルバム



① ミチバナナデシコ (武田先生撮影)



② ユウゲショウ



③ イ



④ クリ



⑤ アラゲハンゴンソウ



⑥ オオニワゼキショウ (武田先生撮影)



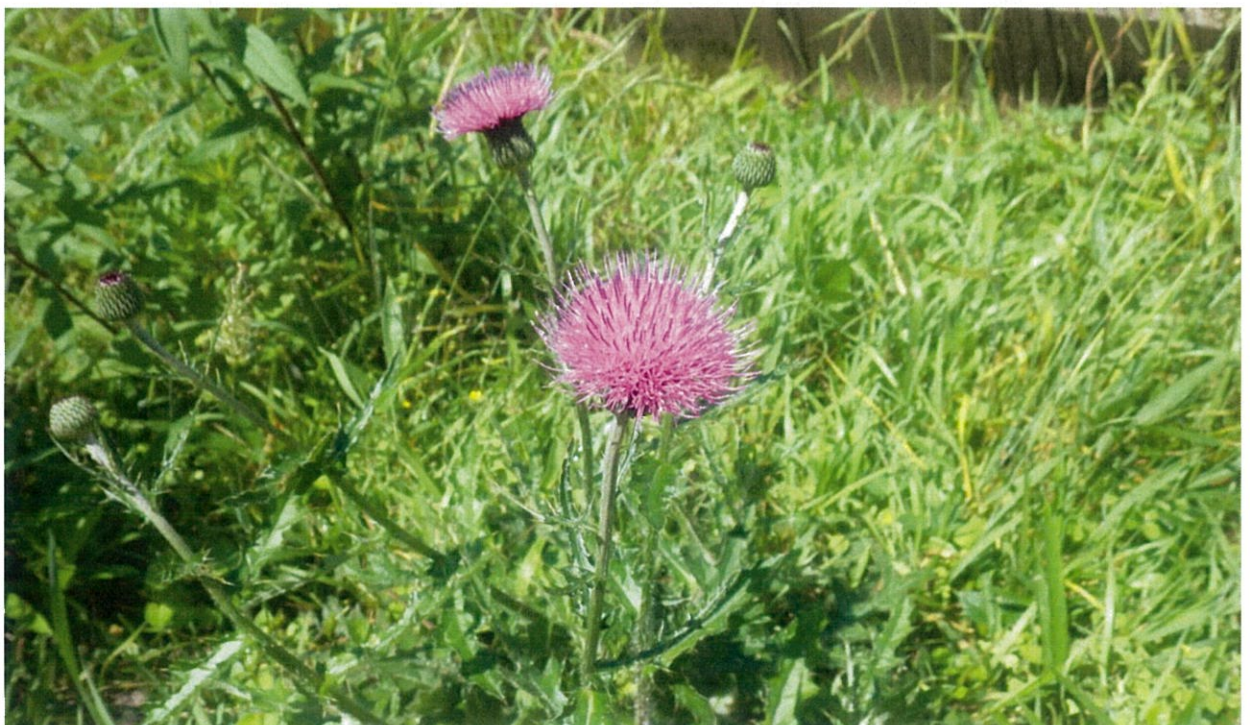
⑦ コナスビ



⑧ ヤマノイモ



⑨ サルトリイバラ



⑩ ノアザミ



⑪ タラノキ



⑫ イソノキ



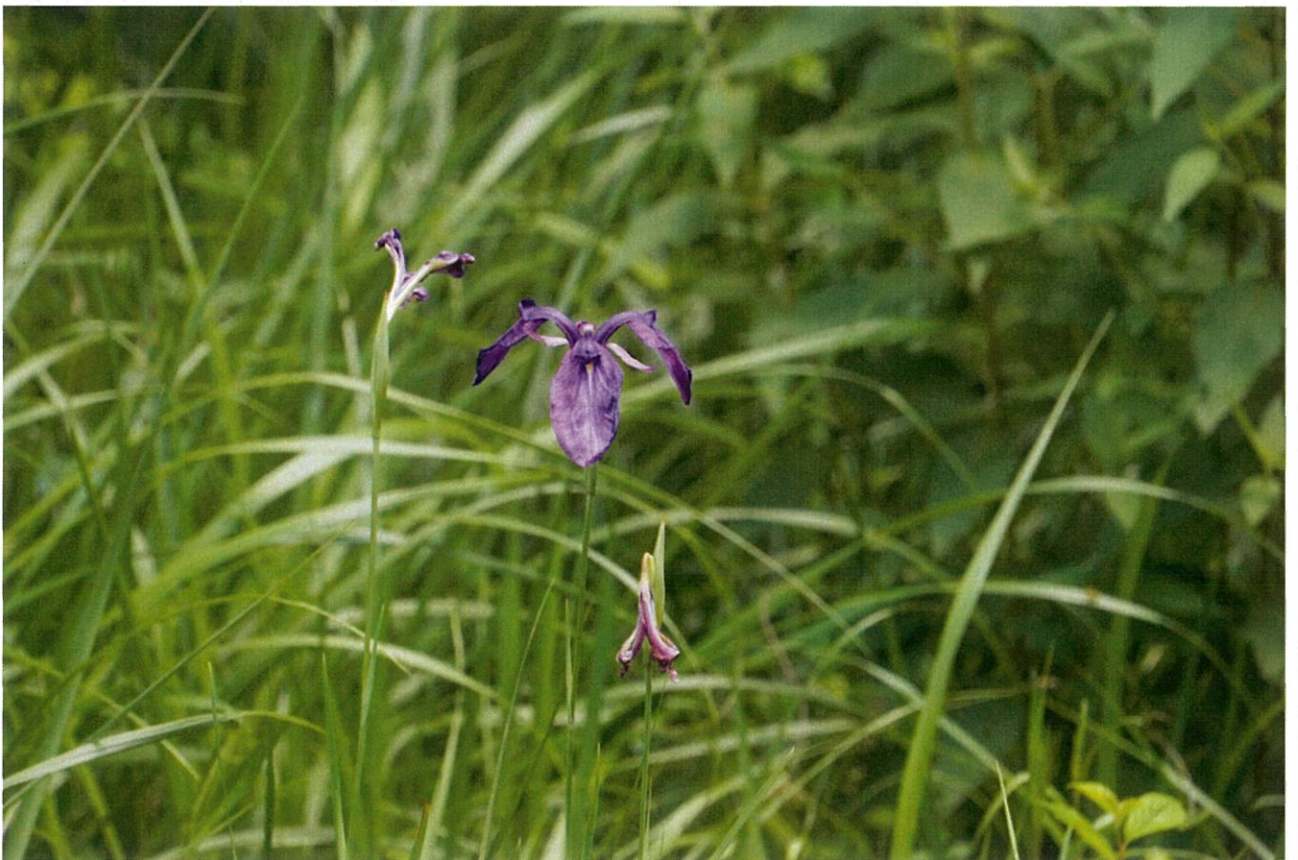
⑬ ゴボウ-1



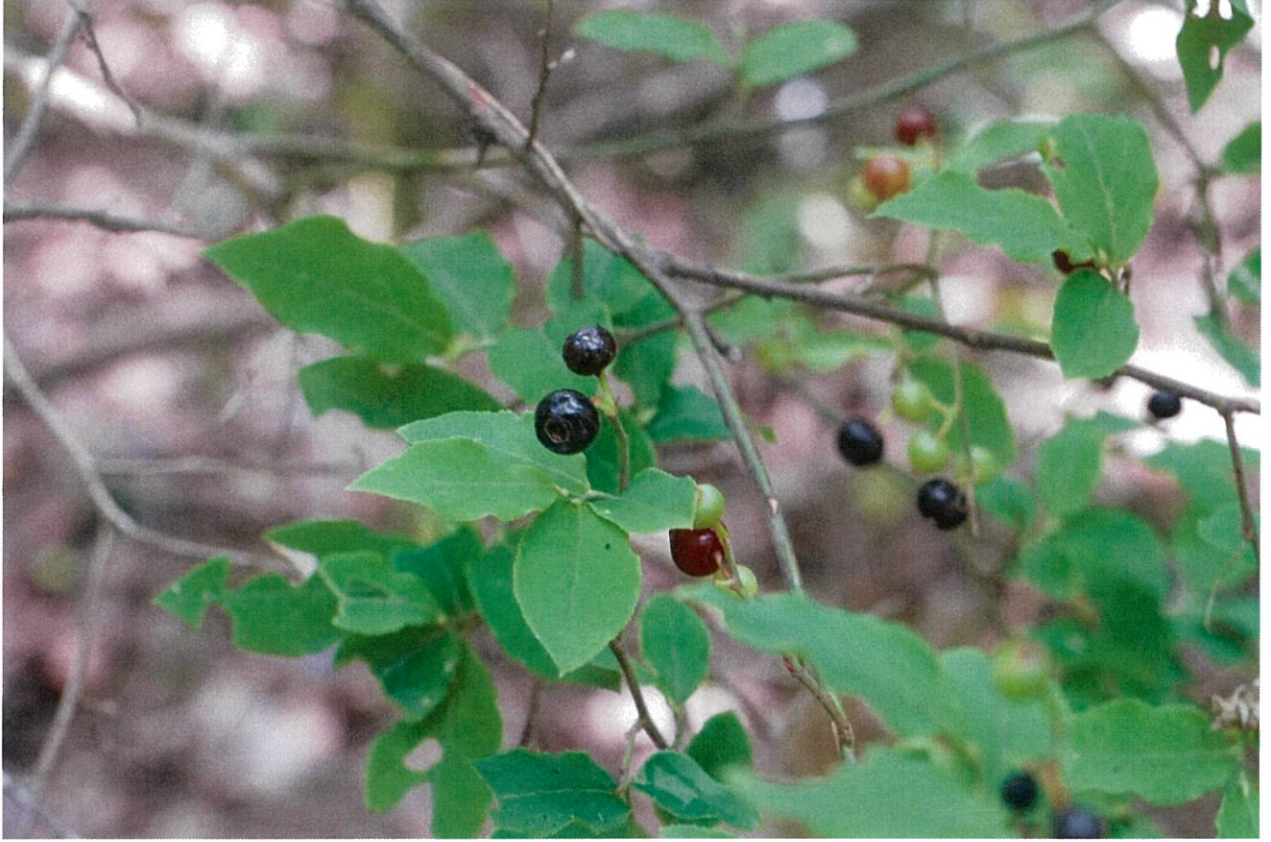
⑬ ゴボウ-2



⑭ タンナサワフタギ



⑮ ノハナショウブ (武田先生撮影)



⑩ カンサイスノキ (武田先生撮影)



⑪ コバノトンボソウ (武田先生撮影)



⑱ カキラン (武田先生撮影)



⑲ コバノタツナミソウ



⑳ トウカイコモウセンゴケ (武田先生撮影)



⑳ トウカイコモウセンゴケ花 (武田先生撮影)



⑳ ナガエモウセンゴケ (武田先生撮影)



㉑ ササユリ



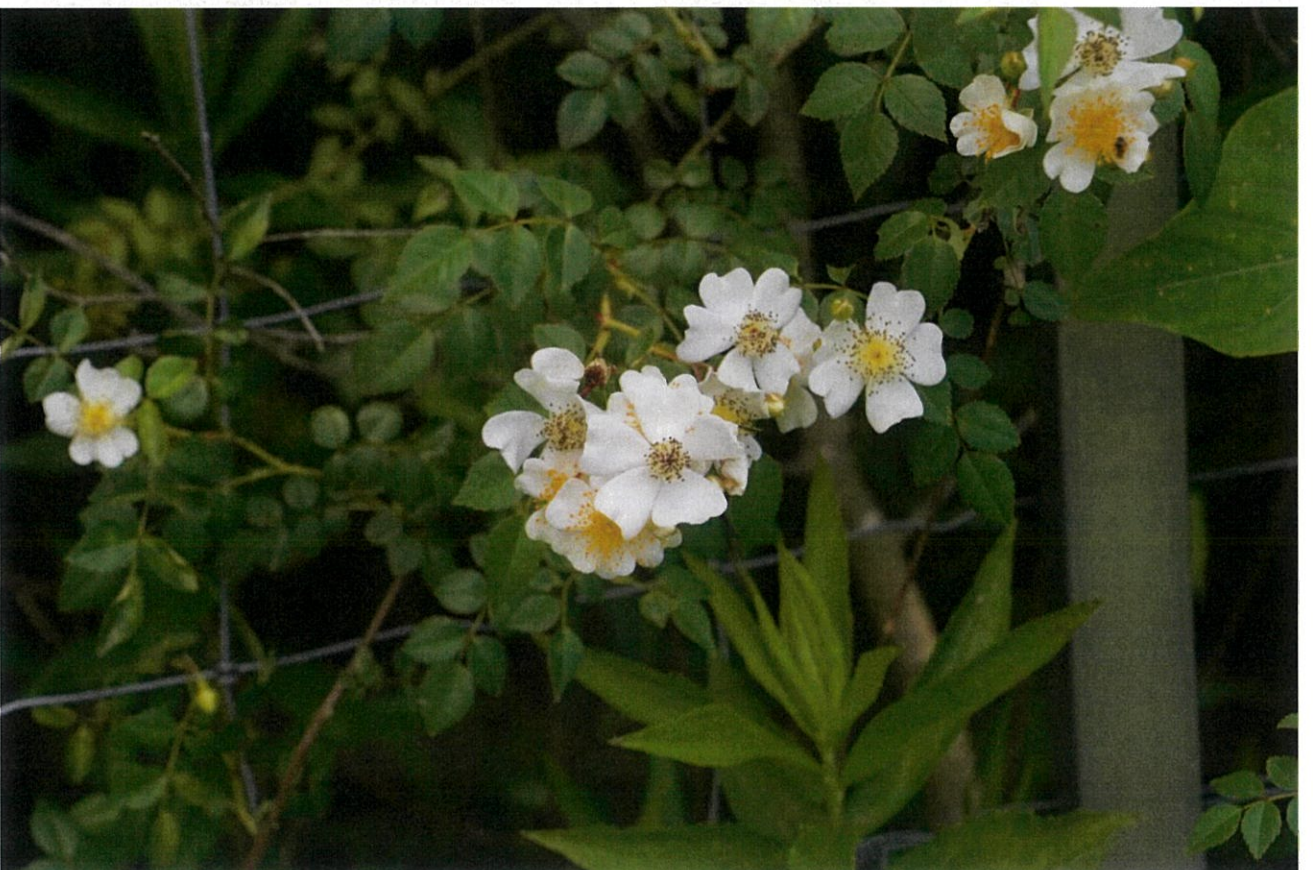
⑳ ノグサ (武田先生撮影)



㉑ シライトソウ (武田先生撮影)



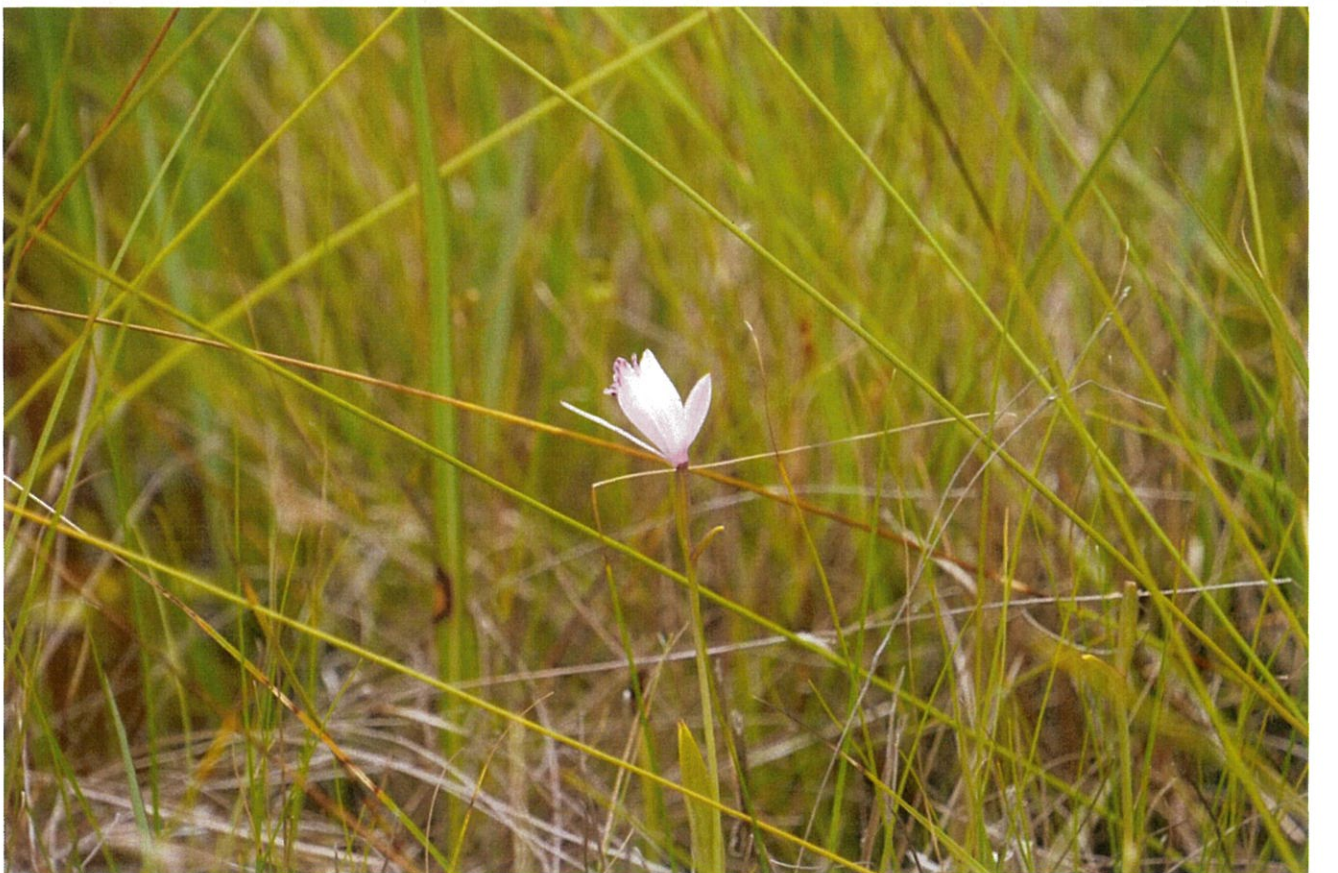
②⑤ ネジキ (武田先生撮影)



②⑥ ミヤコイバラ (武田先生撮影)



②⑦ ヤマトキソウ (武田先生撮影)



②⑧ トキソウ (武田先生撮影)



②⑨ イトタヌキモ (武田先生撮影)



③⑩ ブタナ (武田先生撮影)



③① ハッチョウトンボ オス (武田先生撮影)



③② ハッチョウトンボ メス



③③ ヒメタイコウチ (武田先生撮影)



③④ キンモンガ (武田先生撮影)



③⑤ キイロカミキリモドキ (武田先生撮影)



③⑥ シオヤトンボ (武田先生撮影)



加西市の告知板



網引湿原横穴式石室



網引湿原 バイオトイレ



観察風景-1



観察風景-2



7. 用語についての参考資料

(1) 湿原の定義（国土地理院の資料による）

一口に湿原・湿地といっても、その性質はきわめて多様であり、また時間の経過とともに姿形を変えていくものであり、したがって、湿原・湿地の定義について明確に定まっているわけではありません。（中略）どういう場合にどのように定義されているかを紹介します。

① ラムサール条約

第1条1 この条約の適用上、湿地とは、天然のものであるか人工のものであるか、永続的なものであるか一時的のものであるかを問わず、更には水が滞っているか流れているか、淡水であるか汽水であるか鹹水（かんすい＝塩水・海水）であるかを問わず、沼沢地、湿原、泥炭地または水域をいい、低潮時における水深が6メートルを超えない海域を含む。

② 国土地理院の地形図図式等

国土地理院で使われている基本図や主題図の図式により規定

② 辞典、諸文献等

これによると一律の定義はないものの、条約・地図・文献等でそれぞれ定義づけされている。

(2) 湧水湿原（滲水湿原）

- ・湧水湿地とは、湧水が地表を湿潤化することで形成された**鈹質土壌**をもつ湿地である。湧水湿地が着目される最大の理由は、貧栄養で湿潤な環境のため成立する湿地内の特殊な植生である 富田啓介（2010）「湧水湿地の特色とその保全活動」
- ・滲水湿原は**貧栄養で特異な環境**であるため、富栄養性の高茎草本植物は侵入できず、低茎草本植物を中心とした貧栄養な環境にも耐えうる湿原特有の植物が生育しています。また、植物と同様に湿原でしかみられない昆虫なども生息しています。（三田市HP・皿池湿原）
- ・日本の暖温帯（主に東海地方以西）の丘陵地や低山地には、泥炭を伴わない湿原が分布している。このような湿原は、恒常的な湧水により涵養される貧栄養な立地に成立するため、湧水湿地と呼ばれる。（中略）湧水湿地の多くは丘陵地に分布するため開発による消失が急速に進んでいる。それに加え、残存している湧水湿地でも、湿原周辺の里山が利用されなくなったことで樹木が成長し樹林が発達したため、湿原植生の被陰や乾燥が生じ、これが要因となって植生遷移の進行や湿原面積の縮小、湿原生植物の消失が起こっている
武田義明他（2012）ランドスケープ研究 75（5）「湧水湿地における周辺樹木の生長による湿原面積の縮小と種多様性の変化」

作成者 加藤哲

1	ニワゼキショウ	アヤメ科	ニワゼキショウ属	多年草 北アメリカ原産 草丈10~20cm 花(径1.5cm 1日花 6花弁 白紫・紫色)
2	カモノハシ	イネ科	カモノハシ属	多年草 草丈30~90cm 湿った草地や海岸付近に生育 小さな集団を作る 穂がカモノハシの嘴に見えることから名 葉(線形 やや硬い)
3	ハチク	イネ科	マダケ属	多年性常緑植物 中国原産 開花周期120年 開花後地上部分は枯れるが地下茎は枯れなものがかなりある 竹材・食用・漢方
4	マダケ	イネ科	マダケ属	永年性竹林 地下茎 花(イネに似る 120年周期 日本全国のマダケが一斉に花を咲かせて一斉に枯れるところがモウソウチクとの違い) タケノコ(表面は滑らかで黒点の斑点あり)
5	カクレミノ	ウコギ科	カクレミノ属	常緑高木 暖地の沿岸地に自生 葉(革質で光沢あり 互生 3本の葉脈が目立つ 変異が多い)
6	タカノツメ	ウコギ科	タカノツメ属	落葉高木 雌雄異株 別名イモノキ 葉(3出複葉 互生 美しい黄葉) 冬芽が鷹の爪を思わせることから名 山菜
7	メダラ	ウコギ科	タラノキ属	落葉低木 棘(無いか少ない) 葉(枝先に集まる 互生 奇数羽状複葉) 花(5弁で白色の小花 雌雄同株) 山菜・薬用 栽培種
8	ヒメカンアオイ	ウマノスズクサ科	カンアオイ属	多年草 ギフチョウの幼虫の食草(葉の裏に卵を産み付ける) 日本固有種 花(地面に接するように花を付ける)
9	ウラジロ	ウラジロ科	ウラジロ属	シダ植物 大群落を形成 葉の表(非常に艶がある) 葉の裏(粉を吹いて白っぽい) 正月飾りに使用 コシダと共に栽培が非常に難しい
10	ヤマハゼ	ウルシ科	ウルシ属	落葉小高木 葉(両面に毛有 特に裏面の葉軸に毛が多い 奇数羽状複葉 新しい葉柄は赤紫色) 雌雄異株 果実(ハゼノキと違って楕円形には向かない) 人によってはかぶれるので注意
11	オッタチカタバミ	カタバミ科	カタバミ属	多年草 北アメリカ原産の帰化植物 草丈10~50cm 葉(ハート形の3出複葉) 花(黄色の5弁花) 全体に白い毛が多い 茎が立ち上ることからの名
12	ノグサ	カヤツリグサ科	ノグサ属	1年草 草丈20~40cm 日当たりの良い湿地に生育 叢生 茎(細い 地下茎無し) 葉(幅0.5~1mm) 野にある雑草の意味の名 兵庫県では準絶滅危惧種に指定
13	セイタカアワダチソウ	キク科	アキノキリンソウ属	多年草 北アメリカ原産の帰化植物 草丈1~2.5m 大きな群落を形成 全体に硬い毛が多くざらつく 葉(3本脈) 蜜源・薬草
14	キセルアザミ	キク科	アザミ属	多年草 草丈50~100cm 湿地に生育 葉(ロゼット状の根生葉) 花(夏開花 筒状花のみ 紫色) 下向きに咲く様子が煙管のように見えることからの名
15	タムランウ	キク科	タムランウ属	多年草 草丈30~140cm 葉(アザミのような棘は無い 粗い鋸歯あり) 花(秋に開花 アザミのような花) アキノタムラソウ(シソ科)は完全な別種 牧野氏は「語源は不明である」と述べている
16	ノギラン	キンコウカ科	ノギラン属	多年草 草丈15~50cm やや湿った場所に生育 花茎(葉のよく似た ショウジョウバカマは葉の中心から立つがノギランは中心から立ち上がらない) 花(黄緑色の小さな花を上向きに多数つける) 花の付き方がラン科に類似して長く尖った花弁の先が芒に似ることからの名
17	オカトラノオ	サクラソウ科	オカトラノオ属	多年草 草丈50~100cm 日当たりの良い草原に群生 葉(互生 全縁) 花(白色 15cmの総状 花穂の先端が虎の尾のように垂れ下がる)
18	クマヤナギ	クロウメモドキ科	クマヤナギ属	つる性落葉低木 葉(互生 葉脈が目立つ) 花(緑白色の小さな5弁花) 生食・果実酒・薬用
19	カラタチバナ	サクラソウ科	ヤブコウジ属	常緑小低木 別名百両 樹高20~100cm 冬に赤い実をつける 正月の縁起物 全体の姿はマンリョウに似るが葉や果実は大きい
20	ヤブコウジ	サクラソウ科	ヤブコウジ属	常緑小低木 別名十両 高さ10~30cm 葉(3~4枚輪生 光沢あり)花(白・ピンク色) 実(赤色) 正月の縁起物・園芸・薬用
21	シシガシラ	シシガシラ科	ヒリュウシダ属	常緑シダ植物 日本固有種 葉(平開する栄養葉と直立する胞子葉のはっきりした二形) 中心から広がる葉が獅子のたてがみの様
22	クサギ	シソ科	クサギ属	落葉低木 葉に悪臭があることからの名 先駆植物 葉(対生 質は柔らかい) 若葉(食用・薬用) 果実(赤い萼と丸い藍色の実が良く目立つ)
23	コバノタツナミソウ	シソ科	タツナミソウ属	多年草 草丈5~20cm 海岸近くに多い ピロード状の短毛が密生 葉(ピロード質) 花(唇形 紫・ピンク・白色) タツナミソウより全体に一回り小さい
24	シュロソウ	シュロソウ科	シュロソウ属	多年草 やや湿った草地に生育 草丈50~100cm 葉(大型 基部は茎を囲む しわ状の並行脈) 花(暗紫色の多数の花を横向きにつける) 葉の付け根にシュロのような毛があることからの名 有毒植物
25	ガンビ	ジンチョウゲ科	ガンビ属	落葉低木 別名カミノキ 暖地を好み山中の日当たりの良い所に生える 葉(互生) 花(枝先に黄色の小花が集まって付く 花弁無し がつが筒状で先端が4裂する) 奈良時代からの製紙原料
26	スイカズラ	スイカズラ科	スイカズラ属	常緑つる性木本 日本原産 和名は「吸い葛」で花筒をちぎって蜜を吸うことからの名 薬用・食用・染料
27	ツクバネウツギ	スイカズラ科	ツクバネウツギ属	落葉低木 密に分枝する 葉(ツクバネウツギより小さい 対生 両面に短い毛あり) 花(薄いクリーム色で内側にオレンジの斑点あり 淡いピンクの花もある) 萼(2枚) 日本固有種
28	ツクバネウツギ	スイカズラ科	ツクバネウツギ属	落葉低木 密に分枝する 葉(対生 両面に短い毛あり) 花(2輪1組の白色で内側に黄色の斑点あり) 萼片(5枚)

29	ギンギン	タデ科	スイバ属	多年草 在来種 草丈40~130cm 驚異の繁殖力 茎(太い) 葉(10~25cm 互生) 花(花弁無し 雌雄同株) 薬用・食用 よく似た植物にアレチギンギン・ナガバギンギンなど
30	ホザキミミカキグサ	タヌキモ科	タヌキモ属	多年草 食虫植物(地下茎に捕虫囊) 湿地に生育 草丈10~30cm 葉(殆ど見えないほどのへら型) 花(紅紫色 唇形 距が横向き) 果実(耳かき状にならない)
31	ミミカキグサ	タヌキモ科	タヌキモ属	多年草 食虫植物(地下茎に捕虫囊) 湿原に生育 草丈5~15cm 葉(線形 7mm)花(黄色 唇形) 果実(耳かき状) 花後の実と萼の形が耳かきに似ることからの名
32	ムラサキミミカキグサ	タヌキモ科	タヌキモ属	多年草 食虫植物(地下茎に捕虫囊) 湿地に生育 草丈5~15cm 葉(沈水葉と気中葉の2形) 花(淡青色~紫色) 果実(耳かき状) 絶滅危惧II類
33	スノキ	ツツジ科	スノキ属	落葉低木 葉や果実を噛むと酸っぱい味がするため「酔の木」 果実(日本のブルーベリー) 花(サラサドウダンに似た釣鐘状 下向き)
34	ナンキンハゼ	トウダイグサ科	ナンキンハゼ属	落葉高木 中国原産 葉(ハート形) ウルシ科のハゼノキと別物でかぶれることはない 雌雄異株 紅葉と白い実が美しい
35	カマツカ	バラ科	カマツカ属	落葉低木 別名ウシゴロシ 葉(先が尖り細鋸歯あり) 花(リングに似た白色5弁花 枝先に20輪程つく) 果実(赤い梨状果) 材(緻密で非常に硬い)を鎌の柄に用いたことからの名
36	ピロドイチゴ	バラ科	キイチゴ属	落葉低木 樹高1~2m 茎(ピロド状の短毛が密生 棘あり) 花(白色1個下向きに付く) 果実(オレンジ色の集合果 美味) 葉・葉脈の裏に棘あり 新枝にピロド状の毛が密生することからの名
37	ノブドウ	ブドウ科	ノブドウ属	つる性落葉低木 在来種 2分岐した巻きひげで他物に絡みつく 葉(互生) 花(黄緑色 密が豊富) 果実(カラフル 食べれない)
38	コナラ	ブナ科	コナラ属	落葉高木 クヌギと並ぶ雑木林の主 ミズナラより小さいことからの名 若葉(絹毛が密生し銀色に輝く) 雌雄同株 ドングリ(アク抜きが必要)
39	コマツナギ	マメ科	コマツナギ属	落葉小低木 幹(高さ60~90cm) 葉(奇数羽状複葉 互生 伏毛多い) 花(紅紫色 ハギに似た花が穂状に群がって咲く) モンキチョウの食草 山菜
40	フユザンショウ	ミカン科	サンショウ属	常緑低木 冬でも葉を落とさないことからの名 樹皮(対生の棘) 葉(奇数羽状複葉 葉柄に翼あり 葉柄の基部に体制の棘あり) 雌雄異株 日本には雌株のみ サンショウの台木に使用
41	ナガエモウセンゴケ	モウセンゴケ科	モウセンゴケ属	北アメリカ~ヨーロッパ原産 花(白色) 在来のモウセンゴケと交雑する可能性があり、遺伝子攪乱の問題が危惧される 2016年特定外来生物に認定
42	モウセンゴケ	モウセンゴケ科	モウセンゴケ属	多年草 食虫植物(葉にある赤い粘毛から粘液を分泌して虫を捕獲する) 湿地に生育 コケと付くが種子植物 花(6~8月に開花 白い5弁花)
43	カキラン	ラン科	カキラン属	多年草 草丈30~70cm 葉(互生 基部が茎を抱く 並行脈沿いにくっきりとしたしわが入る) 花(黄褐色 唇形の紅紫色の模様あり 茎の先に10個程付ける) 花の色が柿の実に似ることからの名
44	オオバノトンボソウ	ラン科	ツレサギソウ属	多年草 草丈25~60cm 茎(直立 翼状の稜目立つ) 葉(下方の2~3枚大きく上の物ほど小さい) 花(黄緑色 総状花序 トンボというよりはクリオネに似ている感じ)
45	トキシソウ	ラン科	トキシソウ属	多年草 草丈10~30cm 日当たりの良い湿地に生育 葉(1茎に1枚のみ) 花(紅紫色 1個 唇形) 準絶滅危惧
46	リョウブ	リョウブ科	リョウブ属	落葉高木 幹(株立ち) 樹皮(サルスベリ・ナツツバキのように剥離 樹齢を重ねるとカゴノキ・プラタナスのような斑模様も見られる) 葉(枝先に集まる) 花(20cmほどになる花序 蜜源) 山菜・ハチミツ

昆虫網 追加

1	ツチイナゴ	バッタ科	ツチイナゴ属	大きさ♂50~55mm ♀50~70mm 独特の模様がある褐色、黄褐色のバッタ 藁の葉を好んで食べる 成虫で越冬する唯一のバッタ
2	ホソヒラタアブ	ハナアブ科	ホソヒラタアブ属	大きさ8~11mm 腹部黄褐色と黒帯路の縞模様 ホバリングしながら花から花へ飛び回る 幼虫はアブラムシを食べる
3	ギフチョウ	アゲハチョウ科	ギフチョウ属	大きさ27~36mm 準絶滅危惧種 黄と黒の縞模様が目立つ 網引湿原では4月10日頃見られる 幼虫の食草はヒメカンアオイ・ミヤコアオイ(保存会の方がカヒメンアオイを株分けして増やしている)

ノハナショウブ・アヤメ・カキツバタの違い

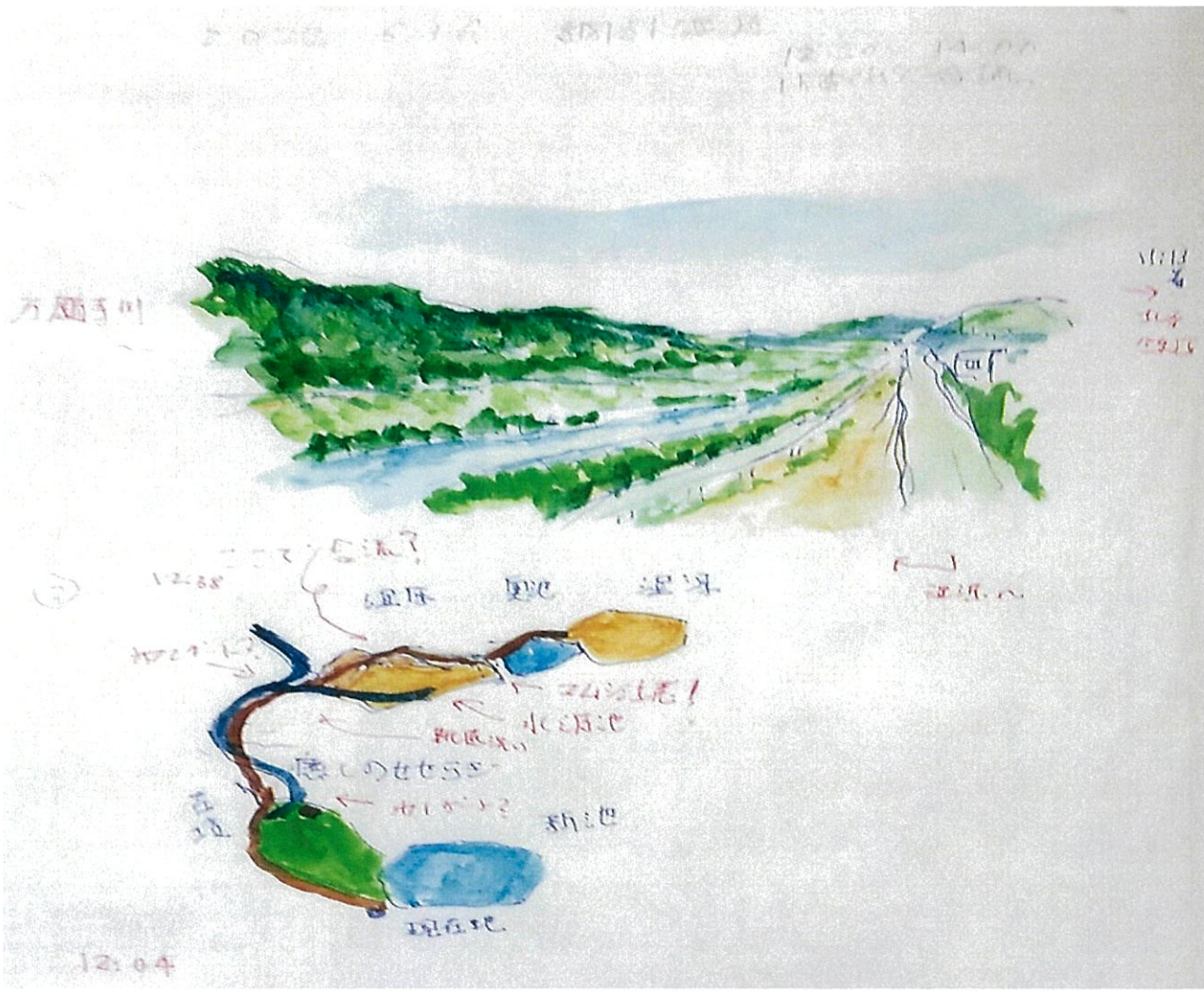
ノハナショウブノ	花びらの基部に黄色のすじが入る	湿り気の多い場所に生育
アヤメ	花びらの基部に網目模様が入る	乾いた草原に生育
カキツバタ	花びらの基部に白色から淡黄色のすじが入る	水中・ノハナショウブノより湿った場所に生育

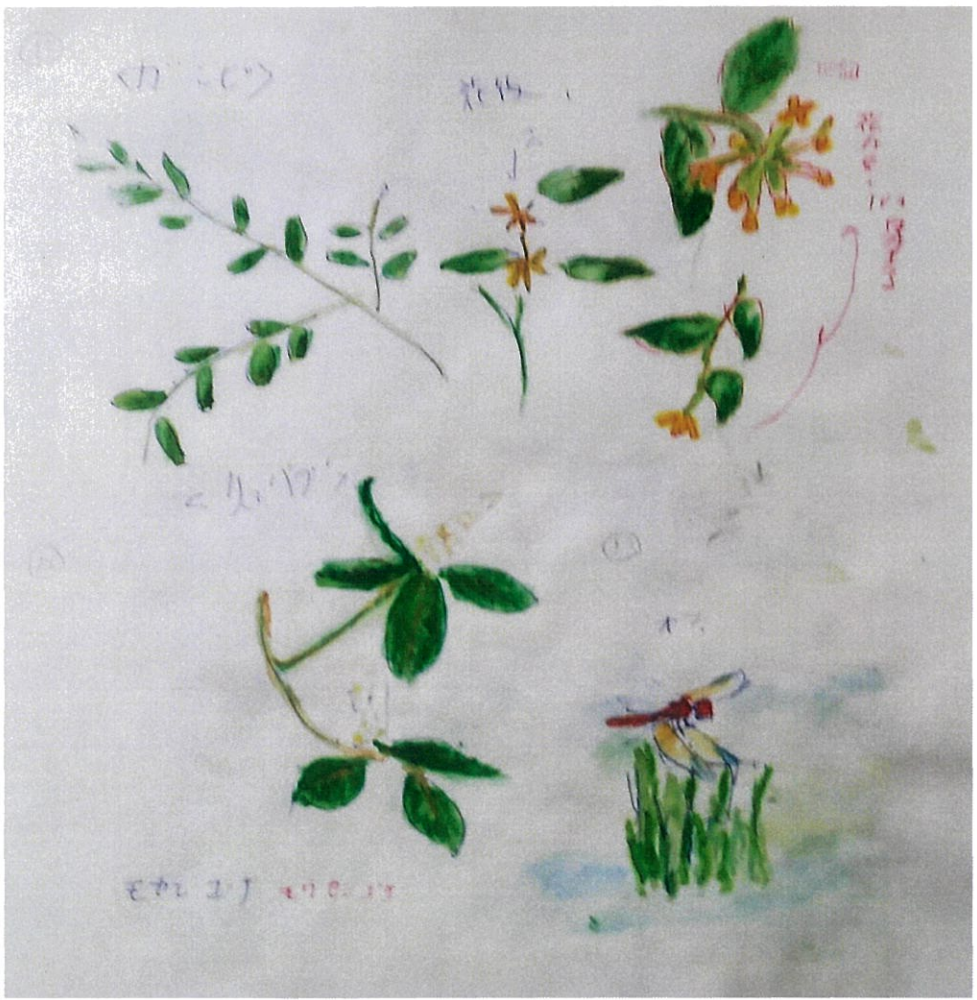
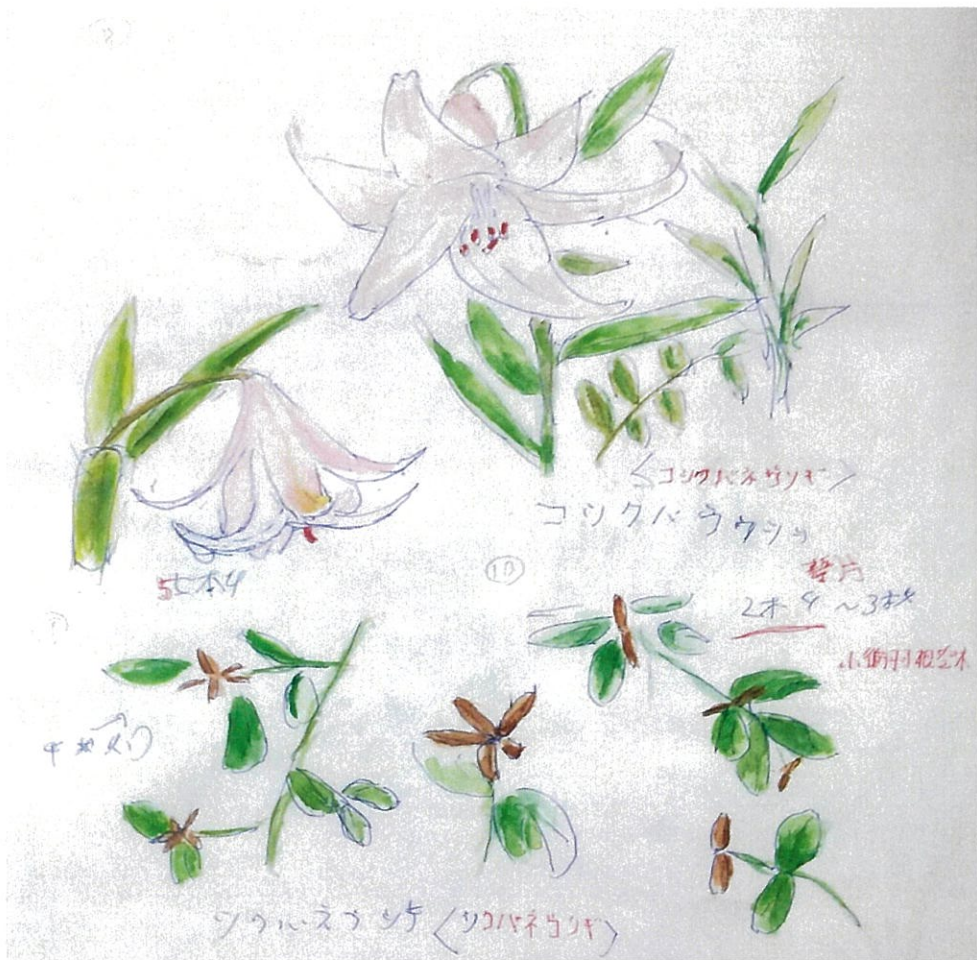
ノイバラ・ミヤコイバラの違い

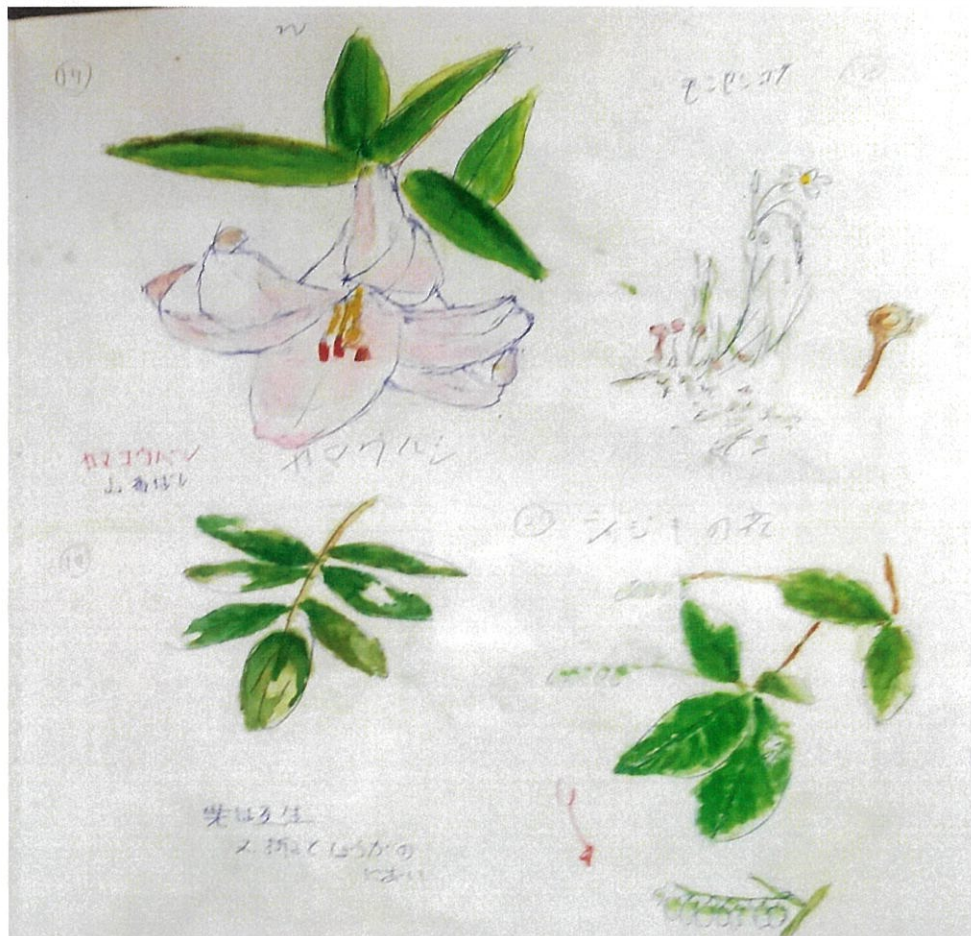
ノイバラ	花期は5~6月 小葉2~4対で質は薄く浅緑色で光沢無し	托葉は櫛状に裂け葉柄に合着	花柱に毛無し
ミヤコイバラ	花期は6~7月 小葉2~4対 大きなカギ状の棘があり腺毛がある	托葉の上部の縁に隙になった鋸歯あり	花柱に毛有り

オカトラノオに似た植物

ノジトラノオ	湿った草地に生える 絶滅危惧II類
ヌマトラノオ	湿地や川のながれのほとりに生育 花序は下に垂れない
イヌヌマトラノ	湿った場所に生える オカトラノオとヌマトラノオの自然交雑種









	綱引 6月16日	漢字 晴	花・実	その他 黄色写真あり	前回 など
1	万願寺川			綱引駅 (11:13) から万願寺川から綱引湿地に (12:30) 駅の反対側に15分程度道に迷う	
2	綱引湿地地図			湿地入口看板	
3	ハッコウトンボ	オス	赤		
4	ハッコウトンボ	メス	縞々	阪神タイガース	
5	メハナショウブ		紫		
6	水源地			入らせてもらいました。	
7	ササユリ		花後		
8	ササユリ		ピンク		
9	ツクバネウツギ		花後	萼片 5本	
10	コツクバネウツギ		花後	萼片 2~3本	
11	ガンピ		花後		
12	リョウブ		白		
13	ハッコウトンボ	オス			
14	モウセンゴケ				
15	奥池				
16	第二湿地				
17	ササユリ		ピンク		
18	モウセンゴケ		白	花?	
19	ヤマコウバシ				
20	ネジキ		白		
21	湿地入口			足洗い場	
22	サルトリイバラ	実	実 緑	リースなどに利用 食用可 柏餅	
23	モンキチョウ		黄色	メスは白 紋があるかでモンキチョウと区別	
24					
25					
26					

2023/6/16網引湿原



クマヤナギ



スイカズラ



カモノハシ



山下さん



ササユリ



トキソウ



白馬へ

7月31日～8月2日

参加者：武田先生、太田さん、梶谷さん、越間さん、三木さん、吉井さん(太田さん友人)

交通：新大阪←(新幹線ひかり)→名古屋←(特急しなの)→松本←(普通電車)→白馬

JR ジパング倶楽部利用で1人 往復 17,080円

宿：ペンションあるかんしえる (長野県北安曇郡白馬村北城) 地図の○印

2泊 19,000円

その他：八方尾根 Gondola・リフト 3,200円

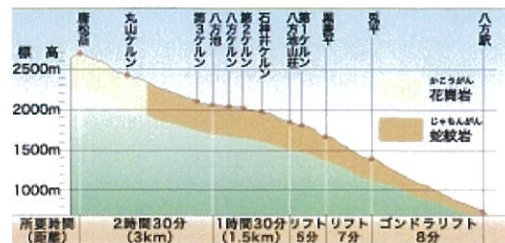
梅池自然園ロープウェイ・ゴンドラ 3,700円

(予定していた現地ガイドは参加人数が少なくなったのでお断りした。)



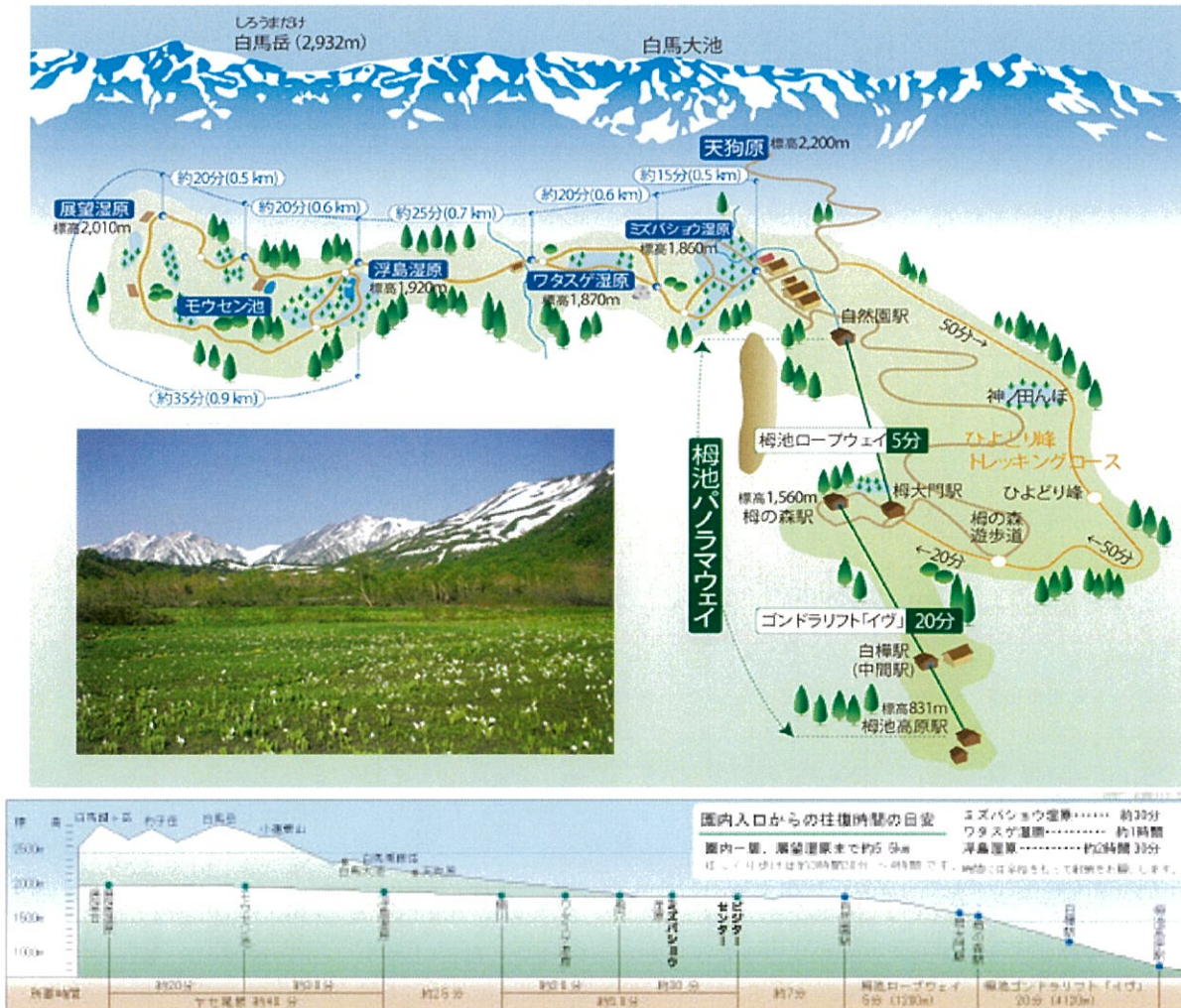
武田先生 (Facebookより)

8月1日に放送大学兵庫学習センターの学生さんと八方尾根に行ってきました。久しぶりの高山です。ゴンドラとリフトに乗って、終点から八方池まで往復しました。雨は降りませんでした。高山だから涼しかとおもいきやかやなり暑かった。今年は花の咲くのが早かったようでしたが、様々な高山植物を見ることができました。



武田先生 (Facebookより)

8月2日。八方尾根に続いて、梅池自然園へ行きました。亜高山帯の植物をたくさん見ることができました。雪が多いせいか亜高山の針葉樹林帯の発達が悪い。白馬岳の山頂は帰る電車の中からやっと拝めた。



越間さん

白馬村は標高約800mあるにもかかわらず関西と変わりなく暑かった、どころか、八方尾根も標高2,500m超すも又、暑かった。ペンションの部屋もエアコンなし、小生にとっては初物尽くしで、長野県・信濃の国も初、ペンションも初、標高も初、筋肉痛も初・・・いまだに継続中。

7/31(月)、新大阪駅の新幹線ホームで玉垣さんから差し入れをいただき、名古屋・松本を乗り継ぎ白馬駅へ到着、ペンション・オーナーの峯村さんご夫妻が迎えてくれてチェックイン、周辺を散策、入浴、18時半から夕食(メインディッシュは洋食で二皿もあるもメニューは、魚と肉料理で美味かったけど、あえて割愛)、ラウンジで懇親会。昼食用の弁当を頼んで正解・めちゃくちゃ美味かった。

8/1(火)、八方尾根は石ころだらけの山道のためスティックは必要でしょうね。
8/2(水)、梅池自然園は木道で昨日に比べて歩きやすかった。帰りは梅池自然園の乗り場からシャトルバスで白馬駅へ、駅前でコーヒー・ブレイク、予定どおりの15:51発の電車で帰途へ。
車窓からの満月が綺麗でした。皆さまのご協力に深謝します。

1	ヤナギラン	アカバナ科	ヤナギラン属	多年草 草丈50~100cm 大群落 葉(互生) 花(赤桃色の4弁花) 葉が柳に似て花をランに例えたことからの名
2	カラハナソウ	アサ科	カラハナソウ属	多年草 つる性 雌雄異株 ホップと近縁 葉と莖に鉤状の棘あり 葉(長柄 対生) 果穂(松かさのようで垂れ下がる) 食用
3	ヒオウギアヤメ (写真106)	アヤメ科	アヤメ属	多年草 草丈70cm 深山の温原に生育 葉(アヤメよりやや幅広い) 花(紫~青色 1日花) 葉が槍扇に似ていることからの名
4	ホウチャクソウ	イヌサフラン科	チゴユリ属	多年草 草丈30~60cm 葉(互生) 花(2cm程の筒状の花が莖の先端に1~3個垂れ下がる) 果実(黒色) 全草有毒
5	アカソ	イラクサ科	ヤブマオ属	多年草 草丈50~80cm 茎・葉柄は赤味を帯びる 茎(叢生) 葉(対生 3脈 葉先が3裂) 雌雄同株 昔は衣服などの植物繊維の材料とされた
6	ハリブキ (105)	ウコギ科	ハリブキ属	落葉低木 樹高1m 日本固有種 茎(針状の棘が密生) 葉(互生 径30~40cmの掌状 葉柄・葉脈に棘あり) 花(緑白色の小さな花 雌雄異株) 果実(赤色) 薬草
7	サルオガセ (61)	ウメノキゴケ科	サルオガセ属	樹皮に付着して懸垂する糸状の地衣 霧のかかるような森林の樹上に着生し下垂する 水分と光合成だけで成長 寄生植物ではない
8	ツタウルシ	ウルシ科	ウルシ属	落葉つる性木本 気根で這い上がる 葉(互生 3出複葉) 雌雄異株 有毒植物(最凶 かぶれ成分はゴム手袋も浸透する)
9	ヤマウルシ	ウルシ科	ウルシ属	落葉低木 幹(縦に入ったスジが特徴) 葉(奇数羽状複葉 小葉6~8対 毛有 大きさが先端から根元に向けて小さくなっていく 軸が枝の先端から放射状に広がる) 雌雄異株 有毒植物 漆器の染料
10	クガイソウ (45)	オオバコ科	クガイソウ属	多年草 草丈80~130cm 日当たりの良い草地に生育 茎(円形で直立) 葉(4~8枚輪生) 花(淡紫色 長い穂状) 生薬
11	オトコエシ (32)	オミナエシ科	オミナエシ属	多年草 草丈60~100cm 大群落 全体に毛が多く濃い感じ 葉(対生 羽根状) 花(白色 集散花序) 薬用・食用
12	ハクサンオミナエシ (96)	オミナエシ科	オミナエシ属	多年草 草丈20~60cm 日本固有種 山地の岩場に生育 葉(対生 掌状に3~5中裂) 花(花冠が5裂した黄色の小花を多数つける 短い距あり)
13	ダケガンバ	カバノキ科	カバノキ属	落葉高木 シラカバより高い高度に分布 葉(5~10cmの三角状卵形) 雌雄同株 枝が白くて幹と同じ(シラカバは黒い枝) 樹皮が剥がれてポロポロ(シラカバは黒い「への字」模様)
14	ネコシデ (88 89)	カバノキ科	カバノキ属	落葉高木 日本固有種 小枝(サロメチール臭あり) 葉(互生 裏面が著しく粉白色を帯びる 粗い鋸歯) 果穂(上向きに付く)
15	タカネクロスゲ (72)	カヤツリグサ科	ホルタイ属? アブラガヤ属?	多年草 草丈15~30cm 高山の湿性な斜面に生育 スゲ属ではない花(頂生 散房状~複散房状)
16	ダケスゲ (77)	カヤツリグサ科	スゲ属	多年草 草丈10~30cm 高山帯の高層温原に生育 葉(幅3mm) 絶滅危惧II類
17	ハクサンシャジン (98)	キキョウ科	ツリガネニンジン属	多年草 草丈30~50cm ツリガネニンジンの高山型(ツリガネニンジンの漢名をシャジンという) 茎(有毛) 葉(無毛 鋭く尖る鋸歯 節ごとに輪生) 花(淡紫色 3~6個を2~3段下向きに輪生)
18	ヤマホタルブクロ	キキョウ科	ホタルブクロ属	多年草 草丈50~70cm 全体に密に毛が生える 花(淡紫色~濃赤紫色・白色 内側に濃紫色の斑点あり) 食用
19	オニアザミ (33)	キク科	アザミ属	多年草 草丈1m 葉(深裂 縁に鋭い棘あり) 花(筒状花のみ 紫色 総苞粘る)
20	タテヤマアザミ (78)	キク科	アザミ属	多年草 草丈60~150cm 日本固有種 葉(花時には枯れる) 花(2~5個単性 紅紫色 横~下向きに咲かせる)
21	ハッポウアザミ (101)	キク科	アザミ属	多年草 草丈40~70cm 八方尾根だけに生える日本固有種 蛇紋岩崩壊地に生育 タテヤマアザミとは茎葉が深裂し総苞片に腺点があることで区別する 花(紅紫色 下向き)
22	ハッポウウスユキソウ (102 103)	キク科	ウスユキソウ属	多年草 草丈10~30cm 固有品種 蛇紋岩崩壊地に生育 葉(互生 2~3cmの披針形 両面に綿毛あり 葉が斜上してつづのが特徴) 花(灰白色 苞葉が数個つき表面に綿毛が密生しその間に黄色の花を付ける)
23	コウモリソウ (52)	キク科	コウモリソウ属	多年草 草丈30~70cm 日本固有種 葉(互生) 花(筒状花のみまばらにつく 白~淡黄色) 葉の形がコウモリが翼を広げた形に似ることからの名
24	ゴマナ (58)	キク科	シオン属	多年草 草丈100~150cm 日本固有種 茎・葉に細かい毛がありざらつく 葉(互生) 花(舌状花白色 筒状花黄色) 葉がゴマに似ることからの名 食用
25	タムラソウ (83)	キク科	タムラソウ属	多年草 草丈30~140cm 葉(アザミのような棘無し) 花(アザミのよう) 「和名タムラソウの語源は不明」と牧野は述べている
26	クロトウヒレン (51)	キク科	トウヒレン属	多年草 草丈15~70cm 日本固有種 葉(互生) 花(紅紫色 アザミに似る頭花を2・3個つける) 蕾の色が黒であることからの名
27	タカネニガナ (74)	キク科	ニナガ属	多年草 草丈10~20cm 砂礫・岩礫地に生育 葉(茎を抱かない) 花(枝先に数輪黄色の花を付ける 舌状花のみ花弁8~11枚)
28	ミヤマニガナ	キク科	ニナガ属	多年草 草丈10~20cm 高山の草地に自生 花(黄色 5~6個で先に細かい切れ込みが入る舌状花)
29	ヒヨドリバナ (109)	キク科	ヒヨドリバナ属	多年草 草丈1~2m 葉(対生 両面にまばらな毛あり フジバカマに似るが通常3裂しない) 花(散房状に筒状花をのみを多数つける) アサギマダラが吸蜜

30	ミヤマアズマギク	キク科	ムカシヨモギ属	多年草 草丈10~40cm 高山系のアズマギク 茎(軟毛あり) 花(花期7~8月 1個で中心が黄色で回りは薄紫色)
31	オタカラコウ (31)	キク科	メタカラコウ属	多年草 草丈1~2m 湿った草地に生育 葉(ツブキに似る) 花(頭花は黄色 舌状花5~9個で花が終わると下を向く 筒状花は20個)
32	ヒトツバヨモギ (107)	キク科	ヨモギ属	多年草 草丈70~100cm 日本固有種 群生 葉(互生 裏白い毛が密生 ヨモギのように深裂しない) 花(筒状花のみ 総苞にくも毛あり) 葉が裂けず単葉であることからの名
33	オオバギボウシ (24)	キジカクシ科	ギボウシ属	多年草 東アジア原産 草丈50~100cm 葉(根生葉 長い葉柄) 花(白・淡紫色 ベル形でやや下向きに) 山菜名ウルイ 薬用
34	コバギボウシ (56)	キジカクシ科	ギボウシ属	多年草 草丈30~50cm 日当たりの良い湿地に生育 葉(根生葉 葉柄あり) 花(漏斗型 内側に濃紫色~淡紫色のすじが入る)
35	キンコウカ (42)	キンコウカ科	キンコウカ属	多年草 草丈20~40cm 日本固有種 湿地に群生 葉(根生 アヤメのような線型) 花(6枚の星形の黄色) 有毒植物
36	ネバリノギラン (92)	キンコウカ科	ソクシンラン属	多年草 草丈20~40cm 日本固有種 湿った草地に生育 花(咲いているのが蕾なのかわからないような花 ノギランは平開) ノギランに似るが花序軸等に腺毛があり粘ることからの名
37	オオレイジンソウ (28)	キンボウゲ科	トリカブト属	多年草 草丈50~100cm 日本固有種 湿った草地に生育 茎(直立) 葉(長い葉柄を持つ根出葉) 花(淡黄色) 有毒植物
38	サラシナショウマ (60)	キンボウゲ科	サラシナショウマ属	多年草 草丈40~150cm 葉(互生 長柄 羽状複葉 悪臭あり) 花(20~30cmの白い穂状) 若芽を茹でて水に晒して食べたことからの名 生薬
39	オオバクロモジ (23)	クスノキ科	クロモジ属	落葉高木 太平洋側に生えるクロモジの変種で日本海側の多雪地帯に生育 葉(互生 クロモジより大きく光沢無し) 花(黄緑色の小花 雌雄異株) 油・お茶・爪楊枝・生薬
40	ヤマグワ	クワ科	クワ属	落葉小高木 葉(互生 形は多様 3行脈) 花(雌雄異株 花弁無し) 果実(生食可)薬用
41	オカトラノオ (29)	サクラソウ科	オカトラノオ属	多年草 草丈50~100cm 日当たりの良い草原に群生 葉(互生 葉柄あり) 花(白色の小さな花を茎の先端につけ下方から開花)
42	イブキジャコウソウ (7)	シソ科	イブキジャコウソウ属	小低木 樹高3~15cm 葉(対生 5~10mm 全縁) 花(紅紫色の唇形) 全体に芳香があることからの名
43	タテヤマウツボ (79)	シソ科	ウツボグサ属	多年草 草丈25~40cm 葉(対生) 花(茎頂に短い密な花穂を作る 唇形花 濃青紫色)
44	エンレイソウ (21)	シュロソウ科	エンレイソウ属	多年草 草丈30cm 葉(3枚で丸みを帯びた菱形) 花(花弁無し 紫褐色の花弁に見えるのが萼) 果実(緑・紫色で球形) 花を付けるまでに10年掛かる 生薬
45	キヌガサソウ (40)	シュロソウ科	キヌガサソウ属	多年草 草丈30~80cm 日本固有種 茎(1本が直立) 葉(茎の先に7~11個輪生 無毛) 花(6~11枚の白い萼片) 葉姿を「衣笠」に見立てたことからの名
46	コバイケイソウ (55)	シュロソウ科	シュロソウ属	多年草 草丈1m 日本固有種 大群生 葉(互生) 花(白色の内輪花序 数年に1度しか咲かない) 花がウメに葉がケイランに似てバイケイソウより小さいことからの名 有毒植物
47	タカネシュロソウ (71)	シュロソウ科	シュロソウ属	多年草 草丈20~40cm 礫地・乾いた草地に生育 茎の基部にシュロのようになった古い葉鞘が残る 花(紫褐色の6弁花)
48	バイケイソウ (93)	シュロソウ科	シュロソウ属	多年草 草丈0.6~1.5m 林内や湿った草地に分布 茎(中空) 花がウメに葉がケイランに似ていることからの名 有毒植物
49	ニッコウキスゲ (86 87)	ススキノキ科	ワスレグサ属	多年草 草丈5~80cm 群生 ユリと花の時季も外見も似るが別種 別名ゼンテイカ 花(黄橙色の3弁花と3個の萼 ラッパ状 1日花) 食用
50	キバナノコマツメ (41)	スマレ科	スマレ属	多年草 草丈5~20cm 和名にスマレが付かない 黄色の花で葉が馬蹄に似ることからの名 湿った草地に生育
51	イブキボウフウ (10)	セリ科	イブキボウフウ属	多年草 草丈30~100cm 茎(稜あり) 花(径3~6cmの花序 白い5弁花を密集してつける) 全草に有毛
52	タカネイブキボウフウ (69)	セリ科	イブキボウフウ属	多年草 草丈10~70cm 礫地・乾いた草地に生育 葉(ニンジン)の葉のように細かく分裂する (ほとんど毛無し) 花(径10cm 蕾は赤紫色 花がひらくと白色や少し赤味を帯びる花をつける)
53	シラネセンキュウ (63)	セリ科	シシウド属	多年草 草丈80~150cm 山地の川筋など湿った場所に生える 茎(中空) 葉(3~4回3出羽状複葉 互生) 花(複散形花序 小さな白色5弁花) 白根山で発見され薬草のセンキュウに似ることからの名
54	オオハナウド (25)	セリ科	ハナウド属	多年草 草丈1.5~2m 群生 茎(太く中空) 葉(3出複葉 互生) 花(大型の複散形花序 白色の5弁花) 食用
55	ハクサンサイコ (97)	セリ科	ミシマサイコ属	多年草 草丈20~60cm 日本固有種 開けた草原に生育 全草青白色を帯びる 花(複散形花序 小さな黄色の5弁花)
56	イブキトラノオ (6)	タデ科	イブキトラノオ属	多年草 草丈30~100cm 日当たりの良い草地に群生 花(茎の先端に6cmほどの白色・淡紅色の花穂)
57	オオイタドリ (19)	タデ科	オオイタドリ属	多年草 草丈3~4m 茎(太く竹のように見える) 葉(大きさ30~40cm 互生 裏粉白色) 雌雄異株 食用・薬用
58	オヤマソバ (36)	タデ科	オンタデ属	多年草 草丈15~50cm 高山帯の砂礫地に生育 花(白色~桃白色)和名は花がソバに似て深山に生えていることからの名
59	イワショウブ (13)	チシマゼキショウ科	イワイショウブ属	多年草 草丈20~40cm 葉(根生 1~2本の線形) 花(線香花火がはじけたような白~淡紅色の6弁花を多数つける) 実(赤色) 湿り気のある場所に生育 別名ムントリゼキショウ(茎がネバネバ)
60	クロウスゴ (50)	ツツジ科	スノキ属	落葉低木 樹高0.5~2m 花(赤味を帯びた淡黄緑色 つぼ型) 果実が黒く熟しその凹んだ部分を白に例えたことからの名

61	オオコメツツジ (18 19)	ツツジ科	ツツジ属	落葉低木 樹高1m 日本固有種 葉(1.5~4cm 3脈目立つ) 花(1戸の花芽に3~7個つける 白色 筒状漏斗型 4深裂)
62	ホツツジ	ツツジ科	ホツツジ属	落葉低木 樹高1~2m 山地の岩場に自生 葉(互生) 花(やや赤を帯びた白色 花期7~9月) ツツジで花が細長い円錐状につくことからの名 有毒植物
63	ハクサンタイゲキ (99)	トウダイグサ科	トウダイグサ属	多年草 草丈40~80cm 日本固有種 葉(互生)狭長楕円形 茎頂の葉は楕円形で輪生) 花(輪生した葉の中心から黄色の苞葉に包まれた杯状花序をつける)
64	タカネカワラナデシコ (70)	ナデシコ科	ナデシコ属	?
65	タカネナデシコ (73)	ナデシコ科	ナデシコ属	多年草 草丈15~40cm 礫地・乾いた草地に生育 葉(対生) 花(紅紫色 花弁5個 先は細かく深裂) カワラナデシコの高山型
66	クモミミナグサ (47 48)	ナデシコ科	ミミナグサ属	多年草 草丈5~20cm 高山の砂礫地に生育 ミヤマミミナグサの変種 花弁(5個 白色 3分の1くらいまで2裂に切れ込む)
67	ウメバチソウ (16)	ニシキギ科	ウメバチソウ属	多年草 草丈10~40cm 花茎に葉が1枚と白い花を1個つける 日当たりの良い山地の湿った草原に生育
68	オオバミゾホオズキ (26)	ハエドクソウ科	ミゾホオズキ属	多年草 草丈10~30cm 湿地に群生 茎(直立) 葉(対生) 花(黄色 筒型) ミゾホオズキは水辺(溝)に生え実がホオズキに似ることからの名
69	エゾシオガマ (17)	ハマウツボ科	シオガマギク属	多年草 草丈20~50cm 日本固有種 葉(互生) 花(黄白色の唇形の横向きに捻じれた花) 高山の草地に自生
70	オニシオガマ (34)	ハマウツボ科	シオガマギク属	多年草 草丈40~100cm 日本固有種 湿った草地に群生 茎・葉に白色の軟毛が密に生える 葉(対生) 花(淡紅紫色 唇形)
71	キンミズヒキ (44)	バラ科	キンミズヒキ属	多年草 草丈30~150cm 全体に粗毛が密生 葉(互生 奇数羽状複葉) 花(黄色 小さな5弁花が穂状にやや密に付く) 果実(引っ付き虫) 生薬・食用
72	イワシモツケ (9)	バラ科	シモツケ属	落葉低木 樹高1~2m 日本固有種 葉(変異が多い 無毛 互生) 花(径3~3.5cmの花序 白色5弁花を10~20個つける) 蛇紋岩・石灰岩地に生育
73	オニシモツケ (35)	バラ科	シモツケソウ属	多年草 草丈1.5~2m 湿った所に群落 葉(互生 奇数羽状複葉 耳状の托葉) 花(白・淡赤紫色 小さな5弁花を散房状に付ける 花序に毛が密生)
74	シモツケソウ (64 65 66)	バラ科	シモツケソウ属	多年草 草丈20~100cm 日本固有種 日当たりの良いやや湿った草地に生育 群生 葉(奇数羽状複葉) 花(花弁3~5個で淡紅色 集散状散房花序 小花が多数つく)
75	チングルマ (84 85)	バラ科	ダイコンソウ属	常緑小低木 草丈10cm 多湿帯に生育 群落 葉(奇数羽状複葉 秋に紅葉) 花(白い5弁花を1つ) 種子(長く伸びた毛が放射状に広がる 子供の風車のように見えたことからの名)
76	ウラジロナナカマド (12)	バラ科	ナナカマド属	落葉低木 樹高1~3m 日本固有種 葉(互生 奇数羽状複葉 裏粉白色 半分位から先に鋸歯あり) 花(枝先に複散房花序で白色の花を上向きに多数付ける)
77	ヤマブキショウマ	バラ科	ヤマブキショウマ属	多年草 草丈30~90cm 雌雄異株 葉(2回3出複葉 並行脈) 花(白色の小さな5弁花) 葉がヤマブキ(バラ科)に似ることからの名 サラシナショウマ(キンボウゲ科)・トリアシショウマ(ユキノシタ科)に似る 山菜
78	カライトソウ (38)	バラ科	ワレモコウ属	多年草 草丈30~100cm 日本固有種 葉(奇数羽状複葉 鋭い鋸歯あり) 花(花弁の無い花穂 4~10cm円柱形垂れ下がる 紅紫色の雄蕊) ゴマシジミの幼虫の食草
79	ネズコ (90 91)	ヒノキ科	クロベ属	常緑針葉高木 別名クロベ 日本固有種 本州と四国の深山に自生 葉(鱗状 十字対生) 雌雄同株 心材の色がネズミ色を帯びていることからの名
80	ハクサンフウロ (100)	フウロソウ科	フウロソウ属	多年草 草丈30~60cm 日本固有種 日当たりの良い湿った草地に生育 茎・葉に伏毛あり 葉(対生 掌状に深裂) 花(白~ピンク色の5弁花 花弁の付け根に白毛密生)
81	カラマツ	マツ科	カラマツ属	落葉針葉樹 日本固有種 針葉樹のなかで唯一の落葉樹 枝(長枝と短枝をもつ) 雌雄同株 菌根によるネットワークを形成
82	コメツガ (59)	マツ科	ツガ属	常緑針葉樹 日本固有種 陰樹 ツガより高標高地に分布 葉(1~2cmの針状 先端が凹む 気孔帯が2本) 雌雄同株
83	ハイマツ (94 95)	マツ科	マツ属	常緑針葉樹 樹高1~2m 寒冷地に分布する氷河遺存種 葉(五葉)成長がとて遅い ホシガラスによって種子が散布される
84	オオシラビン (22)	マツ科	モミ属	常緑針葉樹 日本固有種 多雪地帯の日本海側山地に分布 葉(2本の気孔線 線形 互生 先端が凹む) 雌雄同株 球果(シラビンより大きいことからの名)縞枯れ現象
85	タカネマツムシソウ (75)	マツムシソウ科	マツムシソウ属	越年草 草丈30~35cm 日本固有種 礫地・乾いた草地に生育 花(濃紫色 大きさ5cmでマツムシソウより大きい)
86	ゴゼンタチバナ (54)	ミズキ科	ミズキ属	多年草 草丈5~15cm 葉(6枚の輪生に見えるが対生) 花(ハナミズキ・ヤマボウシに似る) 石川県の白山の御前峰で発見されたことからの名 花が咲くのは必ず葉が6枚になってから
87	イワイチョウ (11)	ミツガシワ科	イワイチョウ属	多年草 1属1種 草丈20~40cm 葉(根生 厚い腎臓形) 花(5裂する白い花) 湿原に群生 秋に葉がイチョウのように黄葉することからの名
88	イタヤカエデ	ムクロジ科	カエデ属	落葉高木 日本で最も大きくなるカエデ 葉(展葉期に赤味を帯びる 対生 大きな五角形 鋸歯無し) 花(葉を開く前に黄色の小花をたくさんつける) 材

89	ウリハダカエデ	ムクロジ科	カエデ属	落葉小高木 日本固有種 樹皮(暗緑色で黒縞模様) 葉(対生 重鋸歯) 花(淡黄色) マクワウリに似た若木の幹や枝の模様が名の由来 食用・材
90	オガラバナ (30)	ムクロジ科	カエデ属	落葉小高木 別名ホザキカエデ 葉(対生 掌状に5~7裂 表面短毛あり 裏灰白色の毛が密生 葉柄長い) 花(雌雄同株 穂状の花序が目立つ) 麻幹(オガラ)のように材が柔らかいことからの名
91	コハウチワカエデ	ムクロジ科	カエデ属	落葉小高木 日本固有種 ハウチワカエデより葉や樹形がより小型であることからの名 葉(切れ込みが浅く小さな掌の様 脈上に毛が生える)
92	ハウチワカエデ	ムクロジ科	カエデ属	落葉高木 カエデの仲間の中でも掌状の葉が時に大きい 葉(対生 重鋸歯 見応えのある紅葉)
93	サンカヨウ (62 63)	メギ科	サンカヨウ属	多年草 草丈30~70cm 深山のやや湿った場所に生える 葉(フキのような大小2枚) 花(6弁白色の小花が小さい葉に付く 雨に濡れると花びらが透明になる) 果実(青紫色 可食)
94	ハウノキ	モクレン科	モクレン属	落葉高木 最大級の葉と花をもつ 葉(互生だが輪生状に見える) 花(9枚の花弁 雄蕊・雌蕊は螺旋状につく 甘く強い芳香を放つ) 食用・薬用・材
95	アラシグサ (4)	ユキノシタ科	アラシグサ属	多年草 草丈20~40cm 日本固有種 葉(毛有 掌状の切れ込み)花(茎に白い腺毛が密生 黄緑色の小さな5弁花)
96	アカショウマ	ユキノシタ科	チダケサシ属	多年草 草丈40~80cm 日本固有種 葉(3回奇数羽状複葉) 花(白色 花弁へら状 花序枝に腺毛あり) サラシナショウマ(キンボウゲ科)に似る
97	ダイヤモンドソウ	ユキノシタ科	ユキノシタ属	多年草 草丈20~30cm 花(白・赤・ピンク・黄緑色) 夏に咲く5弁花が「大」の字に似ることからの名 食用
98	タケシマラン (76)	ユリ科	タケシマラン属	多年草 葉(互生) 日本固有種 花(1回ねじれて下向きに付く 花弁は反り返る白緑色・淡紅色) 果実(球形で赤色)
99	タマガワホトトギス (82)	ユリ科	ホトトギス属	多年草 草丈40~100cm 日本固有種 湿った林内に群生 葉(互生 茎を抱く) 花(黄色で内面に紫褐色の斑点) 和名はヤマブキの名所の京都府出井の玉川に名を借りたもの 食用
100	ウバユリ (14)	ユリ科	ウバユリ属	多年草 草丈50~100cm ユリに似た花を付けるが葉は大きく異なる 葉(ハート形) 花が満開になる頃には葉が枯れていることが多いことからの名 食用
101	クルマユリ (49)	ユリ科	ユリ属	多年草 草丈30~100cm 葉(柄のない細長い葉が1段から3段輪生) 花(赤橙色 花被片が強く反り返る) 葉の様子を車輪に例えたことからの名
102	コオニユリ (53)	ユリ科	ユリ属	多年草 草丈30~60cm 茎(紫褐色で細かい斑点あり) 葉(互生) 花(赤橙色 黒紫色の斑点 下向きに花弁強く反り返る) 実生から6~8年たたないと開花しない
103	タテヤマリンドウ (80 81)	リンドウ科	リンドウ属	越年草 草丈10cm 日本固有種 湿原や湿り気のある場所に生育 葉(対生) 花(漏斗状 淡青紫色 1個上向きにつける 日が当たっている時のみ開く)
104	キンチドリ (39)	ラン科	ツレサギソウ属	多年草 草丈15~30cm 葉(茎の中央に楕円形の葉を1枚付ける 上部の葉は小さい) 花(淡緑色 まばらに付ける 細長い距あり)
105	ネジバナ	ラン科	ネジバナ属	多年草 草丈10~40cm 日当たりの良い平地に自生 花(ピンク色・白色 花茎の周りにらせん状に付く 右巻きと左巻きの両方ある)
106	ハッポウミヤマセンブリ (104)	リンドウ科	センブリ属	多年草 草丈30~40cm 八方尾根だけに生える日本固有種 花(淡青紫色 濃紫色の斑点 黄緑色の蜜腺 花冠裂片は萼片よりも長い)
107	エゾリンドウ (15)	リンドウ科	リンドウ属	多年草 草丈30~100cm 日当たりの良い山地の湿った草原に生育 葉(対生) 花(青紫色 5裂した釣鐘型 日が差すと開く) 薬用

昆虫

1	アキアカネ (2)	トンボ科	アカネ属	大きさ♂32~46mm ♀21~30mm 日本固有種 高山で夏を過ごし秋になると里に下りてくる
2	カオジロトンボ (37)	トンボ科	カオジロトンボ属	顔が白く翅の付け根が赤い黒色のトンボ
3	ゴマシジミ (57)	シジミチョウ科	ゴマシジミ属	大きさ18~24cm 裏面にゴマ状の小さな斑点 幼虫はワレモコウの花穂を食べその後クシケアリの巣に選ばれ鏡の幼虫や卵を食べて育つ ワレモコウやハギを吸蜜 卵を花穂に1個ずつ産み付ける 絶滅危惧種
4	ヒメキマダラヒカゲ (108)	タテハチョウ科	ヒメキマダラヒカゲ属	大きさ25~34mm 黄褐色の模様と蛇の目模様がきれいなヒカゲチョウの一種 幼虫の食草はイネ科ササ類の葉
5	ベニヒカゲ (110)	タテハチョウ科	ベニヒカゲ属	大きさ19~27mm 黒褐色で前翅に橙赤色の帯があり、帯のなかには黒い眼状紋が並ぶ 幼虫の食草はイネ科やカヤツリグサ科の葉
6	アオハムシダマシ (1)	ゴミムシダマシ科	アオハムシダマシ属	甲虫 大きさ8~11mm ハムシダマシマシの一種 細長い筒状の体で金属色の金属光沢を持つ甲虫
7	アオジョウカイ (5)	ジョウカイボン科	?	甲虫 大きさ14~20mm 上翅は暗緑藍色 前胸部は黒色で側縁がオレンジ色
8	オオヨツシハナカミキリ(27)	カミキリムシ科	?	甲虫 大きさ20~31mm 黒色で上翅に4本の黄褐色の帯あり
9	アサヒメハナカミキリ(3)	カミキリムシ科	?	甲虫 大きさ7.5~11.5mm 触覚が一様に黄褐色
10	シラフヒゲナガカミキリ(68)	カミキリムシ科	?	大きさ19~28mm 黒地に白い斑模様が特徴的なカミキリムシ 幼虫の食草はモミ属、トウヒ属、マツ科の葉
11	フタコブルリハナカミキリ(111)	カミキリムシ科	?	甲虫 大きさ18~24mm 前胸背は黒色の中央部を除いて黄色 上翅は美しい瑠璃色

2023/7/31~8/2 白馬



1 アオハムシダマシ

2 アキアカネ



3 アサマヒメハナカミキリ

4 アラシグサ

5 アオジョウカイ



6 イブキトラノオ

7 イビキジャコウソウ

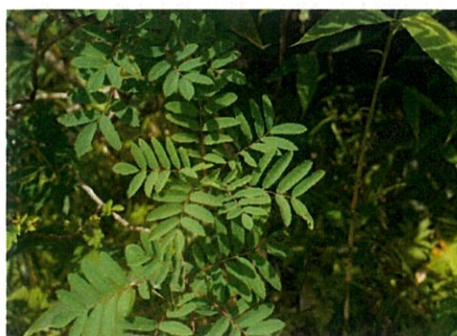
8 イブキジャコウソウ



9 イワシモツケ

10 イブキボウフウ

11 イワイチョウ



12 ウラジロナナカマド

13 イワショウブ

14 ウバユリ



15 エゾリンドウ



16 ウメバチソウ



17 エゾシオガマ



18 オオコメツツジ



20 オオイタドリ



21 エンレイソウ



←22 オオシラビ 林



23 オオバクロモジ



24 オオバギボウシ



25 オオハナウド



26 オオバミゾホオズキ



27 オオヨツスジハナカミキリ



28 オオレイジソノウ



29 オカトラノウ



30 オガラバナ



31 オタカラコウ



32 オトコエシ



33 オニアザミ



34 オニシオガマ



35 オニシモツケ



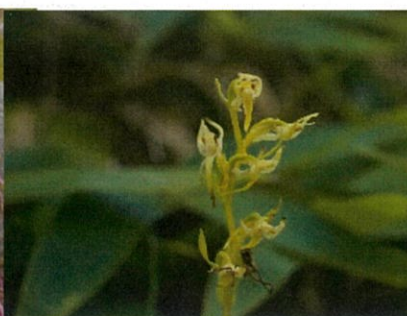
36 オヤマソバ



37 カオジロトンボ



38 カライトソウ



39 キソチドリ



40 キヌガサソウ



41 キバナノコマツナメ



42 キンコウカ



43 キンコウカ



44 キンミズヒキ



45 クガイソウ



46 クガイソウ



47 クモマミミナグサ



48 クモマミミナグサ



49 クルマユリ



50 クロウスゴ



51 クロトウヒレン



52 コウモリソウ



53 コオニユリ



54 ゴゼンタチバナ



55 コバイケイソウ



56 コバギボウシ



57 ゴマシジミ



58 ゴマナ



59 コメツガ



60 サラシナショウマ



61 サルオガセ



62 サンカヨウ



63 サンカヨウ



63 シラネセンキュウ



64 シモツケソウ



65 シモツケソウ



66 シモツケソウ



68 シラフヒゲナガナ



69 タカネイブキボウフウ



70 タカネカワラナデシコ



71 タカネシュロソウ



72 タカネクロスゲ



73 タカネナデシコ



74 タカネニガナ



75 タカネマツムシソウ



76 タケシマラン



77 ダケスゲ



78 タテヤマアザミ



79 タテヤマウツボ



80 タテヤマリンドウ



81 タテヤマリンドウ



82 タマガワホトトギス



83 タムラソウ



84 チングルマ



85 チングルマ



86 ニッコウキスゲ



87 ニッコウキスゲ



ダケガンバ林



88 ネコシデ



89 ネコシデ



90 ネズコ



91 ネズコ林



92 ネバリノギラン



93 バイケイソウ



94 ハイマツ



95 ハイマツ



96 ハクサンオミナエシ



97 ハクサンサイコ



98 ハクサンシャジン



99 ハクサнтаイゲキ



100 ハクサンフウロ



101 ハップウアザミ



102 ハップウウスユキソウ



103 ハップウウスユキ



104 ハップウミヤマセンブリ



105 ハリブキ



106 ヒオウギアヤメ



107 ヒトツバヨモギ



108 ヒメキマダラヒカ



109 ヒヨドリバナ



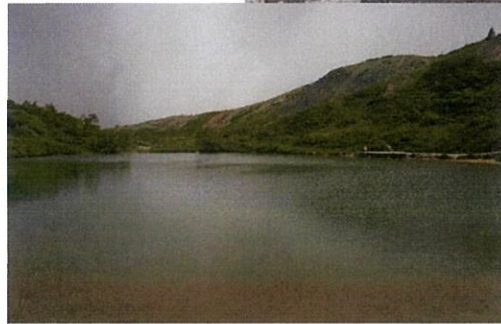
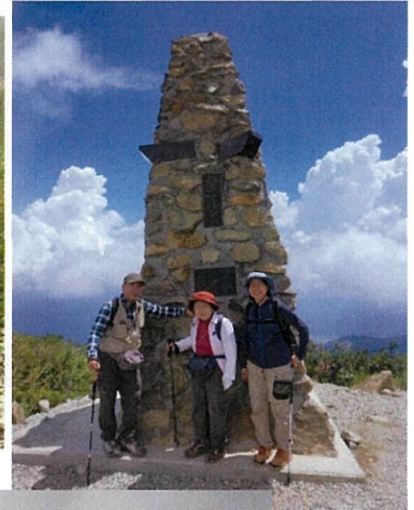
110 ベニヒカゲ



111 フタコブルリハナ



8月1日 八方尾根にて



8月2日 樽池自然園にて





武田先生と里山を歩こう会

佐々木 明子

8月4日(金) 「しあわせの村」集合

当日 神戸市は33.6度の最高気温である。熱中症警戒アラートが気を引き締める。8月4日は「橋の日・つり橋の日」でもあるという。84（はし）の語呂合わせである。参加者は10名。（男性7名女性3名）新しく梅田尚裕さんが参加された。また4日は「大安」「一粒万倍日」「天赦日」という吉日が重なる縁起の良い日とされる。

バス停の「しあわせの村中央」から、駐車場を抜け道標「けものみち」と呼ばれる自然道から展望台をめざす。永く人々が踏破した気配もなく、草木が鬱蒼と茂っている。早速シオカラトンボのお出迎えである。

しあわせの村南展望台への休憩所から見える夕日は絶景とのことである。ここで写真撮影。背景に（明石海峡大橋）が映る。

『四節の山野草』を紐解くと名前の由来や花言葉に心惹かれる。

- ・ソヨゴ・・・風が吹くと音が鳴る。名前の由来は「風にそよぐ」が変化してとある。
- ・ムラサキシキブ・・・花言葉は「聡明」「上品」。源氏物語の作者を彷彿させるとのことである。葉は無毛である。それに対し、ヤブムラサキは葉に毛が多く「ピロードの様」が由来とのこと。

奥の深い楽しい半日のハイキングコースでした。



2023/8/4 しあわせの村

1	ハリギリ	ウコギ科	ハリギリ属	落葉高木 若い枝に大型の鋭い棘あり葉がキリに似ることからの名 葉(互生 葉柄が7~30cm 天狗の団扇のような形:別名テングノハウチワ) 肥沃かつ適度な湿度のある土地を好む 食用・薬用・家具材
2	ハゼノキ	ウルシ科	ウルシ属	落葉高木 葉(奇数羽状複葉 小葉は4~6対 無毛 光沢あり) 雌雄異株 和ろうそく 中国から移入 紅葉が美しい
3	ヤマウルシ	ウルシ科	ウルシ属	落葉低木 幹(縦に入ったスジが特徴) 葉(奇数羽状複葉 小葉6~8対 毛有 大きさが先端から根元に向けて小さくなっていく 輪が枝の先端から放射状に広がる) 雌雄異株 漆器の染料
4	ヤマハゼ	ウルシ科	ウルシ属	落葉小高木 葉(奇数羽状複葉 小葉は4~7対 両面毛が散生 表面光沢無し ハゼノキより幅が広い) 雌雄異株 染料・弓
5	ヤブニッケ	クスノキ科	クスノキ属	常緑小高木 葉や樹皮にニッケイに似たシナモンの香りがあることからの名 葉(互生 3行脈 革質でゴワゴワ) 雌雄異株 薬用
6	ヤマコウバン	クスノキ科	クロモジ属	落葉低木 枝を折ると良い匂いがすることからの名 雌雄異株(日本には雌株のみで全てが、大阪市立大学がクローンであることを発見) 冬も枯葉が枝に残るので受験生のお守りに
7	クスノキ	クスノキ科	ニッケイ属	常緑高木 材(樟脳が採れる) 葉(3行脈 ダニ室 春に新しい葉がでる時に古い葉が一斉に落葉する) アボガド・タブノキ・セイロンニッケイ(シナモン)は近種 暖地に生育
8	カゴノキ	クスノキ科	ハマビワ属	常緑高木 樹皮(鹿の子模様) 葉(互生 革質 光沢あり 裏白い 葉をすり合わせるとクスノキ科特有の香り) 雌雄異株 暖地に分布
9	ツルクウゾ	クワ科	クウゾ属	落葉つる性木本 葉(互生) 雌雄異株 果実(球形で橙赤色に熟す)
10	サルトリイバラ	サルトリイバラ科	シデオ属	つる性半低木 雌雄異株 茎(棘あり 硬く節ごとにジグザク状に曲がる) 葉(互生 革質で硬い 3~5本の葉脈が先端で合流) 果実(赤い球形) ルリタテハの幼虫の食草 薬用・食用
11	クサギ	シソ科	クサギ属	落葉小高木 葉(対生) 花(甘い香りの白い花) 果実(実が藍色で萼が赤色のコントラストが美しい) 食用・薬用・染料
12	ムラサキシキブ	シソ科	ムラサキシキブ属	落葉低木 葉(対生 黄緑色 表面に艶無し) 花(淡紫色) 果実(紫色 付き方がまばら)
13	ヤブムラサキ	シソ科	ムラサキシキブ属	落葉低木 金の指標植物 葉(表面軟毛が密生 裏側星状毛が密生) 花(花冠・萼に星状毛多い) 実(紫色)
14	アベリア	スイカズラ科	ツクバネウツギ属	本来「アベリア」は属の名前 和名ハナツクバネウツギ 花(6~9月に渡って白色の鐘型の花を咲かす) 萼(2~5裂) 果実(結実しない) 公園などの生垣に利用
15	コツクバネウツギ	スイカズラ科	ツクバネウツギ属	落葉低木 日本固有種 枝(髓がのちに中空になり「空木」に) 花(黄色 漏斗状 ツクバネウツギより小さい) プロペラ状の萼片(2~3個)
16	ツクバネウツギ	スイカズラ科	ツクバネウツギ属	落葉低木 枝(髓がのちに中空になり「空木」に) 花(2輪組 白色で内側に黄色の斑点あり 漏斗型) プロペラ状の萼片(5個)
17	シャシャンボ	ツツジ科	スノキ属	常緑小高木 暖地の海沿いでやや乾燥した所に多い 葉(厚い革質 光沢あり) 花(アセビに似る) 果実(黒紫色 生食可)
18	ナツハゼ	ツツジ科	スノキ属	落葉低木 雌雄同株 日本のブルーベリー 花(釣鐘型) 夏の時季からハゼノキのように美しく紅葉することからの名
19	コバノミツバツツジ	ツツジ科	ツツジ属	落葉低木 関東地方などに分布するミツバツツジと比べて小さいことからの名 花(漏斗型 雄蕊10本) 葉(3枚1組になって付くが互生 葉裏に明瞭な網目模様あり 葉脈に長毛有)
20	モチツツジ	ツツジ科	ツツジ属	落葉低木 日本固有種 静岡県・山梨県~岡山県と四国に分布 花の萼・柄、葉、若枝、子房、果実に腺毛あり(花を昆虫に食害されるのを防ぐため) 別名ピロードツツジ
21	ネジキ	ツツジ科	ネジキ属	落葉低木 幹(縦の裂け目が螺旋状にねじれる) 葉(互生) 花(下向きに白いつぼ型の花) 有毒植物
22	ヤブツバキ	ツバキ科	ツバキ属	常緑小高木 日本固有種 江戸時代にユキツバキと掛け合わせて多くの品種が誕生 花(5枚の花弁が全開しない) 食用・染料・薬用・整髪料・櫛・印鑑
23	ナガバモミジイチゴ	バラ科	キイチゴ属	葉の形がモミジのように裂けることからの名 茎(棘が多い) 葉(変異が大きい) 花(白い5弁花 下向きで葉陰に咲く) 果実(黄色・薄オレンジ色 甘み有り)
24	カスミザクラ	バラ科	サクラ属	落葉高木 サクラ属の基本野生種の一つ 遠くから見た様子が霞のように見えることからの名 葉(葉と葉柄に毛有) 花と緑色の新葉が同時に展開) 花(白色 一重咲)
25	ヤマザクラ	バラ科	サクラ属	落葉高木 日本固有種 温暖帯に分布 日当たりの良い所を好む エドヒガンに次いで長寿だが成長に時間がかかる 赤茶けた若葉と花が同時に展開 家具の材料・版木
26	コナラ	ブナ科	コナラ属	落葉高木 ミズナラの別名である大橋の葉やドングリより小さいことからの名 ミズナラより低地に多い 樹皮(黒褐色で縦に深い裂け目が入る) 葉(互生 裏面に毛有 新葉が展開するころまで枯葉が落ちない) ドングリ(同年秋に熟す) ナラ枯れ(カキノナガキクイムシが媒介する病原菌で起こる感染症)
27	ネズミモチ	モクセイ科	イボタノキ属	常緑低木 葉(厚手で革質) 暖地に自生 老化防止の薬草 枝を枯らすとすぐに葉が脱落する 全体がモチノキに似ることからの名

28	イヌツゲ	モチノキ科	モチノキ属	常緑低木～高木 葉(互生 小さな楕円形 厚みのある革質) 雌雄異株 押し葉標本にして乾燥させると葉が黒くなり役に立たない
29	ソヨゴ	モチノキ科	モチノキ属	常緑小高木 葉を熱すると葉が音をたてて膨らみ破裂することから別名 フクラシバ 株立ち 葉(互生 縁は波打つ) 雌雄異株 果実(赤色 他のモチノキ属のように密生しない) 染料・鳥もち
30	ヒサカキ	モッコク科	ヒサカキ属	常緑小高木 サカキに比べて小さいので「姫サカキ」からの転訛からの名 葉(互生 丸い鋸歯あり) 雌雄異株 関東地方以北でサカキの代用として神事に使用
31	カエデドコロ	ヤマノイモ科	ヤマノイモ属	つる性多年草 葉の形がカエデに似ていることからの名 雌雄異株 有毒植物 葉(互生) ムカゴは付かない
32	ヤマモモ	ヤマモモ科	ヤマモモ属	常緑高木 樹幹(こんもりとした円形) 葉(互生 枝先に束生) 雌雄異株 果実(暗赤色に熟す 生食可) 食用・染料・生薬
33	コバノガマズミ	レンブクソウ科	ガマズミ属	落葉低木 葉(幅がガマズミより細い ピロード感あり 裏星状毛が密生 針状の托葉あり) 花(ガマズミより小さく蕊が飛び出る)

昆虫綱

1	カラスアゲハ	アゲハチョウ科	アゲハチョウ属	大きさ45～80mm 黒っぽい羽の表が緑色～青色に輝いて見える 幼虫の食草はコクスギ・サンショウ・キハダなど
2	クロアゲハ	アゲハチョウ科	アゲハチョウ属	大きさ45～70mm 黒っぽい大きなアゲハチョウ 幼虫の食草はミカン・カラタチなど柑橘類
3	モンキアゲハ	アゲハチョウ科	アゲハチョウ属	大きさ60～75mm 開張110～140mm 最大級の種類 真っ黒で後翅の白い紋が目立つ 幼虫の食草はカラスザンショウなどのミカン科植物
4	タマムシ	タマムシ科	ルリタマムシ属	大きさ30～40mm 細長い米型の甲虫 全体に緑色の金属光沢があり背中に虹のような赤と緑の縦じまが入る
5	オオシオカラトンボ	トンボ科	シオカラトンボ属	大きさ51～61mm シオカラトンボを立派にしたようなトンボ 濃いめの水色 ♀くすんだ黄色 目が真っ黒(シオカラトンボはグリーン) 翅の付け根が黒くなる
6	マイコアカネ	トンボ科	アカネ属	大きさ34mm前後 顔面が青白色のアカトンボ

似た植物の比較

ヤブムラサキ : 葉(ふわっとしたピロードのような感じ ムラサキシキブよりも大型) 実(葉の下側に付く)
 ムラサキシキブ : 葉(無毛なのでふわっとした感じが無い) 実(葉の上側に付く まばらに付く)
 コムラサキ : 葉(ムラサキシキブより小さい 表面濃緑色 裏面白みを帯びる) 実(葉の上側に付く ムラサキシキブより密生)

トウネズミモチ : 葉(ネズミモチより大きい 裏から日にかざして見ると葉脈が透けて見える) 果実(球形に近い) 寒さに強い
 ネズミモチ : 葉(トウネズミモチより小さい 裏から日にかざして見ると葉脈が透けて見えない) 果実(楕円形) 暖地性

ネジキ : 花(葉陰につき木の内側から見ないと良く見えない) 落葉樹 花期は初夏
 アセビ : 花(葉の上につき外側から花が良く見える) 常緑 花期はソメイヨシノが咲くよりも前に咲き始める

イヌツゲ : モチノキ科モチノキ属 葉(互生) 雌雄異株 土壌を選ばない
 ツゲ : ツゲ科ツゲ属 葉(対生) 雌雄同株 石灰岩地や蛇紋岩地を好む 別名ホンツゲ 材が密
 クサツゲ : ツゲ科ツゲ属 葉(対生) 雌雄異株 別名ヒメツゲ・ニワツゲ

ヌルデ : 花期7～9月白色の小花 実扁平・細毛 鋸歯あり 葉軸翼あり 別名フシノキ 生薬・塗料
 ハゼノキ : 花期5～6月黄緑色の小花 実扁平・無毛 全緑 葉軸無毛 蝟

ヤマモイモ : 葉(対生 三角状) ムカゴが付く 花(白色) 果実(下向きに付き丸い扁平な翼が3個)
 カエデドコロ : 葉(互生 カエデの様) ムカゴ付かない 花(被片は黄色で平開) 果実(上向きに付き楕円形で3翼)
 オニドコロ : 葉(互生 丸い) ムカゴ付かない 花(淡黄緑色) 果実(上向きに付き3個の翼)

サカキ : モッコク科サカキ属 葉(長さ7～10cm 鋸歯あり無し)
 ヒサカキ : モッコク科サカキ属 葉(長さ3～7cm 細かな鋸歯あり 葉の先が凹んでいる)

トウシキミ : マツバサ科シキミ属 果実(八角と呼ばれ香辛料・生薬に利用 タミフルの材料)
 シキミ : マツバサ科シキミ属 果実(猛毒 八角に似ている)

ヤマザクラ : 花期(3～4月) 標高の低い所にも多い 葉・葉柄・萼。花柄などに毛が無い
 カスミザクラ : 花期(ヤマザクラより遅い 4～5月) ヤマザクラより標高の高い所 葉・葉柄・萼。花柄などに毛が多い(別名:ケヤマザクラ)

その他

日本のブルーベリー: スノキ・ナツハゼ・クロマメノキなど

カゴノキのようなまだら模様の樹皮を持つ樹木: サルスベリ・プラタナス・リュウブ・ナツツバキ・シロマツなど

2023.8.4 しあわせの村

元々松林の低木

クスノキ科
葉をもむと芳香
枯れても落ちない
赤松林の低木
互生

① ヤマコウバシ
山香ばし

② ヤブムラサキ

葉 互生 毛が多く
ビロード状
花は紫

(W) 雌雄異株だが、雄株は中国大陸にしか存在しない。日本には雌株しか生息せず、全て一つの株のクローンであることが大阪市立大学などで判明

③ クスノキ

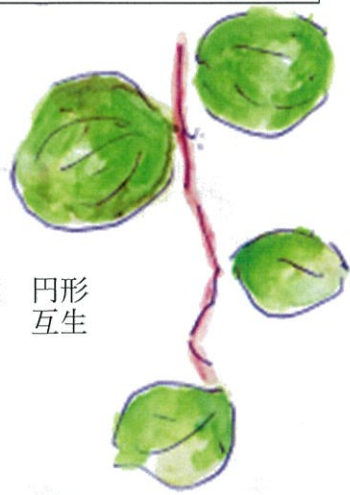
波打っている
光沢あり
対生
樟脳が採れる
香木

④ ネズミモチ

⑤ サルトリイバラ

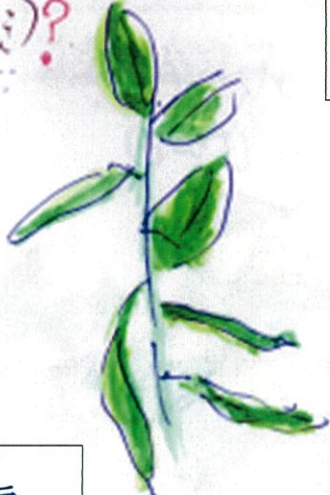
葉 円形
互生

葉脈の細かいところまで、はっきりと透けて見ればトウネズミモチです。一方で中心脈は透けて見えるものの、それ以外の細かい葉脈がほとんど透けないのがネズミモチ



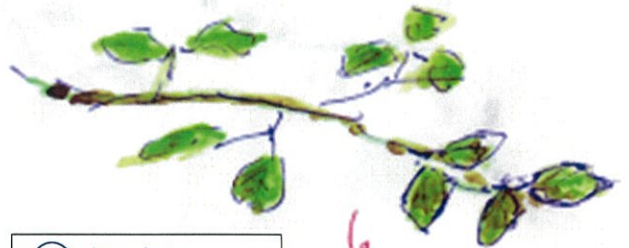
(木?)?

⑥ ナツハゼ



葉 楕円
互生
ブルーベリー同様
食べられる

互生、楕円
2.5x1.5cm



⑦ コナラ

幹灰褐色

幹は(木?)
灰褐色

⑧ ネジキ



←イタラ



幹が
ねじれて
いる。

有毒植物



葉は互生
毒あり
両面に
みみずり

⑦ コナラ

幹灰褐色

⑨ コバノミツバ

小葉の三葉
葉 互生
3輪生

(草は互生)
葉: 3輪生

葉 互生 毒あり
幹がねじれている
左まき



⑩ イヌツゲ

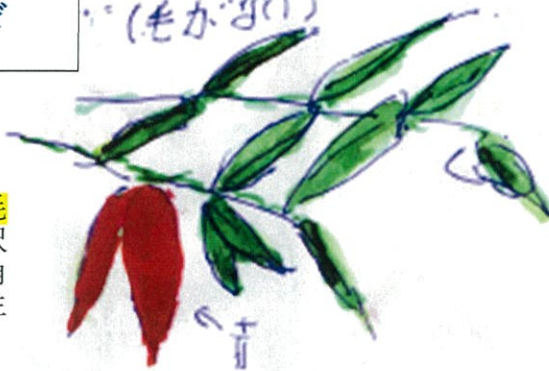


⑪ ヤマウルシ



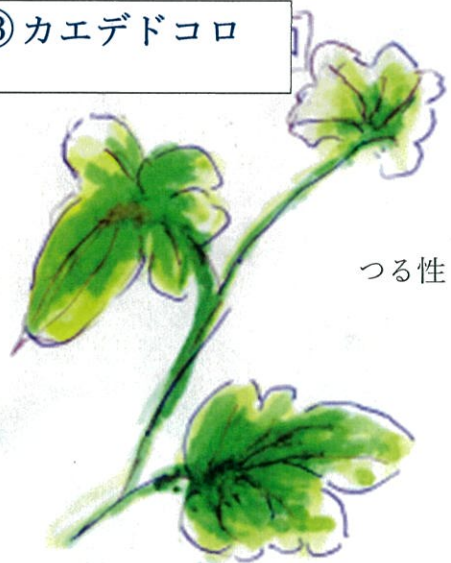
葉に毛がある
奇数羽状複葉で
互生
ハゼに比べ丸み
あり

⑫ ハゼ



葉 無毛
光沢
鋭角
対生

⑬ カエデドコロ



つる性

⑭ ヒサカキ

葉に鋸齒、光沢あり 互生

実は八角と似ているが日本
のヒサカキには毒がある。

日本の
ヒサカキ

⑮ ソヨゴ (冬青)



鋸齒はなく少し波打
ち
風に吹かれると葉が
擦れる音がすること
から「ソヨゴ」と命名

⑳ コツクバネウツギ
(小衝羽根空木)

葉 鋸齒、
対生

萼片が2枚で5枚
のツクバネウツ
ギ特区别できる。



⑲ シヤシャンボ

ブルーベリーのような
実ができ食べられる



⑯ コバノガマズミ

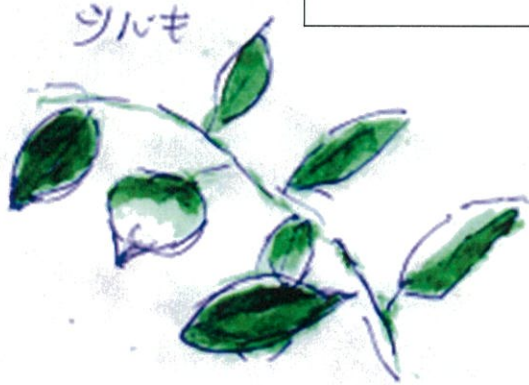
葉 鋸齒、
対生
両面に星状の毛



小さな鋸齒
葉の裏にとげがある。

人のうしろ
とけり

⑰ ツバキ 鋸齒



ツバキ

⑱ ムラサキシキブ

花も実も上向き

花は上向き



21クサギ

葉をもむと独特
の臭気



22展望台



23駐車場への道はどこだ！

24カゴノキ

光沢 互生 ギザなし

樹皮
キウキ



25カスミザクラ

鋸歯
互生



樹皮がかの子状

- ・葉柄に毛がある。
 - ・ヤマサクラの後1~2週間遅れて咲く。
 - ・ヤマサクラに比べ少し白い。
- '21.4/2 西宮北山貯水池より

マフイとマク

タコムン



26タマムシ

	しゃわせの村	漢字	花・実
	8月4日	快晴	
1	ヤマコウバシ	クスノキ科	
2	ヤブムラサキ	シソ科	
3	クスノキ	クスノキ科	
4	ネズミモチ	モクセイ科	
5	サルトリアバラ	バラ科	
6	ナツハゼ	ツツジ科スノキ	
7	コナラ	ブナ科	
8	ネジキ	ツツジ科	
9	コバノミツバツツジ	ツツジ科	
10	イヌツゲ	ツゲ科	
11	ヤマウルシ	ウルシ科	
12	ハゼ	ウルシ科	
13	カエデドコロ	ヤマノイモ科	楓野老

14	ヒサカキ	サカキ科	
15	ソヨゴ	モチノキ科	冬青
16	コックパネウツギ	ユキノシタ科	
17	シャシャンボ	ツツジ科	
18	コバノカマズミ	スイカズラ科	小葉蒲染
19	ツバキ	ツバキ科	
20	ムラサキシキブ	シソ科	
21	クサギ	シソ科	
22			
23			
24	カゴノキ	クスノキ科	鹿子の木
25	カスミザクラ	バラ科	

2022年4月15日 三木山森林公園



①アブラゼミ



②イヌツゲ



③カエデドコロ



④クサギ



⑤クサギ



⑥コックバネウツギ



⑦コバノミツバツツジ



⑧サルトリイバラ



⑨ナツハゼ



⑩ソヨゴ



⑪タマムシ



⑫ネジキ



⑬ネズミモチ



⑭ヒメアカネ



⑮ヒサカキ



⑯ムラサキシキブ



⑰ヤブニッケイ



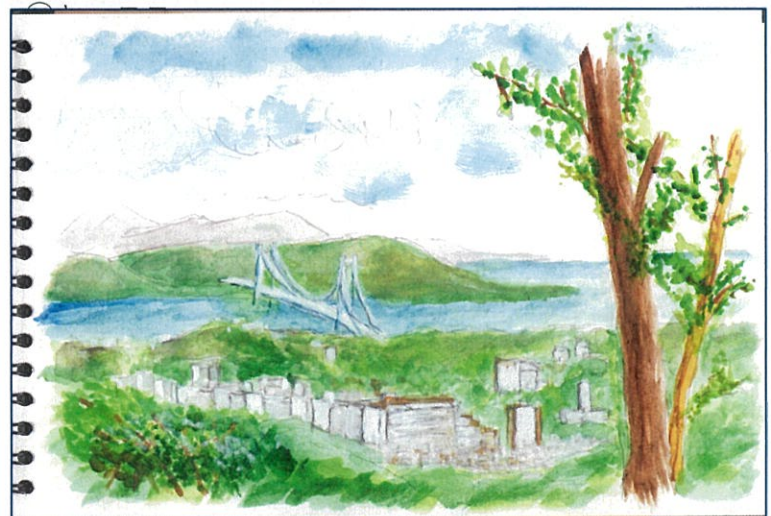
⑱モチツツジ



⑲ヤブツバキ



⑳





「武田先生と里山を歩こう会」活動報告書

活動年月 2023年9月1日(金)

報告者 梶谷孝司

活動場所 兵庫県立有馬富士公園

参加者 12名

参考記録 活動時間 約 6時間(10:00から14:00) 歩行数 約10000歩 標高差 約80m

天候 曇り時々晴 最高温度 31℃

有馬富士公園概要

県下最大の都市公園で、有馬富士・福島大池及び千丈寺湖を中心に現在開園しているのは、出会いのゾーン(福島大池を中心)・休養ゾーン・山のゾーンの面積 178.2h とシンボルゾーン(有馬富士を中心とした有馬富士森林公園 [三田市管理])46ha 及び現在整備中の森林部含め面積 416.3ha の広さです。三田市のシンボルである有馬富士は「有馬富士麓の霧は海に似て海の波かと聞けば小野の松風」と花山法皇御製にもみられるように優美な山稜を人々に愛された山ですが、松くい虫やひょう害で大きな被害を受けたため、元の緑の山に戻すよう、福島大池も含め修景整備を行いその後、千丈寺湖も含む 416ha が自然休養大型規模都市公園として整備されました。

活動概要

新三田駅を出発し福島地区から有馬富士公園内の福島大池を源とする小川に沿って道端や雑木林の植物・昆虫等の観察説明を受けながら進む。気温 30℃超える厳しい残照であったが全員無事に福島大池に到着。昼食後、大池の周辺の植物を観察しながら途中、茅葺民家で休憩しつつ福島大池周辺の観察説明を受けながら1周。最後にパークセンターに立ち寄り休息、その後解散し路線バスで三田駅に向かった。



上列(左から)
加藤さん、佐々木さん、大巻、野村さん、大田さん、福田さん
下列(左から)
梶谷、梅田さん、野村さん、武田先生、上野さん



1	ヒレタゴボウ (緒田牛蒡) ⑳	アカバナ科	チョウジタデ属	1年草 外来種 花期8~10月 水田・湿地などに自生 茎(断面四角形 葉の付く下部に翼あり) 葉(互生) 花は黄色 果実は4稜の円筒形。
2	アメリカタカサブロウ (亜米利加高三国)	キク科	タカサブロウ属	1年草 外来種 花期9~10月 茎(伏した剛毛あり 紫褐色) 葉(対生 細長い有毛) そう果(周りに翼無し) 頭花は白色
3	ユウゲショウ (夕化粧) ㉑	アカバナ科	マツヨイグサ属	多年草 外来種 花期5~9月 薄紅色の直径1cmの花をつける。花弁は丸く紅色の脈が目立つ雄蕊は8個で葯は白色。
4	アレチノヌスビトハギ (荒地盗人萩)	マメ科	アコウマイハギ属	多年草 外来種 花期7~10月 道端、空き地に生え、茎の先端や上部の葉の付け根から花序を出し紅色の花をつける。果実は5-6個でひっつき虫。
5	ケイヌビエ (毛犬稗)	イネ科	ヒエ属	1年草 花期8~10月 花穂は10~25cm細長い円錐形で穂が垂れ下がり小穂には長い毛(芒)がある。
6	イヌビエ (犬稗)	イネ科	ヒエ属	1年草 花期8~10月 花序は10~25cmで短い枝を多数だし緑色の子穂を密につけ芒は目立たない。
7	イヌツゲ (犬蓼)	モチノキ科	モチノキ属	常緑低木 葉(互生 厚みのある革質) 雌雄異株 押し本標本にして乾燥させると葉が黒くなる ツゲ(ツゲ科 葉対生)とは別種
8	チョウジタデ (丁子蓼) ㉒	アカバナ科	チョウジタデ属	1年草 花期8~10月 直径6~8mmの黄色の花をつける。葉は3~10cm幅1~2cmの披針形、表面は側脈が目立ち秋には紅葉する。
9	キンエノコロ (金狗尾草)	イネ科	エノコログサ属	1年草 花期8~10月 日当たりの良い道端や畑、田のあぜなどに普通に生えている。花序は3~10cmで小穂には黄金色の剛毛が密生している。
10	ハキダメギク (掃溜菊) ㉓	キク科	コブメギク属	1年草 外来種 花期6~11月 茎は2岐を繰り返す、葉は対生し、卵型~卵状披針形で波状の浅い鋸歯がある。上部の枝先に頭花を1個つける。
11	マルバアサガオ (丸葉朝顔)	ヒルガオ科	サツマイモ属	つる性1年草 外来種 花期7~9月 葉は互生し7~13cmの心形で先端は急とがる。花は5~8cmの漏斗形で紅紫色、赤、青、白色がある。
12	センニンソウ (仙人掌) ㉔	キンボウゲ科	センニンソウ属	つる性半低木 花期8~9月 花は長径2~3cmで上向きに咲く白い花弁のように見えるのは萼片で4個あり十字形に開く。花弁はなく萼片が花弁に見える。
13	ネムノキ (合歓木)	マメ科	ムネノキ属	落葉高木樹 先駆植物 花期6~7月 淡紅色の花で10~20個集まり頭状花序。夜になると小葉が閉じて垂れ下がる就眠運動を行う。
14	ノブドウ (野葡萄) ㉕	ブドウ科	ノブドウ属	つる性木本 花期7~8月山地や野原などに生える。花は直径3~5mm黄緑色の5弁。果実は淡紫色から青色に変化。虫が寄生すると肥大不整形になる。
15	モッコク (木斛)	モッコク科	モッコク属	常緑高木 花期6~7月 花は白色から黄色に変化し下に向けて咲き芳香を放つ。庭園、公園によく植えられる。江戸5木として「庭木の王」と称される。
16	ジュズダマ (数珠玉) ㉖	イネ科	ジュズダマ属	多年草 外来種 花期9~11月 水辺に多く群生する。草丈1~2mになる。果実は硬くて光沢があり昔はつないで数珠の玉に。食用品種はハトムギ。
17	アベマキ (阿部楨)	ブナ科	コナラ属	落葉高木 在来種 雌雄同株雌雄異花 花期4~5月樹皮は灰黒色でクルク層が発達。葉はクヌギに似るが裏は星状毛があり白ぼっく見える。
18	シンテッポユリ (針鉄砲百合) ㉗	ユリ科	ユリ属	外来種扱い。花期7~11月 タカサゴユリとテッポウユリの交配種。繁殖力が高く自然景観を改変する。在来種のユリとの交雑が心配。
19	イブキシモツキ (伊吹下野) ㉘	バラ科	シモツケ属	落葉低木 花期4~6月 雌雄異株 日当たりの良い山地の岩場に生える。枝先に散房花序をつける花弁は5個で白色。
20	チョウセンガリヤス (朝鮮刈安) ㉙	イネ科	チョウセンガリヤス科	多年草 花期7~11月 日当たりの良い乾燥気味の草地・岩場に生育 茎は直立叢生で細いが硬い 薄紫色の小穂をつける
21	アキノタムラソウ (秋の田村草) ㉚	シン科	アキギリ科	多年草 花期7~11月 野原に普通に生える。細長い穂を伸ばして薄紫色の花が咲く。雑草的な性質で刈っても再び根元や茎から枝を出し花を咲かせる。
22	クワイ (慈姑)	オモダカ科	オモダカ属	水生多年草 塊茎を食用し正月のお節料理。世界中の温帯から熱帯まで広く生えているが、食用に栽培しているのは中国と日本だけ。
23	ハス (蓮) ㉛	ハス科	ハス属	水生多年草 インド原産 花期7~8月 花は白色又はピンク色。地中の地下茎から茎を伸ばし水面に葉を出す。地下茎は蓮根として食用。
24	セリ (芹) ㉜	セリ科	セリ属	多年草 日本原産 花期は8月頃 水田の畦道、湿地などに生える。独特の香りと歯触りに特徴。春の七草の一つ。食用栽培は野生種から選抜し栽培。
25	ヤマボウシ (山法師) ㉝	ミズキ科	ミズキ属	落葉高木 花期5~7月 初夏を代表する花木。花弁のように見える白色は総苞片をつけて咲く。山林等に自生するが街路樹として植えられる。
26	オミナエシ (女郎花) ㉞	オミナエシ科	オミナエシ属	多年草 花期8~10月 茎の上部で分枝して花茎の先端に黄色い小花を平らな散房状に多数咲かせる。秋の七草の一つ。
27	ナガバノコウヤボウキ (長葉の高野紡帯) ㉟	キク科	コウヤボウキ属	落葉小低木 花期8~10月 やや乾燥した山林の疎林の下で生育し、蛇紋岩に多い。白い頭花は2年生の枝の東生した葉の中央に咲く。
28	ハンノキ (榛の木) ㊱	カバノキ科	ハンノキ属	落葉高木 花期11~4月 水辺を好湿地や水田耕作放棄に繁殖。葉に先立ち単性花をつける。雌雄同株。 果実は松かさ状で1~5個漬ける。
29	ニセアカシア (針槐)	マメ科	ハリエンジュ属	落葉高木 外来種 花期5~6月 マメ科特有の根粒菌を持ちやせた土地でもよく育つ。本年枝の葉腋から白色の総状花序をだし蝶形花を下垂する。

30	ナツフジ (夏藤)	マメ科	フジ属	つる性落葉木本 花期7~8月 花は薄黄色の蝶形花で総状花序が垂下る。果実は豆果で熟すると種子を飛ばす。
31	アオフキ (蔞)	キク科	フキ属	多年草 日本原産 花期3~5月 雌雄異株 早春の花茎をフキノトウという。山野に生え春の山菜。地下茎から多くの葉柄を出す。食用として栽培。
32	ナツハゼ (夏樺)	ツツジ科	スノキ属	落葉低木 花期5~6月 夏にハゼノキのように紅葉を見せる。新枝の先端に総状花序を出し多くの花を下向きに咲かせる。
33	ウリカエデ (瓜楓) ㉔	ムクロジ科	カエデ属	落葉小高木 日本原産 花期4~5月 低山や林縁・林道脇やや乾燥した尾根筋等の明るい場所に生育。花は薄緑色で総状花序を有花枝の先端から下垂。
34	ツクバネウツギ (衝羽根空木)	スカイカズラ科	ツクバネウツギ属	落葉低木 花期5~6月 丘陵地や山地に生育。枝の先端から共通花柄を出し普通2つ花をつける。花冠は鐘状漏状形で白色・黄白色・ピンク色がある。
35	オギ (荻)	イネ科	ススキ属	多年草 花期9~10月 河川敷など湿地に群落。ススキに似ているが、オギは地下茎で広がり株立しない(ススキは束状で株立) オギには芒が無い。
36	エゴノキ	エゴノキ科	エゴノキ属	落葉高木 花期5~6月 山野や山麓の雑木林に多い。一つの枝の先に複数の白い花を下向きに咲かせる。果実を石鹸の代用や魚毒性のサポニンで魚取り。
37	アゼムシロ (畦筵) ①	キキョウ科	ミゾカクシ属	多年草 花期6~10月 水田によく見かける水田座雑草。茎は横に違い節ごとに葉を付け根を下ろすので駆除しがたい。花は白色から薄紫色がある。
38	ミヤマガマズミ (深山莢蒾)	レンプクソ科	ガマズミ属	落葉低木 花期5~6月 標高30~1400mの丘陵や山地の樹林内に生育。枝先に1対の葉と散房花序をつけ白色の花を密に付ける。果実は暗赤色に熟する。
39	ヘビイチゴ (蛇苺)	バラ科	キジムシロ属	多年生の草本 花期4~6月 畦道・野原などの湿った草地に自生。黄色の花を漬ける。果実を多数つけ苺に多少似た果実になる。(偽果)
40	アオツツラフジ (青葛藤)	ツツラフジ科	アオツツラフジ属	つる性落葉木本 雌雄異株 花期7~8月低地の草原・山地に生え都市部の道端に生える。枝先に円錐花序が出て淡黄色・黄白色の花を付ける。有毒植物
41	ヘクソカズラ (屁糞葛) ⑧	アカネ科	ヘクソカズラ属	つる性多年草 花期7~8月 日当たりの良い山地・野原・公園・道端に自生。夏に中心部が紅赤色の白い花をが咲く。茎・葉に傷を付けると悪臭を放つ。

昆虫及び爬虫類

1	ヒメアカネ ⑦	トンボ科	アカネ属	未熟な雌雄とも体色は黄褐色、成熟すると雄は腹部が赤化し顔面は白くなる。雌は成熟しても背面の橙色が濃くなる程度。
2	コガタズメバチ	ズメバチ科	ズメバチ属	全国に分布。住宅地の庭木・公園等にも生息。手足が黒く胴体はオレンジ色と黒色の太い縞模様が特徴。
3	キオビッチバチ ⑤	ツチバチ科	ツチバチ属	全国に分布。全体に黒っぽく腹部に1対の黄色斑紋が特徴。成虫は訪花し蜜を吸う。コガネムシの幼虫に産卵寄生する。
4	キイロスズメバチ ④	ズメバチ科	ズメバチ属	体全体的にオレンジ色味の強い黄色、飛んでいるときは縞模様の蜂よりは黄色一色に見える。軒下・屋根裏；橋の下部等身近な人工的な場所に営巣。攻撃的で集団で襲くことも。
5	オオスズメバチ ⑧	ズメバチ科	ズメバチ属	全国に分布。頭部はオレンジ色、胸部は黒い、腹部は黄と色の縞模様、翅は茶色。強力な毒と高い攻撃性から非常に危険な蜂。
6	アサマイチモンジ ③	タテハチョウ科	オオイチモンジ属	名の通り前翅・後翅を通り反対の前翅に一条の白斑列が並ぶ。広葉樹林・草原に生息。スカイカズラに卵を産みつける。
7	トノサマガエル	アカガエル科	トノサマガエル属	平野部から低山かけての池・水田に生息。体色は雄が背面が茶褐色か緑色、雌は灰白色。背中に白か黄色の明確な背中線がある。
8	ニホンヒキガエル	ヒキガエル科	ヒキガエル属	低山から山地の森林・草原・農耕地・民家の庭などに生息。体色は褐色・黄褐色等、体側面に赤い斑点の個体も多い。有毒種。
9	ツチガエル	アカガエル科	ツチガエル属	水田・池・川・湿地の淡水域に生息。背中に灰褐色・黒褐色のまだら模様、腹は黄褐色、背中には大小のイボ突起がある。

2023/9/1 有馬富士公園 (追加分)

1	ハシカグサ ④⑬	アカネ科	ハシカグサ属	1年草 草丈30~40cm 道端の木陰に生育 茎・葉とも柔らかく全体に軟毛あり 葉(対生 標本にすると黒く変色する) 花(小さい4裂の白花 萼に長毛) 名前の由来は葉が枯れる過程での色の変化がハシカの発疹がかさぶたになるまでの変化に似るため
2	アワブキ	アワブキ科	アワブキ属	落葉高木 枝を燃やすと切り口から泡を吹き出すことからの名 葉(互生 薄手 大きさ20cm) 花(雌雄同株 枝先に円錐花序を出す) 果実(赤色)
3	マコモ	イネ科	マコモ属	多年草 水辺に群生 花(雄花は黄緑色 雌花は紫色) マコモダケ(食用・染料) 出雲大社の「マコモの神事」
4	ヒメガマ	ガマ科	ガマ属	多年性の抽水植物 草丈1.5~2m 葉(線形) 花(直立した花茎に茶色の雄花群と雌花群を離れてつける) 薬用
5	コウヤボウキ	キク科	コウヤボウキ属	落葉小低木 樹高60~90cm 葉(毛が多い 鋸歯が5対以上) 1年目の枝(花が付き葉は互生) 2年目の枝(花が付かない)
6	タカサブロウ	キク科	タカサブロウ属	在来種 タカサブロウの方が①平均的に花が大きく花柄が長め ②総苞片の幅が広い ③そう果に翼あり ④葉は気持ち短め
7	ガガイモ ⑭	キョウチクトウ科	ガガイモ属	つる性多年草 つる(右巻き) 葉(対生 葉脈が目立つ) 花(長柄の先に集散花序 淡紫色~白色 5深裂 毛が密生) 食用・薬用 根茎に毒成分あり
8	オニグルミ	クルミ科	クルミ属	落葉高木 湿気が多い山野の川沿いなどに生育 葉(互生 大型の奇数羽状複葉 表面無毛 裏面星状毛) 雌雄同株 核果 材・染料・食用・薬用・タイヤに使用
9	アオウキクサ	サトイモ科	アオウキクサ属	1年草浮遊植物 水面に生育 葉状体と根からなる 秋になると葉状体は枯死し種子で越冬、5~6月に種子から発芽した幼体が見れる
10	ショウガ	ショウガ科	ショウガ属	多年草 熱帯アジア原産 日本では奈良時代から栽培 暖地や温室で栽培 根茎(多肉 淡黄色) 花(黄色 花が咲くのはインドでも珍しい) 食材・生薬
11	ネジキ	ツツジ科	ネジキ属	落葉小高木 樹皮全体に入る繊維が成長に伴って螺旋状に捻じれることからの名 有毒植物 花(一列に並んで下向きに咲く) 実(上向きに付く)
12	カマカツの実	バラ科	カマカツ属	落葉小高木 材が緻密で非常に堅く鎌の柄に使われたことからの名 葉(長い枝は互生 短い枝には束生) 花(10~20個の半球状 白色5弁花) 実(赤色 生食可)
13	ヒガンバナ ⑮⑯	ヒガンバナ科	ヒガンバナ属	多年草の球根植物 草丈30~60cm 中国原産 湿った場所に生育 花(葉よりも先に花茎をだし真っ赤な6弁花を咲かす) 葉(線形 ロゼット状で越冬 初夏に枯らす) 日本のヒガンバナは種子を作らず分球して繁殖 有毒植物
13	ネズミサシ	ヒノキ科	ビャクシン属	常緑針葉樹 別名ネズ 硬い針葉を鼠除けに使っていたことからの名 葉(3本1組で異なる方向に伸びる 断面逆三角形 白い気孔帯) 花(雌雄異株) 薬用・ジンの材料
14	コナラ	ブナ科	コナラ属	落葉高木 葉(長さ1cm程の葉柄 互生 長楕円形独特の形 尖った鋸歯) 雌雄同株 ドングリ(1年で熟す) 染料・食用・薪・材
15	イヌザンショウ ⑰	ミカン科	サンショウ属	落葉低木 枝の棘(互生) 葉(奇数羽状複葉 長細い 鋸歯細かい) 花(雌雄異株 夏に淡緑色の小花 花弁と萼片5枚ずつ) 食用・薬用
16	サンショウ	ミカン科	サンショウ属	落葉低木 木の棘(対生) 葉(芳香強い 奇数羽状複葉 鋸歯大きく粗い) 花(雌雄異株 開花4~5月 淡黄色の小花 萼無し) 果実(雌株に赤く熟す) 生薬・食用
17	コブシ ⑱	モクレン科	モクレン属	落葉高木 葉が展開する前に先駆けて大きな白い花をつける 葉(互生) 花(3枚の萼片 6枚の花弁 基部に葉が1枚付く) 薬用・食用・飲用・材
18	シダレヤナギ	ヤナギ科	ヤナギ属	落葉高木 中国原産 湿地に繁茂する 日本には奈良時代に渡来 枝(多くの光を天空だけでは無く池沼からも受けるために垂れ下がる) 葉(互生) 種子(柳絮) 陽樹

動物界

1	ハグロトンボ ①	カワトンボ科	アオハダトンボ属	大きさ53~68mm 細長く黒っぽい翅を持ったヒラヒラと飛ぶトンボの胴体金緑色 ♀黒色 水生植物の生えたゆるい流れを好む
2	オオンオカラトンボ	トンボ科	シオカラトンボ属	大きさ51~61mm シオカラトンボを立派にしたようなトンボ 体色(♂濃い目の水色 ♀くすんだ黄色)
3	シオカラトンボ	トンボ科	シオカラトンボ属	大きさ49~60mm 体色(♂成熟して水色 ♀茶色、俗にムギワラトンボといわれる)
4	モンクモバチ ②	クモバチ科	?	大きさ10~20mm 雄雌で色彩が大きく異なる(♂黒 ♀橙色) 花の蜜が餌 幼虫は土中の巣穴で親が狩ったクモを食べる
5	セスジズメバチ ⑥	ズメバチ科	ズメバチ属	?

植物写真



①アゼムシロ

②ジュズダマ

③ハキダメギク

④ハシカグサ



⑤ハス

⑥ハンノキ

⑦フジ

⑧ヘクソカズラ



⑨ヤマボウシの実

⑩ユゲショウ

⑪イヌザンショウ

⑫コブシ



⑬セリ

⑭センニンソウ

⑮チョウジタデ

⑯チョウセンガリヤス



⑰ナガバナコウヤボウキ

⑱ノブドウ

⑲ハシカグサ

⑳ヒレタゴボウ



㉑アキノタムラソウ

㉒オミナエシ

㉓イブキシモツケ

㉔ウリカエデ



㉕ガガイモ

㉖シンテッポウユリ

㉗ヒガンバナ

㉘ヒガンバナ

昆虫写真



①ハグロトンボ



②モンクモバチ



③アサマイチモンジ



④キロスズメバチ



⑤キオビッチバチ



⑥セスジスズメバチの幼虫



⑦ヒメアカネ



⑧オオスズメバチ

※植物・昆虫写真は
すべて武田先生が
撮影したものです。

